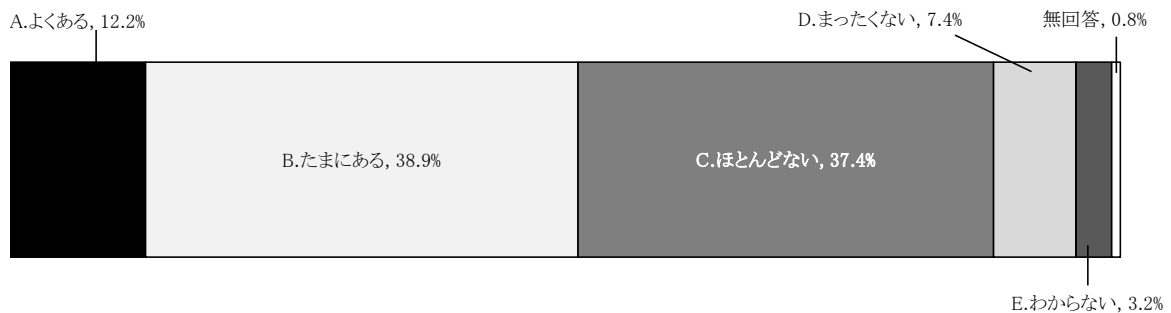


【 調 査 結 果 】

問1（「人権」について自身に関わることとして考えたことがあるか）

あなたは「人権」について、あなた自身に関わることとして考えたことがありますか。（○は1つだけ）

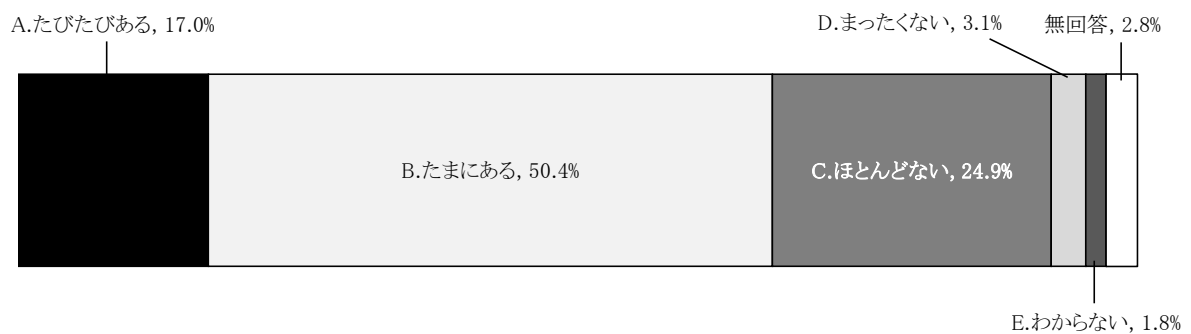


■「人権」について、自身に関わることとして考えたことがあるかどうかについて、「A.よくある」、「B.たまにある」は合わせて 51.1%と、約 5 割の人が人権を自身に関わることとして考えている。また、「C.ほとんどない」、「D. まったくない」は合わせて 44.8%だった。

【参考】 ※設問文、選択肢の文言の一部が前回に比べて異なっているため、参考としてご参照ください。

前回調査(H23 鳥取県人権意識調査)

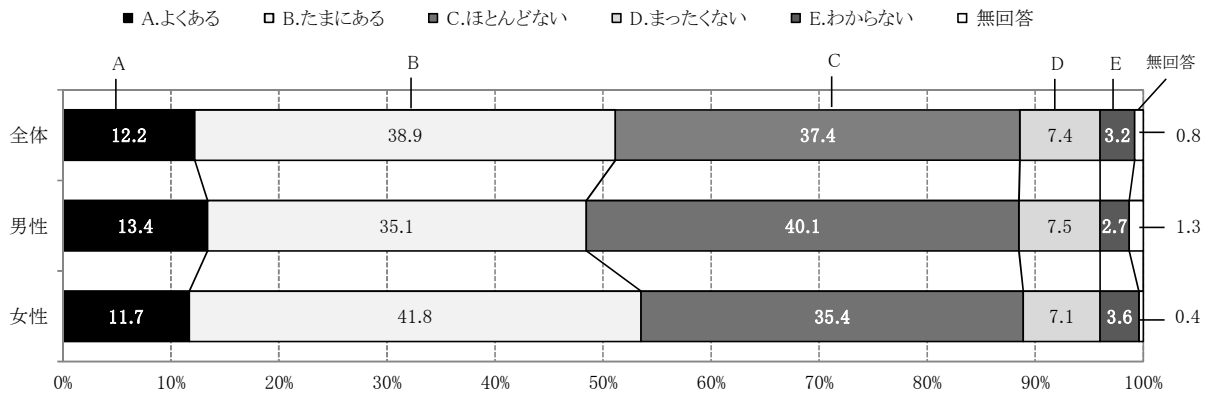
問1 あなたは「人権」について、身近に考えたことがありますか。（○はひとつだけ）



「人権」について、身近に考えたことがあるかどうかについて、「A.たびたびある」、「B.たまにある」は合わせて 67.4%と 6 割を超える人が人権を身近に考えている。また、「C.ほとんどない」、「D.まったくなく」は合わせて 28.0%だった。

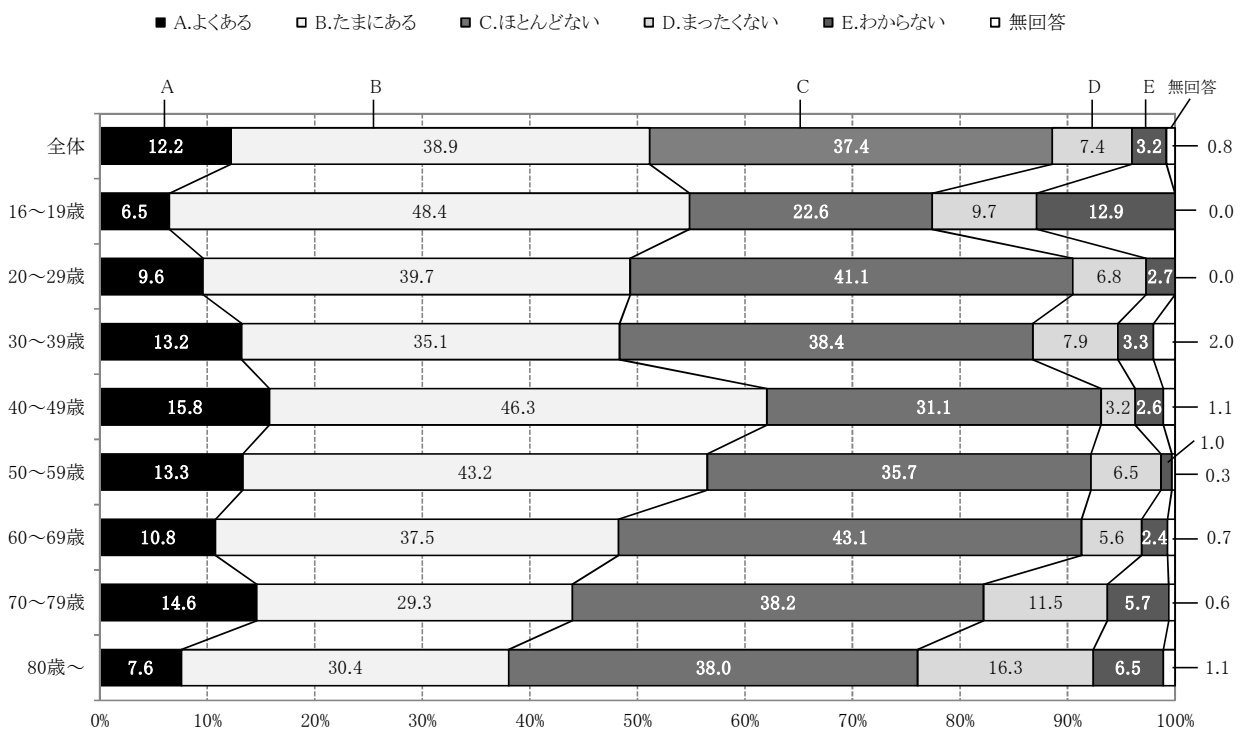
【性別・年齢との関係】

〔図 1-1〕 問1 「人権」について自身に関わることとして考えたことがあるか と 性別 の関係



性別でみると〔図 1-1〕、「A.よくある」、「B.たまにある」を合わせると、男性が 48.5%、女性が 53.5%となっている。また、「C.ほとんどない」、「D.まったくない」を合わせると、男性が 47.6%、女性が 42.5%となっている。

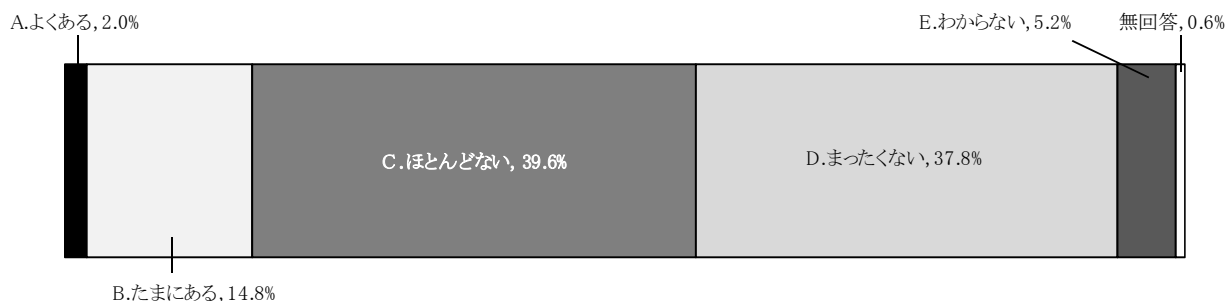
〔図 1-2〕 問1 「人権」について自身に関わることとして考えたことがあるか と 年齢 の関係



年齢別でみると〔図 1-2〕、「A.よくある」、「B.たまにある」を合わせると、40 歳代(62.1%)、50 歳代(56.5%)の割合が最も高くなっている。また「C.ほとんどない」、「D.まったくない」を合わせると、80歳以上(54.3%)、70歳代(49.7%)、60歳代(48.7%)で、他の年代と比べて高くなっている。

問 2-① (人権侵害—被害経験の有無)

過去5年間ぐらいの日常生活の中で、あなた自身が差別や人権侵害を受けたと覚ったことがありま
すか。(○は1つだけ)

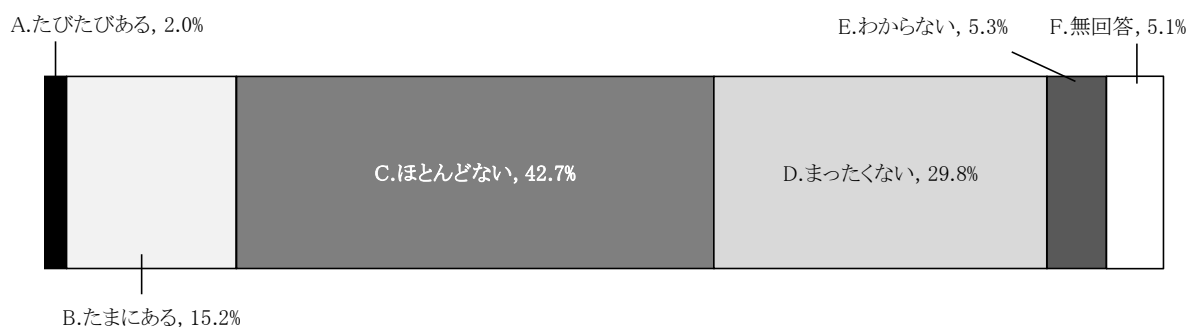


■過去5年間ぐらいの日常生活の中で、差別や人権侵害を受けたことがあるかどうかについて、「A.よくある」、
「B.たまにある」は合わせて16.8%。「C.ほとんどない」、「D.まったくない」は合わせて77.4%と、人権侵害を受け
たことのない人が8割弱となっている。

【参考】 ※設問文、選択肢の文言の一部が前回に比べて異なっているため、参考としてご参照ください。

前回調査(H23 鳥取県人権意識調査)

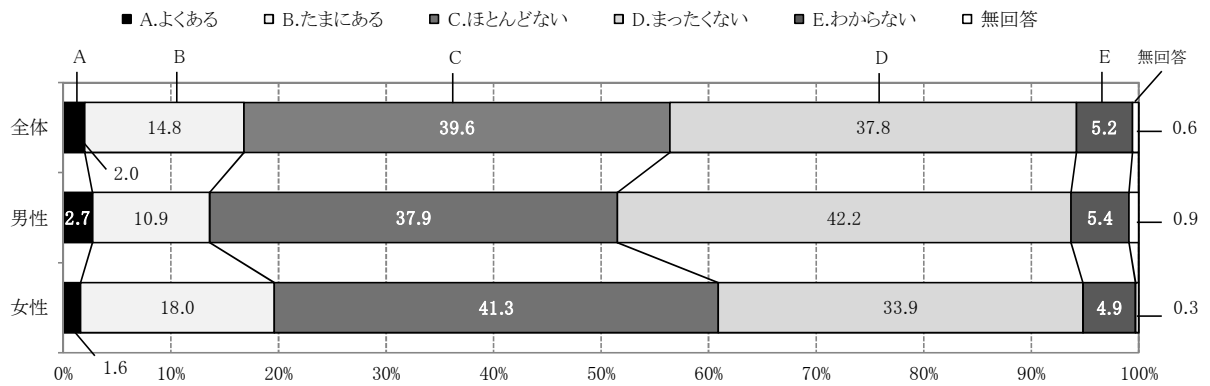
問 2-① 日常生活の中であなた自身が差別や人権侵害を受けたことがありますか。(○はひとつだけ)



日常生活の中で差別や人権侵害を受けたことがあるかどうかについて、「A.たびたびある」、「B.たまにある」は合わせて17.2%。
「C.ほとんどない」、「D.まったくない」は合わせて72.5%と人権侵害を受けたことのない人が7割以上となっている。

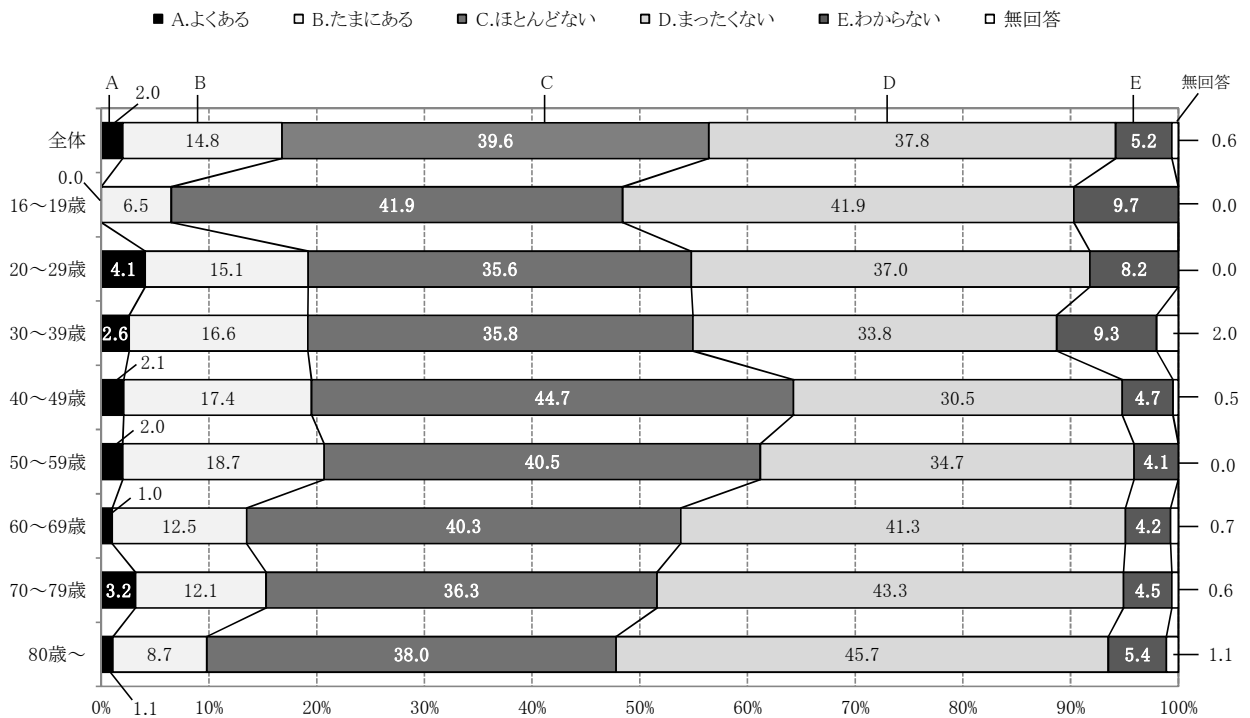
【性別・年齢との関係】

〔図 2-1〕 問 2-① 人権侵害—被害経験の有無 と 性別 の関係



性別でみると〔図 2-1〕、「A.よくある」、「B.たまにある」を合わせると、女性が高く(男性 13.6%、女性 19.6%)、「C.ほとんどない」、「D.まったくない」を合わせると、男性が高くなっている(男性 80.1%、女性 75.2%)。

〔図 2-2〕 問 2-① 人権侵害—被害経験の有無 と 年齢 の関係

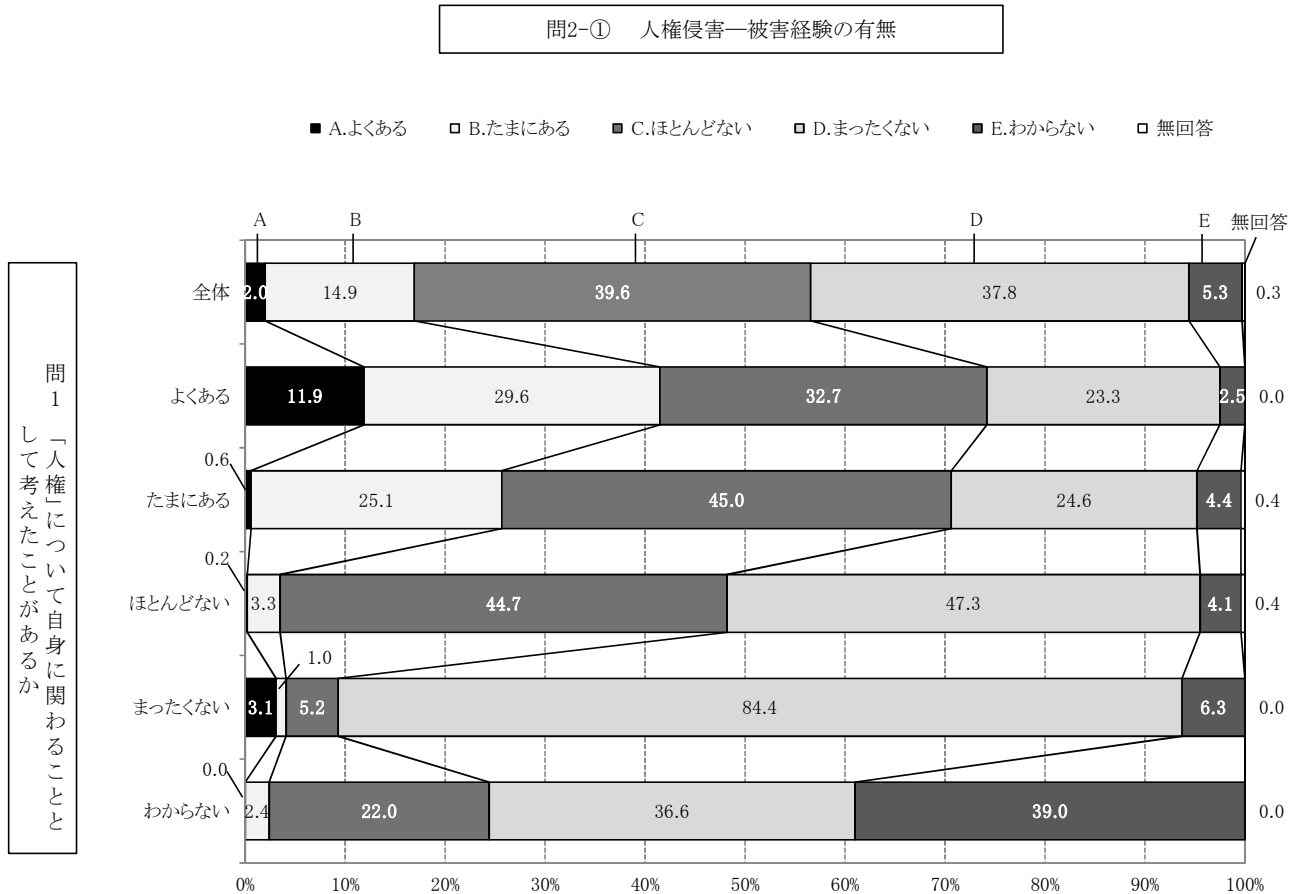


年齢別でみると〔図 2-2〕、20 歳代から 50 歳代では約 2 割の人が、「A.よくある」、「B.たまにある」と回答しているが、16～19 歳(6.5%)、80 歳以上(9.8%)では、1 割に満たなかった。

【他の設問との関係】

〔図 2-3〕 問 2-① 人権侵害—被害経験の有無 と

問 1 「人権」について自身に関わることとして考えたことがあるか の関係

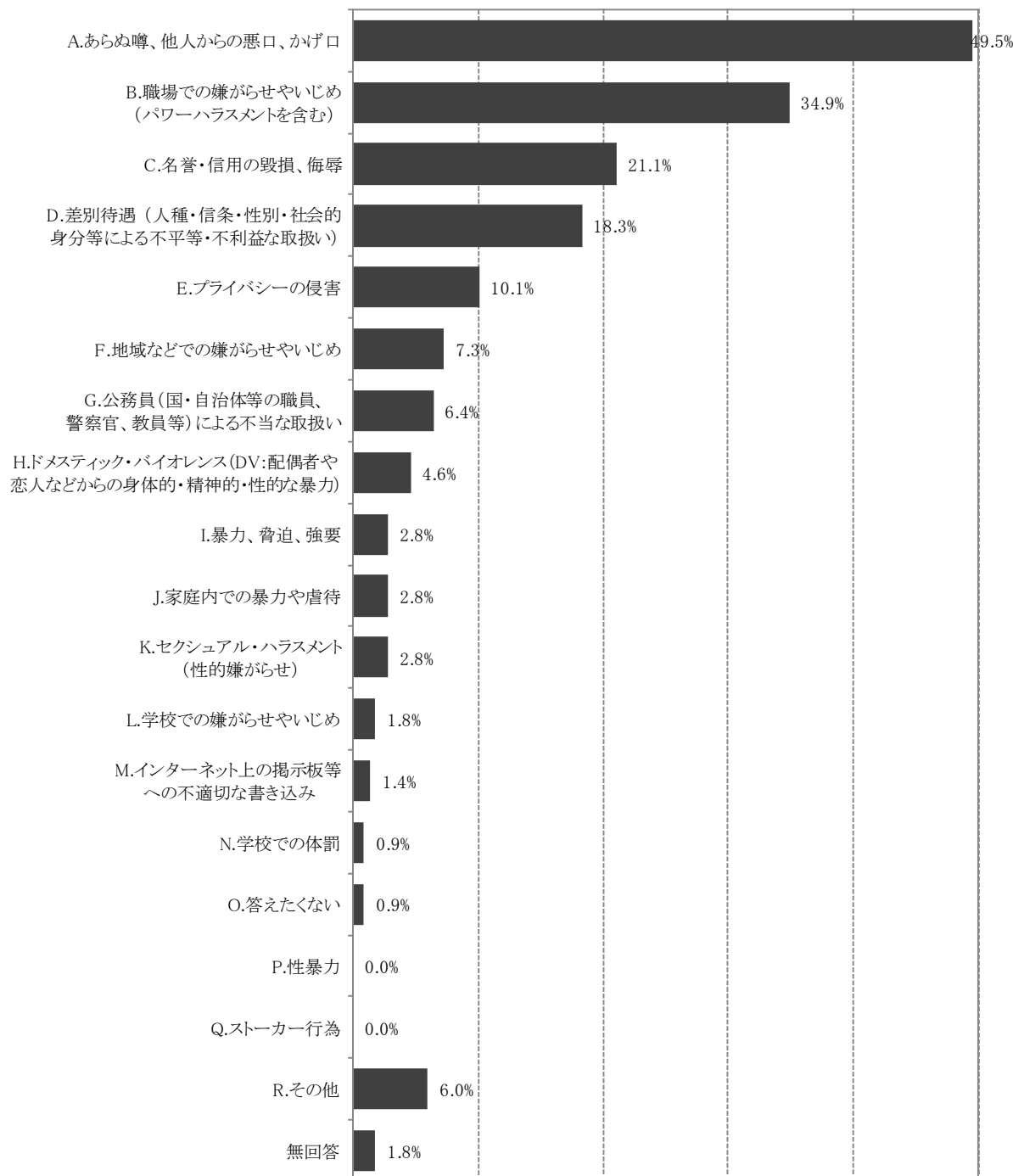


問 1(「人権」について自身に関わることとして考えたことがあるか)との関係では〔図 2-3〕、自身に関わることとして考えたことが「よくある」、「たまにある」と回答した人ほど、人権侵害を受けた経験が「A.よくある」、「B.たまにある」と回答している。

自身に関わることとして考えたことが「ほとんどない」、「まったくない」と回答した人の約 9 割は、被害経験が「C.ほとんどない」、「D.まったくない」と回答している。

問 2-② (人権侵害—被害経験の種類)

問 2-①で「よくある」または「たまにある」を選択された方におたずねします。それはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

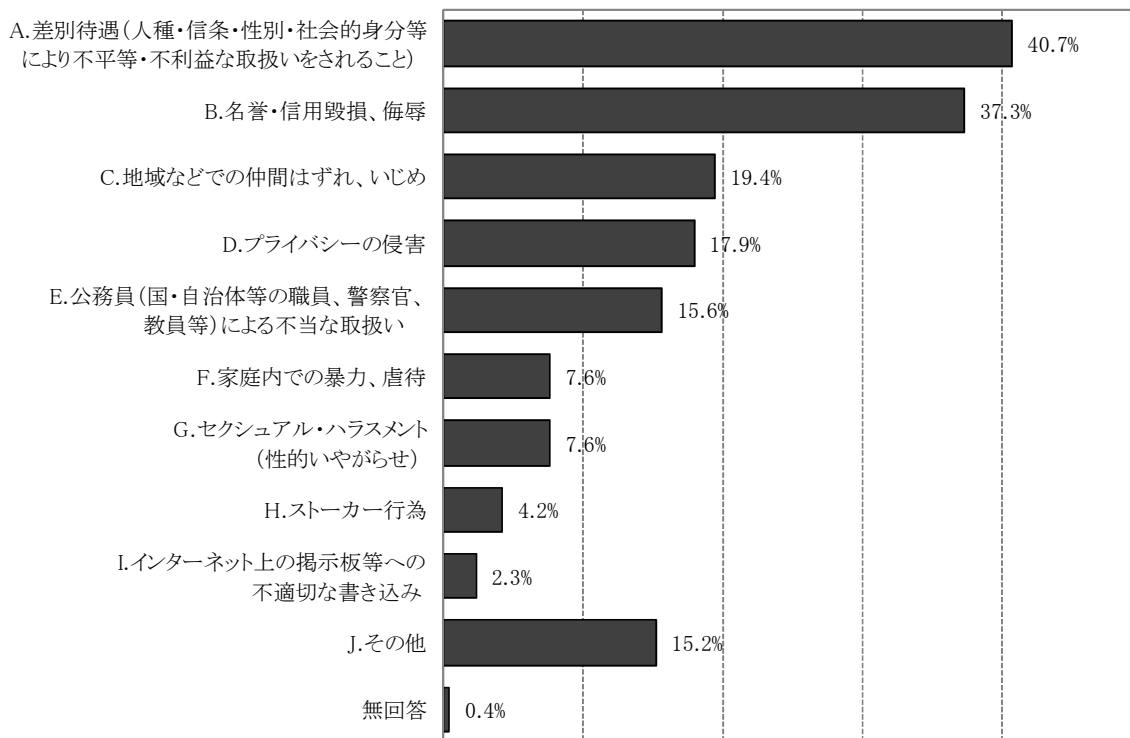


■問 2-①で「よくある」、「たまにある」と回答した人が受けた差別や人権侵害の種類については、「A. あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」(49.5%)が最も高く、次いで、「B. 職場での嫌がらせやいじめ(パワーハラスメント)を含む」(34.9%)となっている。

【参考】 ※設問文、選択肢の文言の一部が前回に比べて異なっているため、参考としてご参照ください。

前回調査(H23 鳥取県人権意識調査)

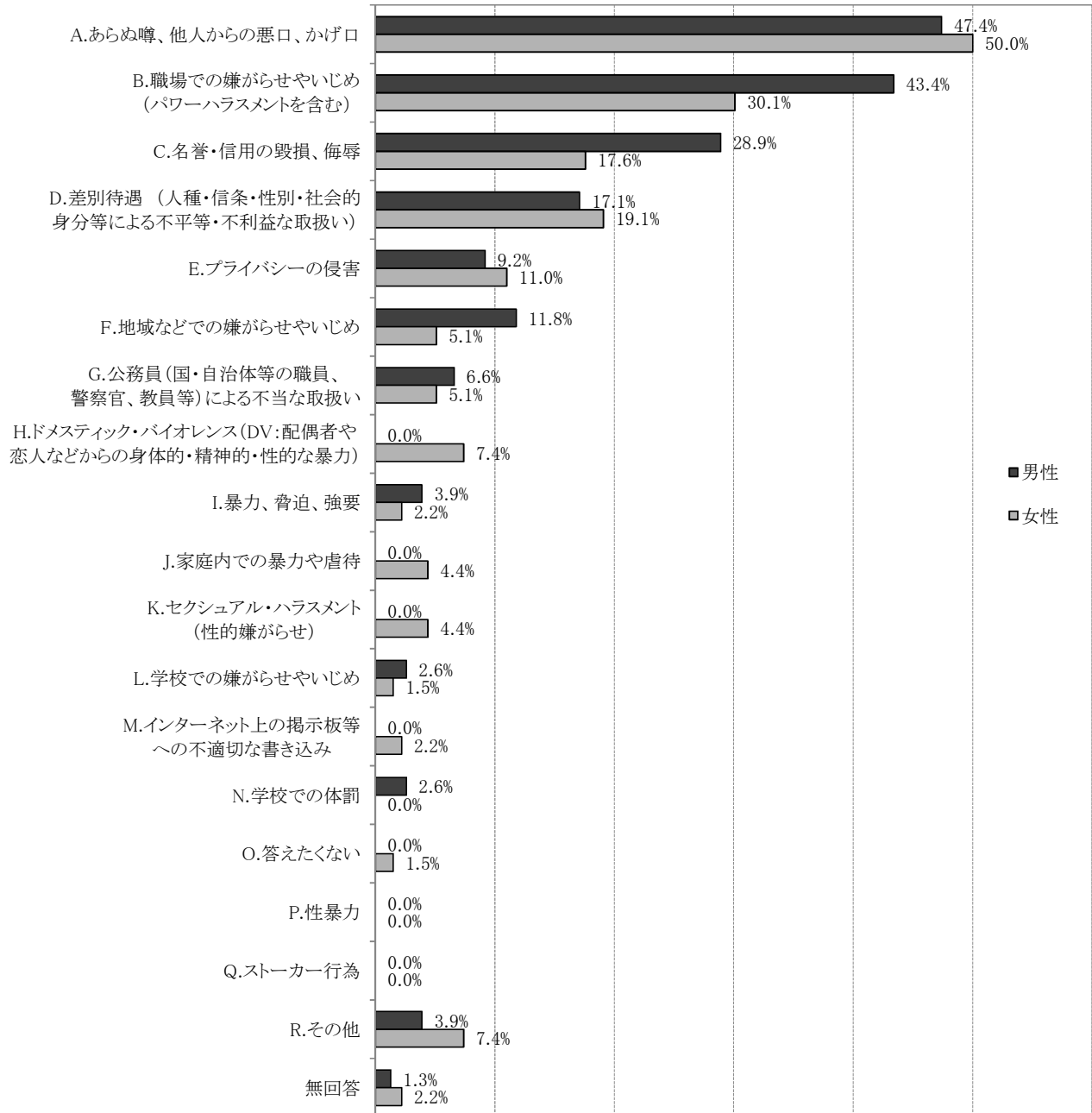
問 2-② 問 2-①で「たびたびある」又は「たまにある」と回答された方におたずねします。特に、差別や人権侵害を受けたのはどのようなことですか。(〇はいくつでも)



問2-①で「たびたびある」、「たまにある」と回答した人の差別や人権侵害の種類について、「A.差別待遇(人種・信条・性別・社会的身分等により不平等・不利益な取扱いをされること)」(40.7%)が最も高く、次いで「B.名誉・信用毀損・侮辱」(37.3%)となっている。

【性別・年齢との関係】

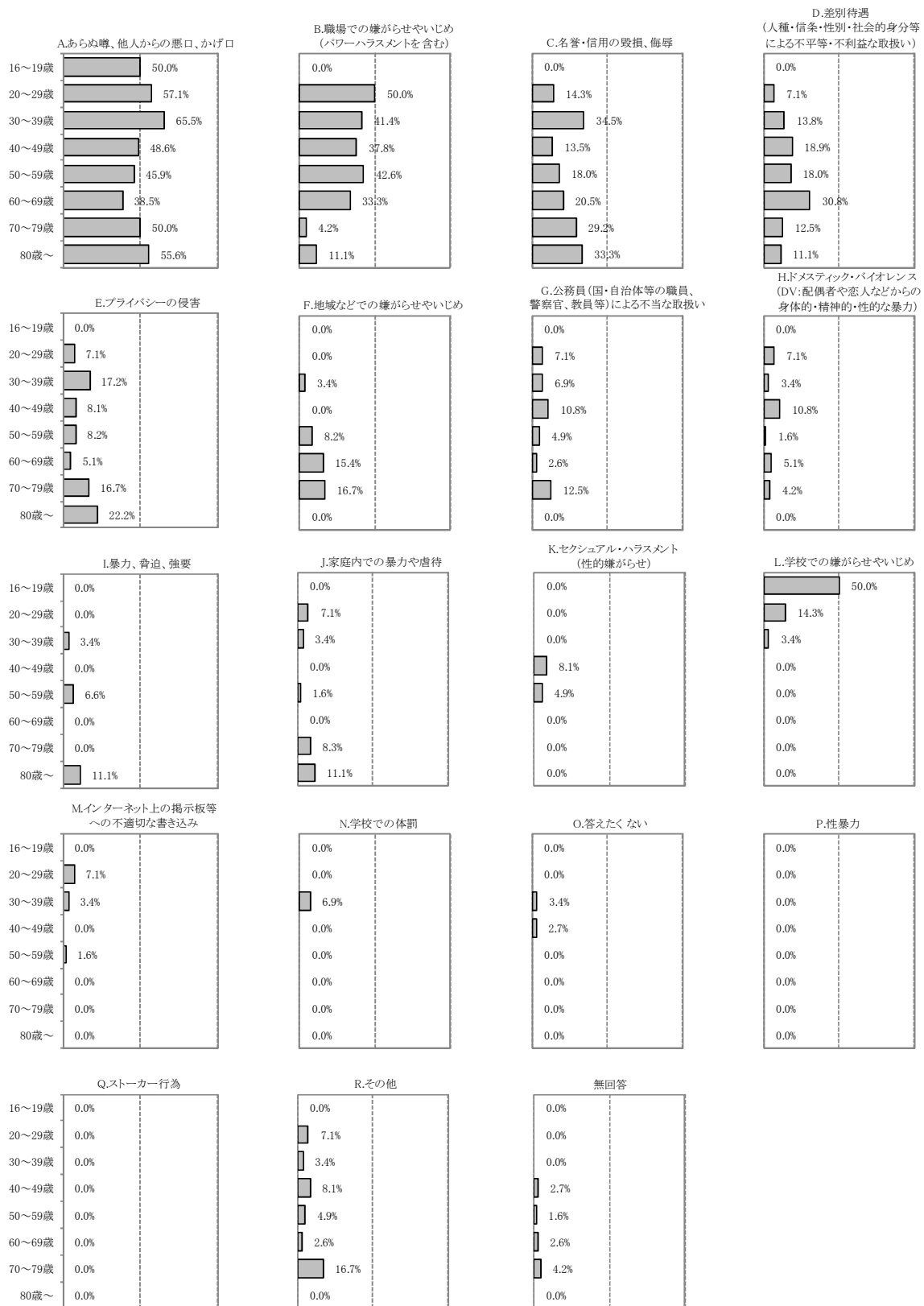
〔図 2-4〕 問 2-② 人権侵害—被害経験の種類 と 性別 の関係



性別でみると〔図 2-4〕、「B.職場での嫌がらせやいじめ(パワーハラスメントを含む)」、「C.名誉・信用の毀損、侮辱」では、男性の方が女性よりも大幅に高くなっている。

「H. ドメスティック・バイオレンス」、「J. 家庭内での暴力や虐待」、「K. セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)」などは、女性だけしか回答がなかった。

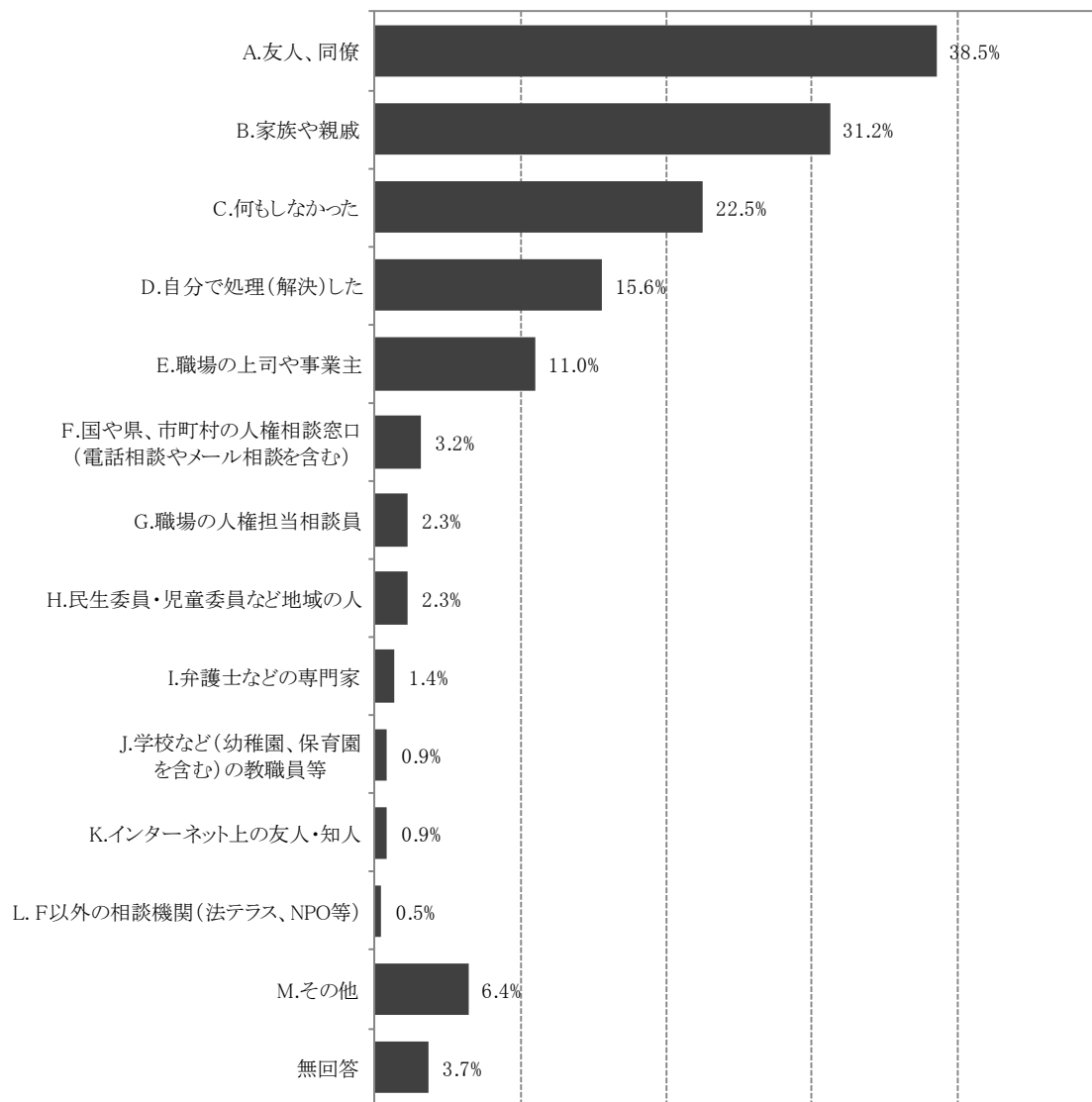
〔図 2-5〕 問 2-② 人権侵害—被害経験の種類 と 年齢 の関係



年齢別でみると〔図 2-5〕、「A.あらかぬ噂、他人からの悪口、かげ口」(65.5%)、「C.名誉・信用の毀損、侮辱」(34.5%)が30歳代で高く、「B.職場での嫌がらせやいじめ」が20歳代(50.0%)で高い。「D.差別待遇(人種・信条・性別・社会的身分等による不平等・不利益な取扱い)」は60歳代(30.8%)が高くなっている。

問 2-③ (人権侵害—被害の相談先)

同じく問 2-①で「よくある」または「たまにある」を選択された方におたずねします。そのことについて、だれかへ相談しましたか。(〇はいくつでも)



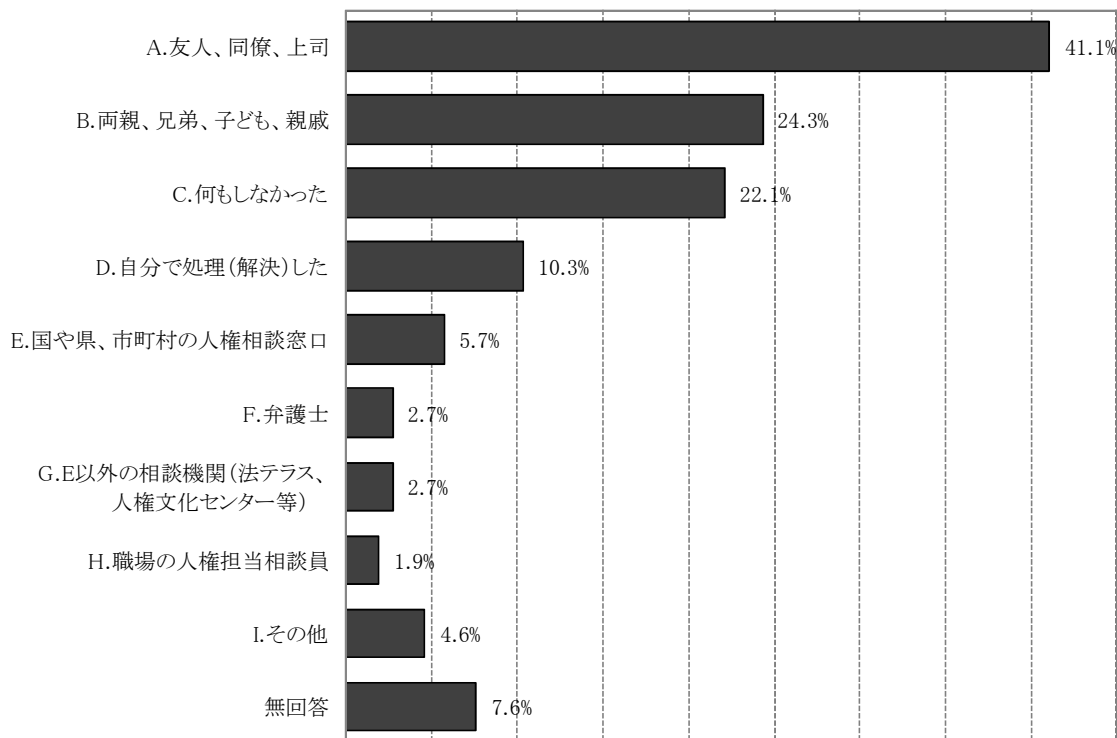
■問 2-①で「よくある」、「たまにある」と回答した人の相談先について、「A.友人、同僚」(38.5%)が最も高く、次いで、「B.家族や親戚」(31.2%)となっている。

次に高いのは、「C.何もしなかった」(22.5%)となっている。

【参考】 ※設問文、選択肢の文言の一部が前回に比べて異なっているため、参考としてご参照ください。

前回調査(H23 鳥取県人権意識調査)

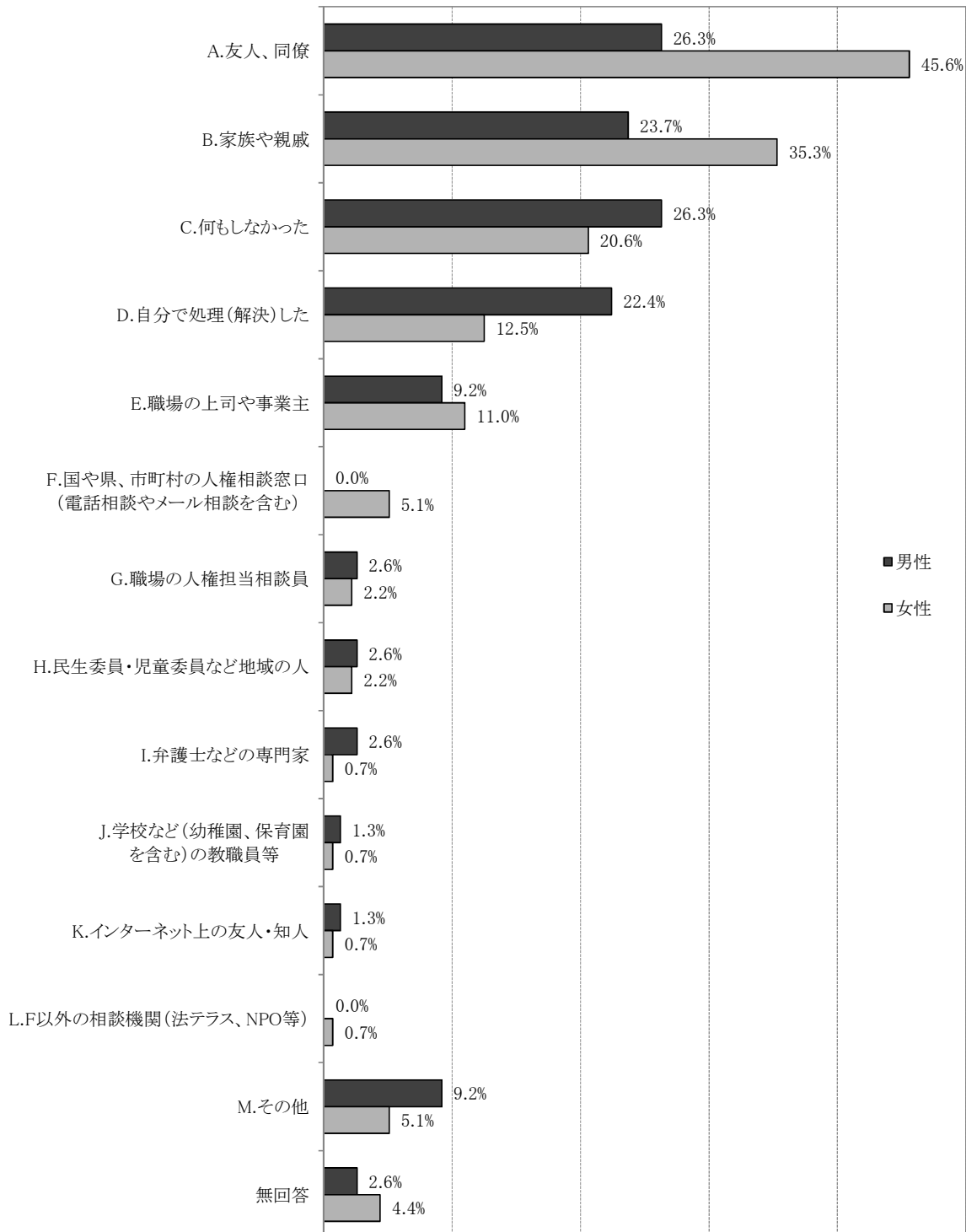
問 2-③ 同じく問 2-①で「たびたびある」又は「たまにある」と回答された方におたずねします。差別や人権侵害を受けたとき、どなたかへ相談されましたか。(〇はいくつでも)



問2-①で「たびたびある」、「たまにある」と回答した人の相談相手について、「A.友人、同僚、上司」(41.1%)が最も高く、次いで「B.両親、兄弟、子ども、親戚」(24.3%)となっている。
ただ、「C.何もしなかった」(22.1%)も高くなっている。

【性別・年齢との関係】

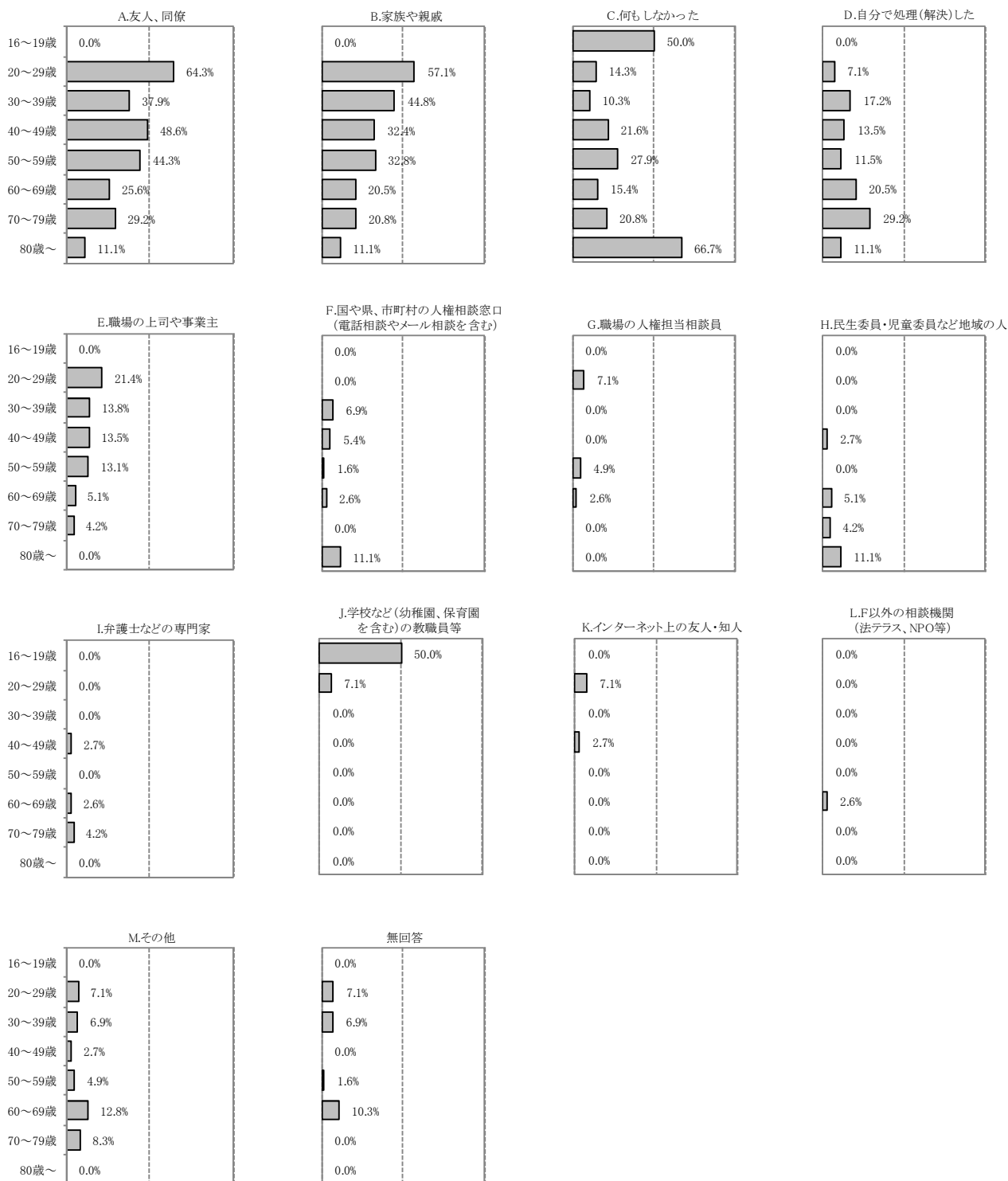
〔図 2-6〕 問 2-③ 人権侵害—被害の相談先 と 性別 の関係



性別でみると〔図 2-6〕、「C. 何もしなかった。」、「D. 自分で処理(解決)した」では、男性の方が大幅に高くなっている。

「A.友人、同僚」、「B. 家族や親戚」では、女性の方が大幅に高くなっている。

〔図 2-7〕 問 2-③ 人権侵害—被害の相談先 と 年齢 の関係

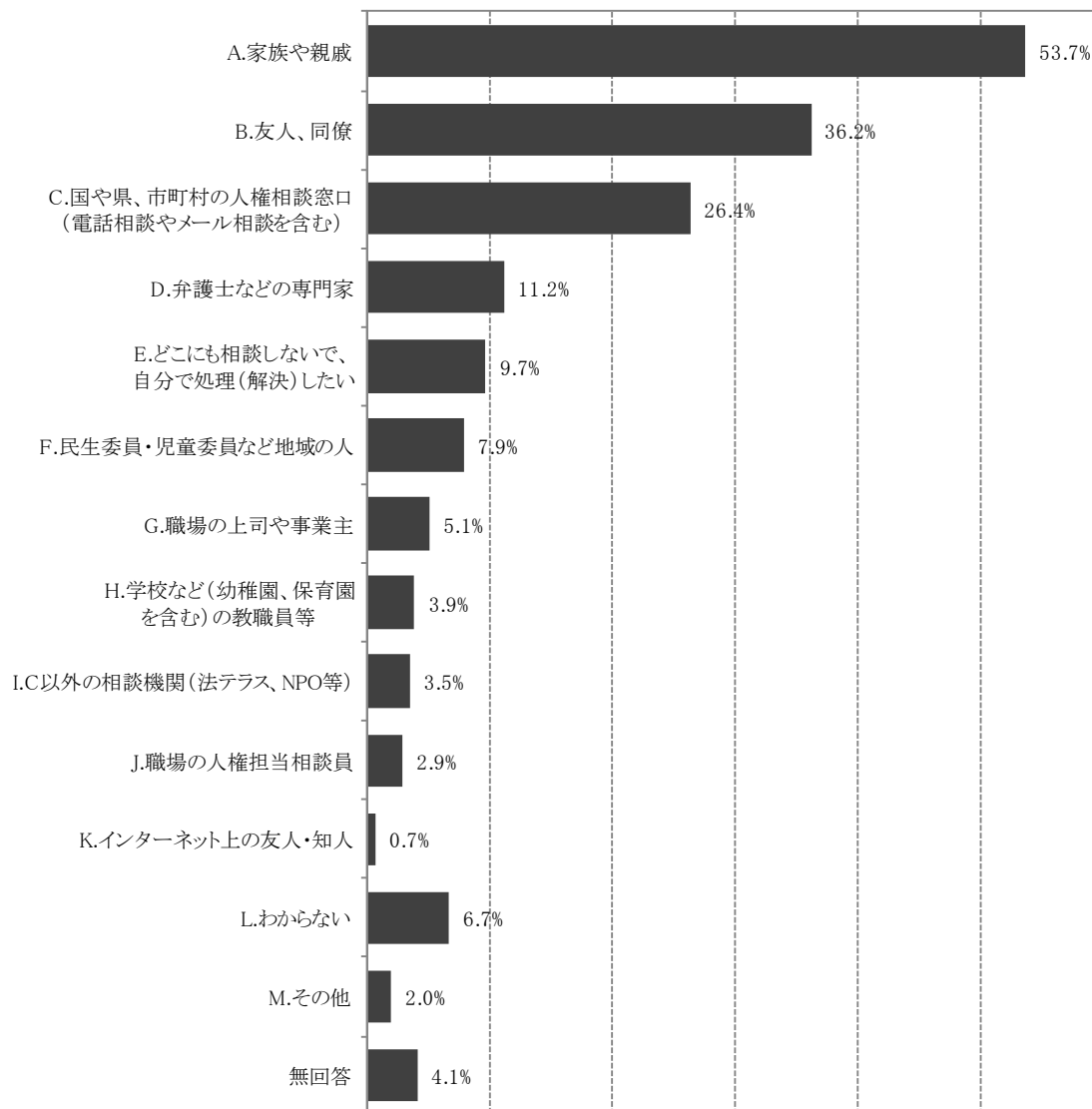


年齢別でみると〔図 2-7〕、「A.友人、同僚」(64.3%)、「B.家族や親戚」(57.1%)は 20 歳代が最も高い。「B.家族や親戚」は、年代が上がるにつれて低くなる傾向にある。また、「C.何もしなかった」は、80 歳以上(66.7%)で最も高く、「D.自分で処理(解決)した」は、70 歳代(29.2%)で最も高くなっている。

問 3-①（希望する相談先）

あなたは、自分や家族が差別や人権侵害を受けたとき、誰に相談したいと思いますか。

（○は3つ以内）

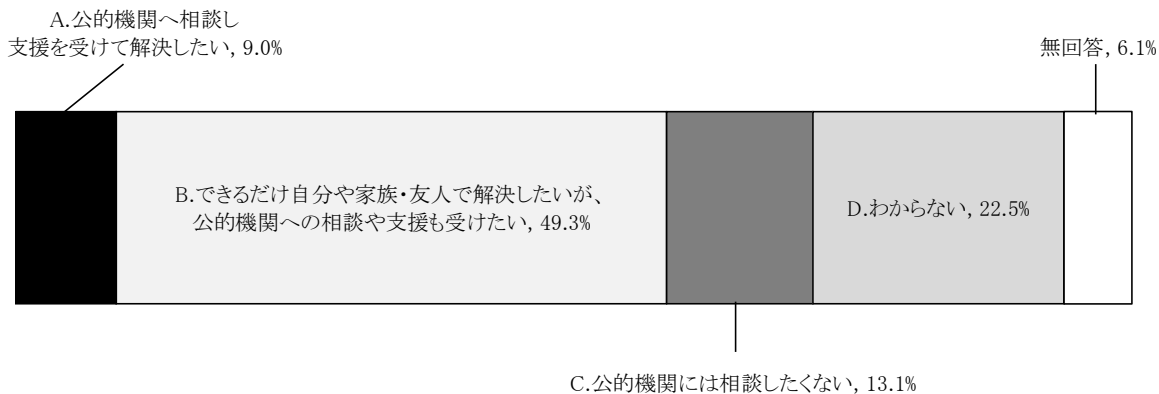


■自分や家族が差別や人権侵害を受けたとき、相談したいと思う先について、「A.家族や親戚」(53.7%)が最も高く、次いで、「B.友人、同僚」(36.2%)、「C.国や県、市町村の人権相談窓口(電話相談やメール相談を含む)」(26.4%)となっている。

【参考】 ※設問文、選択肢の文言の一部が前回に比べて異なっているため、参考としてご参照ください。

前回調査(H23 鳥取県人権意識調査)

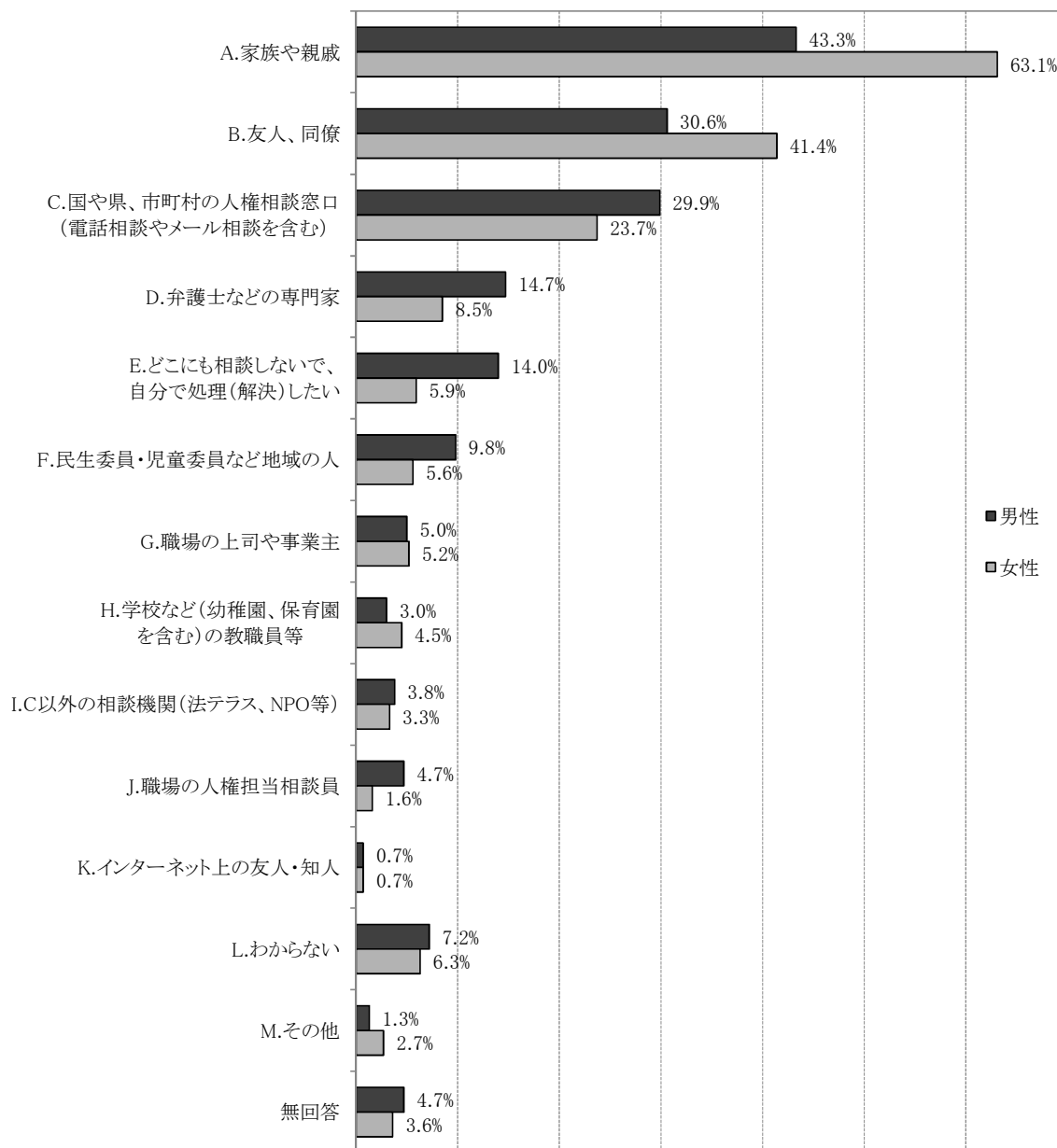
問 3-① あなたは、自分や家族が人権侵害を受けたとき、公的機関(国や県、市町村の相談機関)に相談したいと思いますか。(○は1つだけ)



自分や家族が差別や人権侵害を受けたときに、公的機関に相談するかどうかについて、「A.公的機関へ相談し支援を受けて解決したい」、「B.できるだけ自分や家族・友人で解決したいが、公的機関への相談や支援も受けたい」を合わせて 58.3%となっている。

【性別・年齢との関係】

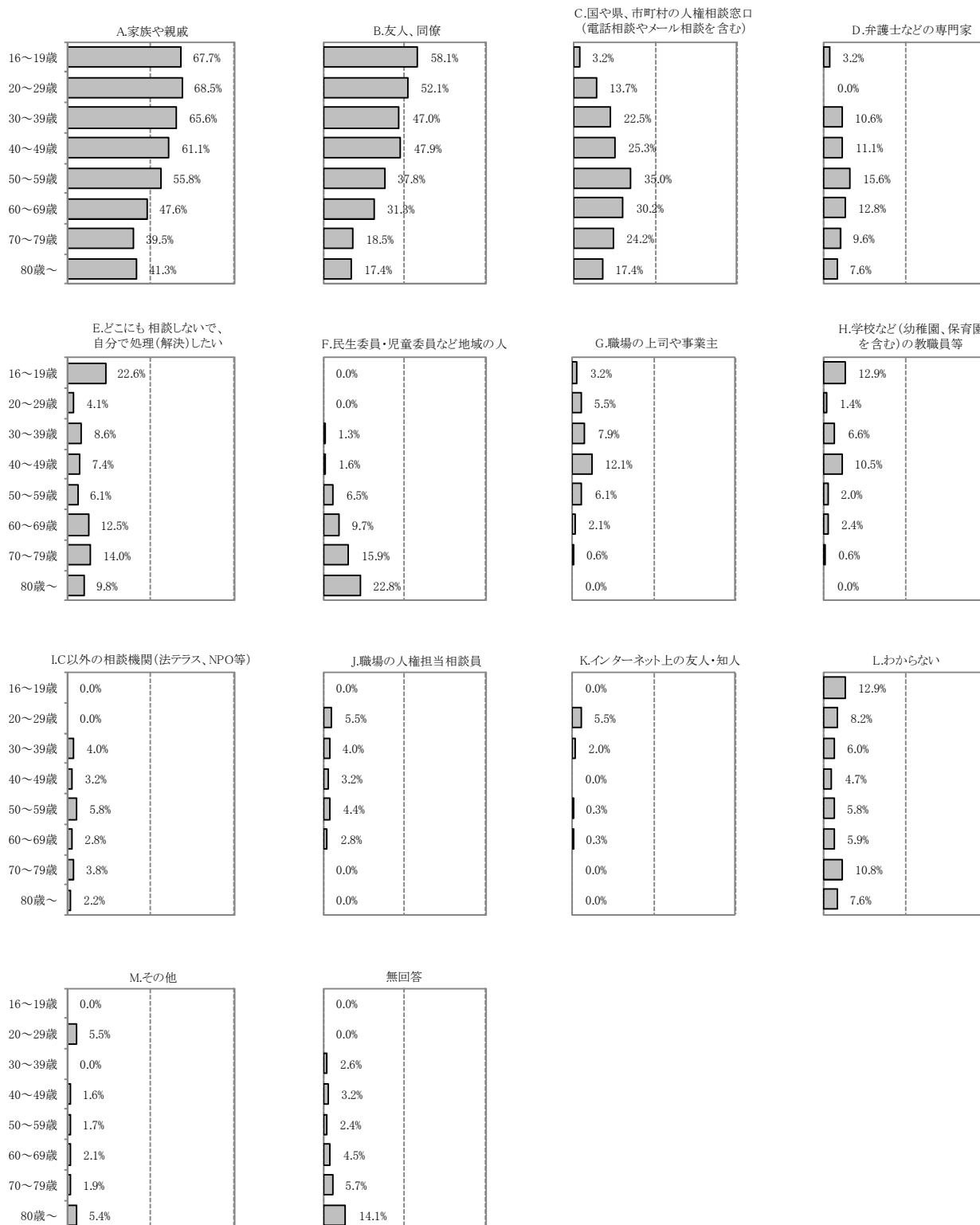
〔図 3-1〕 問 3-① 希望する相談先 と 性別 の関係



性別でみると〔図 3-1〕、「C. 国や県、市町村の人権相談窓口」、「D. 弁護士などの専門家」、「E. どこにも相談しないで自分で処理(解決)したい」では、男性の方が大幅に高くなっている。

「A. 家族や親戚」、「B. 友人、同僚」では、女性の方が大幅に高くなっている。

〔図 3-2〕 問 3-① 希望する相談先 と 年齢 の関係



年齢別で見ると〔図 3-2〕、若い年代ほど、「A.家族や親戚」、「B.友人、同僚」が高くなっている。

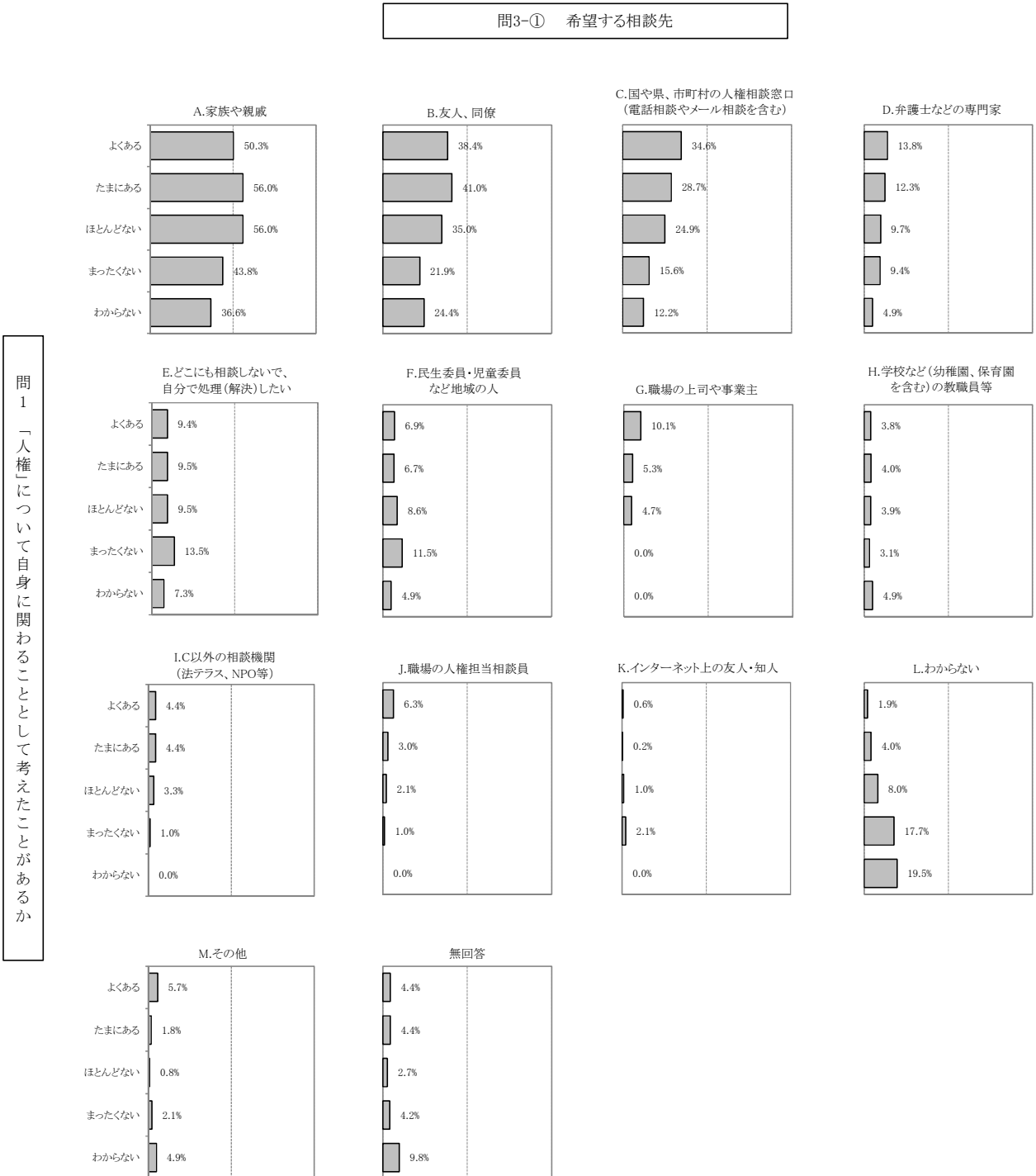
「C.国や県、市町村の人権相談窓口(電話相談やメール相談を含む)」は、50歳代(35.0%)、60歳代(30.2%)が高くなっている。

また、「F.民生委員・児童委員など地域の人」は、年代が上がるにつれ高くなっている。

【他の設問との関係】

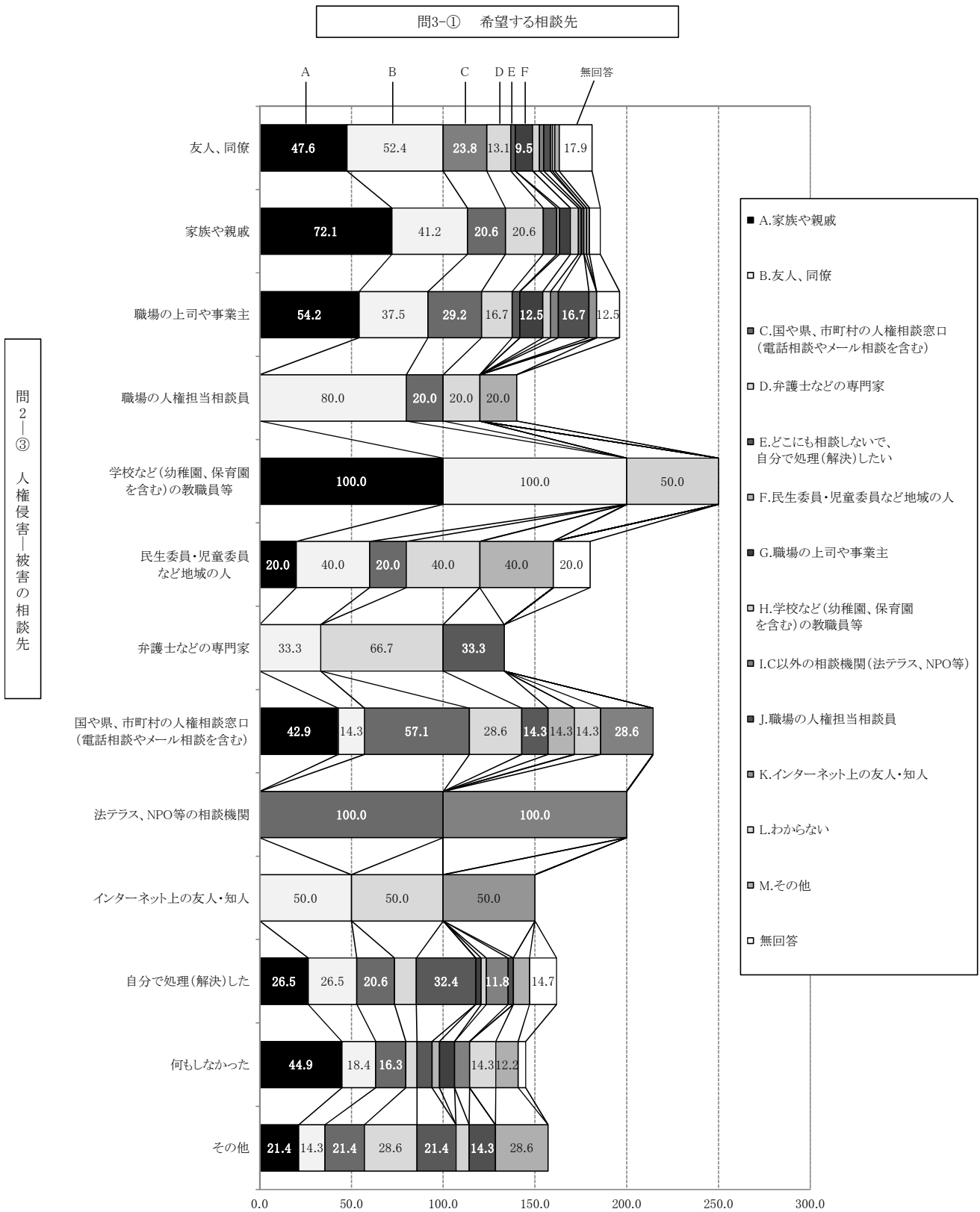
〔図 3-3〕 問 3-① 希望する相談先 と

問 1 「人権」について自身に関わることとして考えたことがあるか の関係



問 1(「人権」について自身に関わることとして考えたことがあるか)との関係では〔図 3-3〕、自身に関わることとして考えたことがある人ほど、「C.国や県、市町村の人権相談窓口」を選択する割合が高くなっている。

〔図 3-4〕 問 3-① 希望する相談先 と 問 2-③ 人権侵害—被害の相談先 の関係

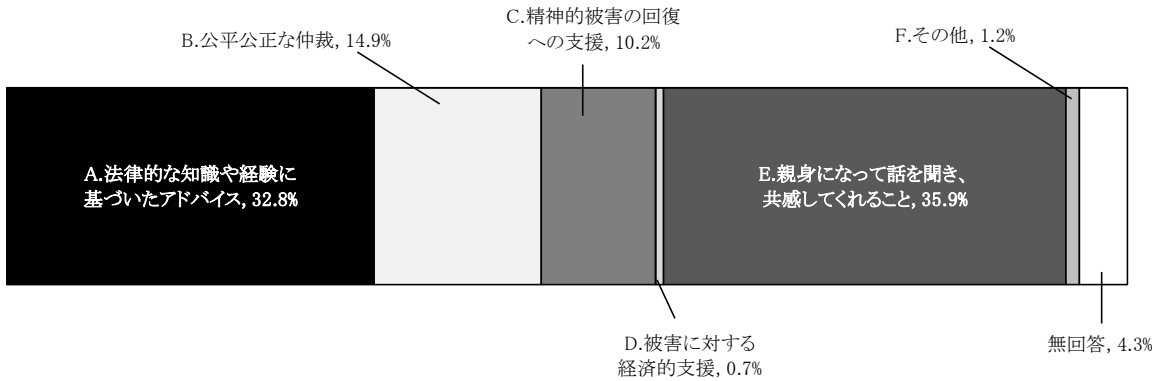


問 2-③(人権侵害—被害の相談先)との関係では〔図 3-4〕、被害を受けても「何もしなかった」人の半数近くが、「家族や親戚」への相談を希望していた。

問 3-② (相談先に求める内容)

問3-①で相談したい先を選択された方におたずねします。

その相談先に対して、特にどのようなことを求めますか。(〇は1つだけ)

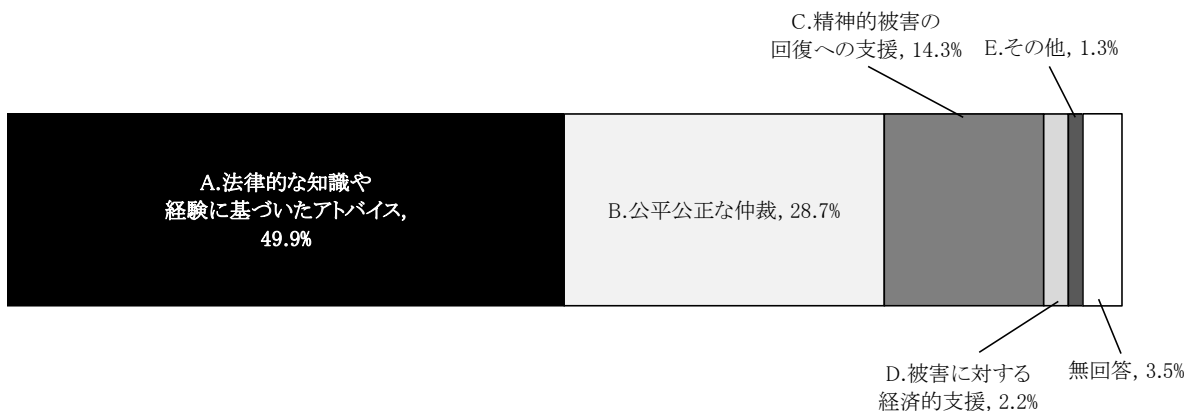


■問 3-①で相談したい先があると回答した人で、その相談先にどのようなことを求めるかについて、「E.親身になって話を聞き、共感してくれること」(35.9%)が最も高く、次いで、「A.法律的な知識や経験に基づいたアドバイス」(32.8%)となっている。

【参考】 ※設問文、選択肢の文言の一部が前回に比べて異なっているため、参考としてご参照ください。

前回調査(H23 鳥取県人権意識調査)

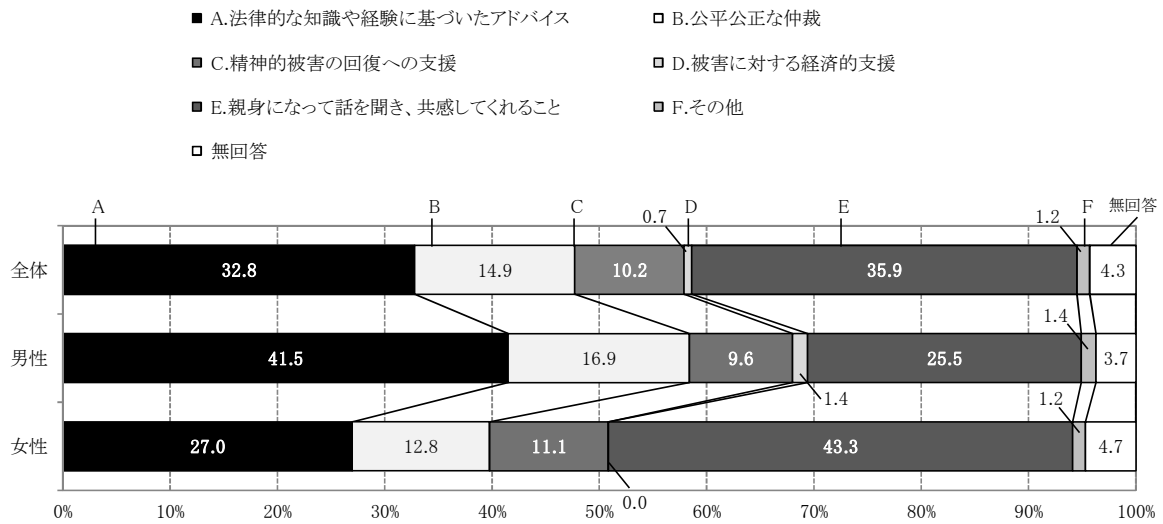
問 3-② 問 3-①で「公的機関へ相談し支援を受けて解決したい」又は「できるだけ自分や家族・友人で解決したいが、公的機関への相談や支援も受けたい」と回答された方におたずねします。公的機関に対して特にどのような支援を求めますか。(〇は1つだけ)



問3-①で「相談して解決したい」、「できるだけ自分で解決したいが、相談もしたい」と回答した人で、公的機関に求める支援について、「A.法律的な知識や経験に基づいたアドバイス」が 49.9%と最も高く、次いで「B.公平公正な仲裁」が 28.7%となっている。

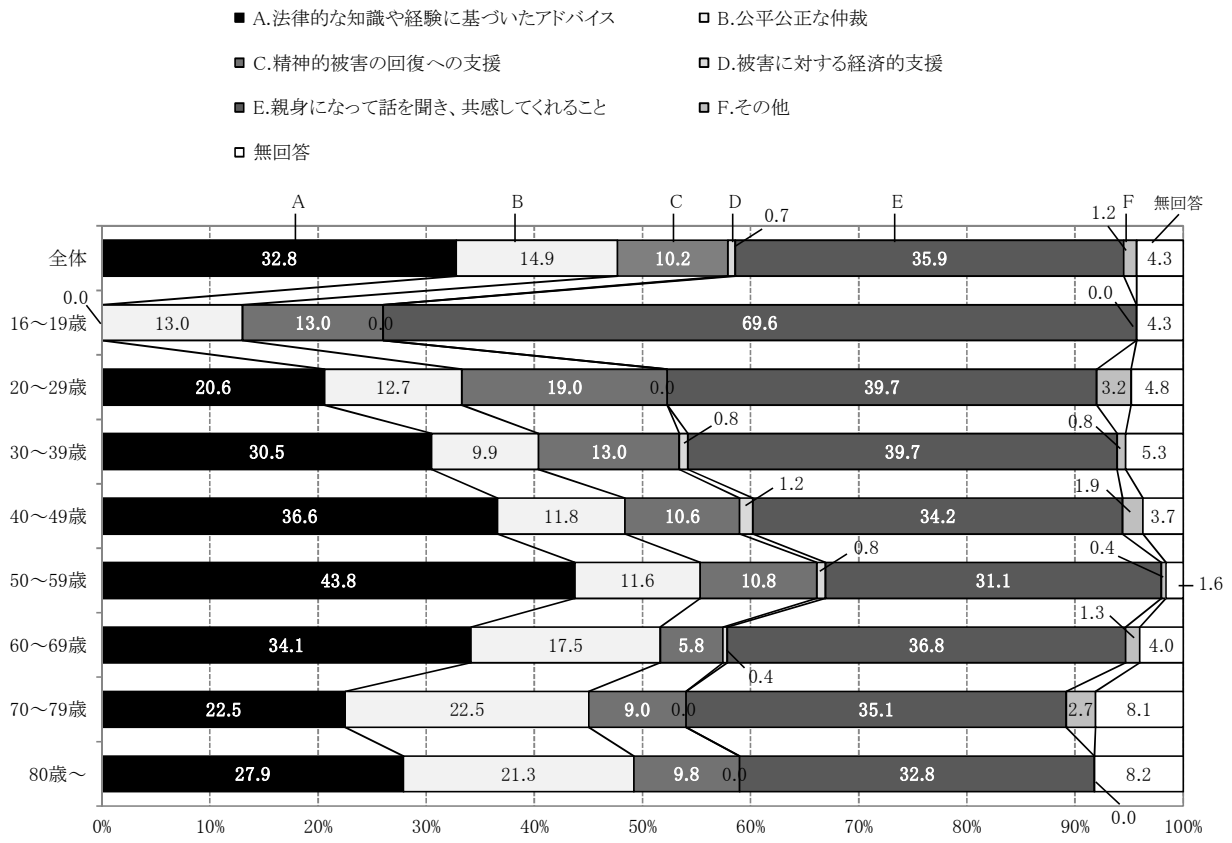
【性別・年齢との関係】

〔図 3-5〕 問 3-② 相談先に求める内容 と 性別 の関係



性別でみると〔図 3-5〕、男性では、「A. 法律的な知識や経験に基づいたアドバイス」が高く(男性 41.5%、女性 27.0%)、女性では、「E. 親身になって話を聞き、共感してくれること」が高くなっている(男性 25.5%、女性 43.3%)。

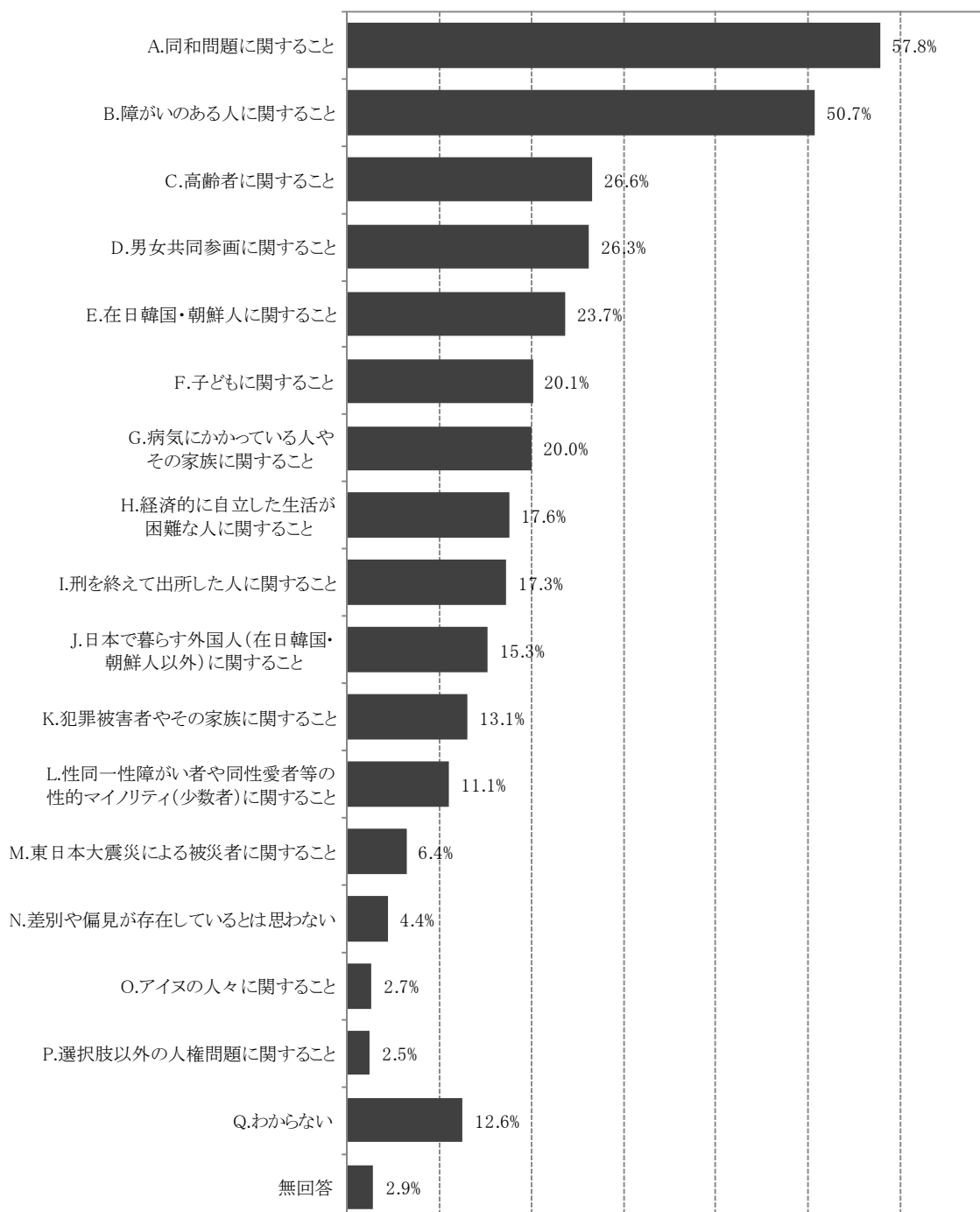
〔図 3-6〕 問 3-② 相談先に求める内容 と 年齢 の関係



年齢別で見ると〔図 3-6〕、「A. 法的な知識や経験に基づいたアドバイス」は 50 歳代(43.8%)が最も高く、「E. 親身になって話を聞き、共感してくれること」は 16～19 歳(69.6%)が最も高くなっている。

問 4 (県内に存在していると思う人権問題)

あなたは、鳥取県内において、どのような人権問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

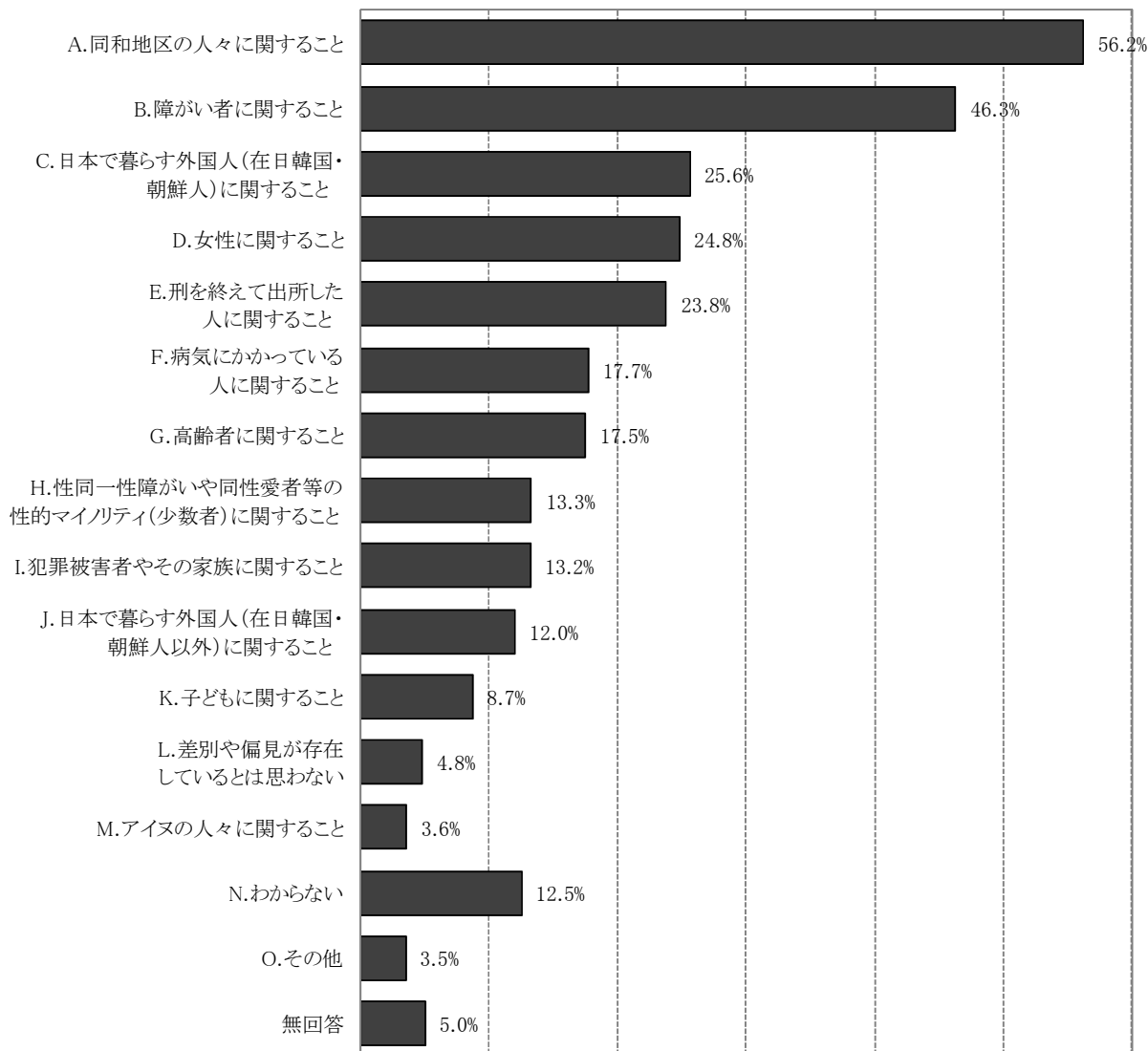


■鳥取県内に存在していると思う人権問題については、「A.同和問題に関する事」(57.8%)が最も高く、次いで、「B.障がいのある人に関する事」(50.7%)、「C.高齢者に関する事」(26.6%)、「D.男女共同参画に関する事」(26.3%)となっている。

【参考】 ※設問文、選択肢の文言の一部が前回に比べて異なっているため、参考としてご参照ください。

前回調査(H23 鳥取県人権意識調査)

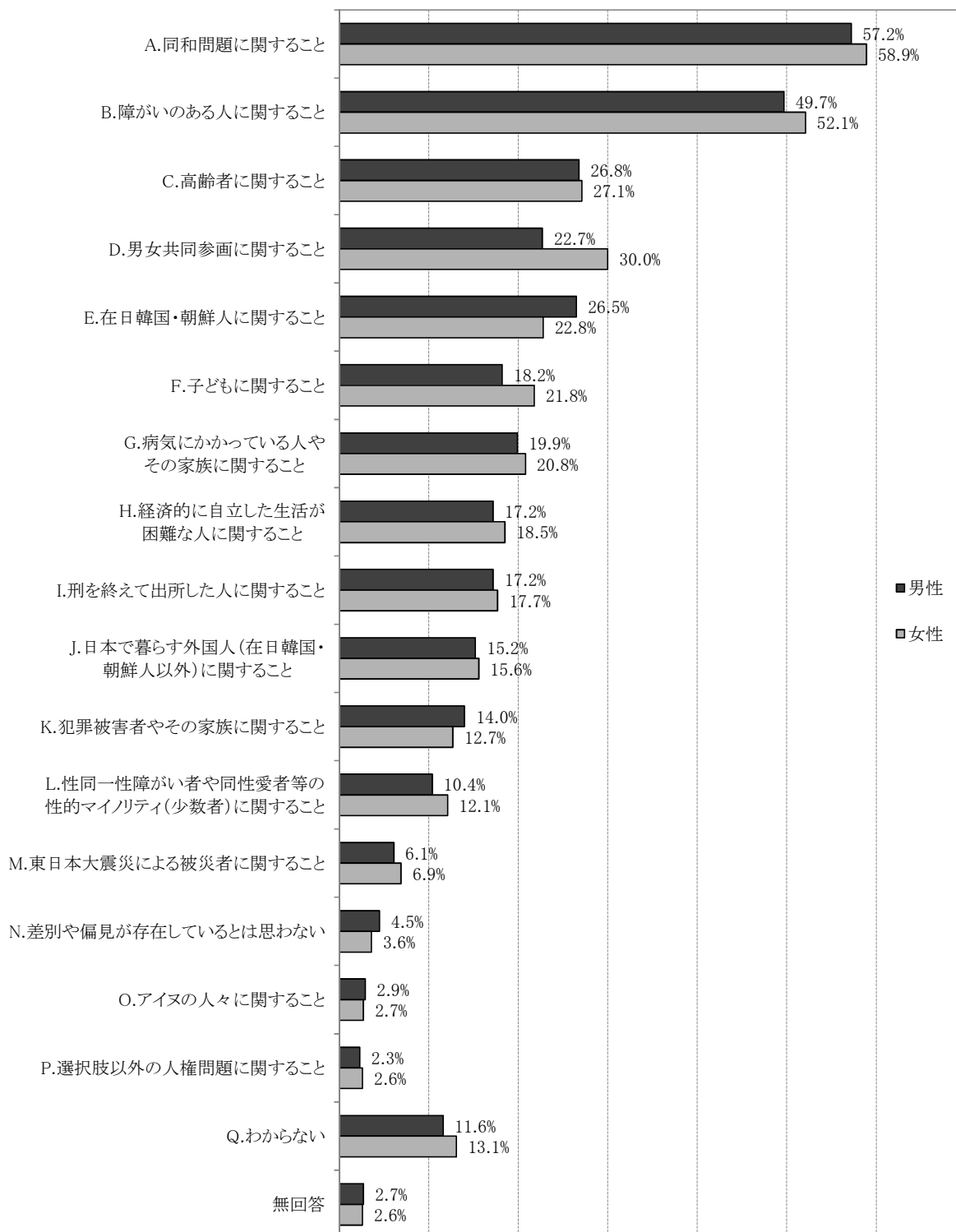
問4 鳥取県内において、人々の意識の中に差別が存在していると思うのは、次のどれだと思いますか。
(〇はいくつでも)



鳥取県内の人々の意識の中に存在していると思う差別について、「A.同和地区の人々に関する事」が56.2%と最も高く、次いで「B.障がい者に関する事」が46.3%となっている。

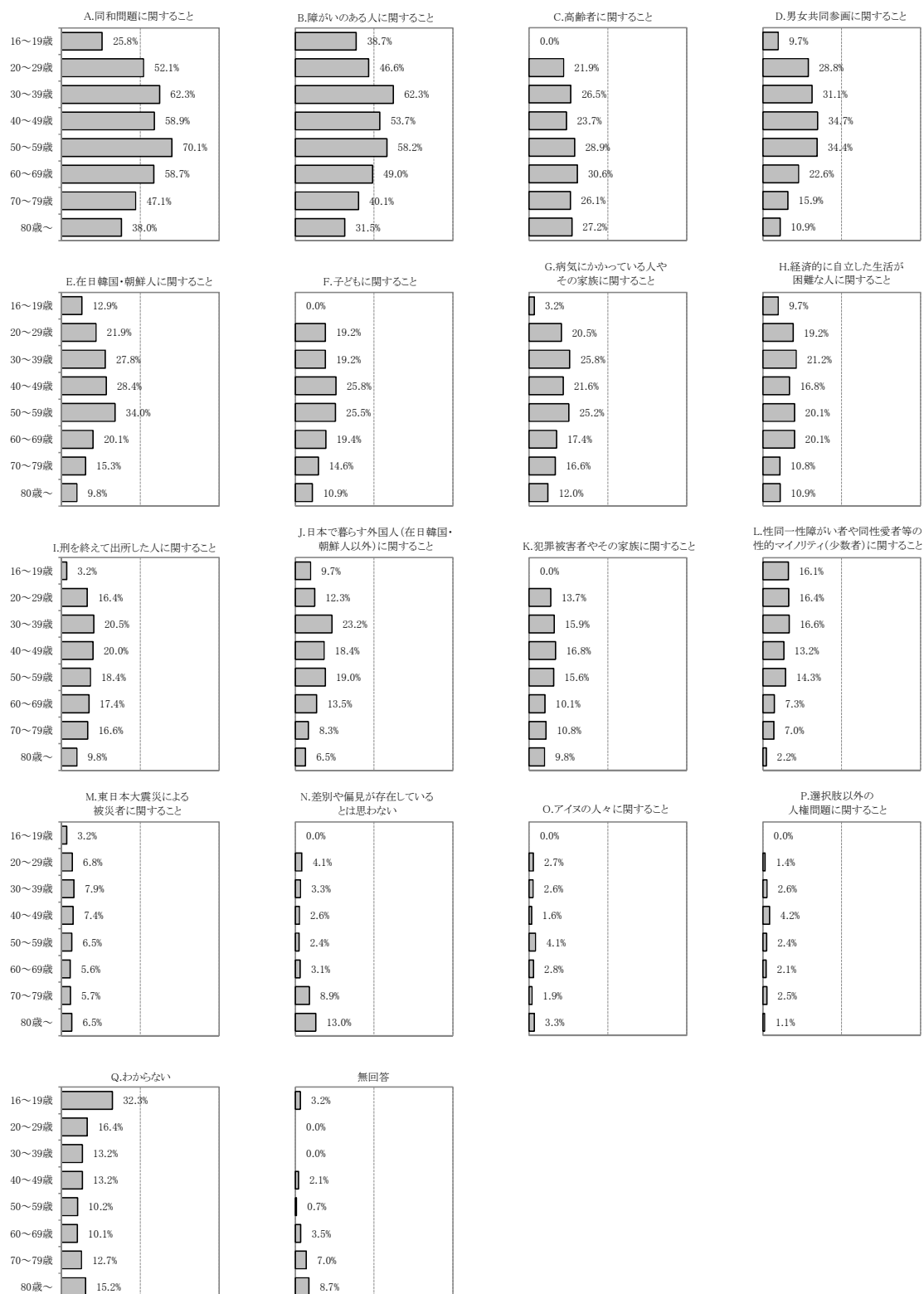
【性別・年齢との関係】

〔図 4-1〕 問 4 県内に存在していると思う人権問題 と 性別 の関係



性別でみると〔図 4-1〕、「D. 男女共同参画に関する事」では、女性の方が大幅に高くなっている。

〔図 4-2〕 問 4 県内に存在していると思う人権問題 と 年齢 の関係



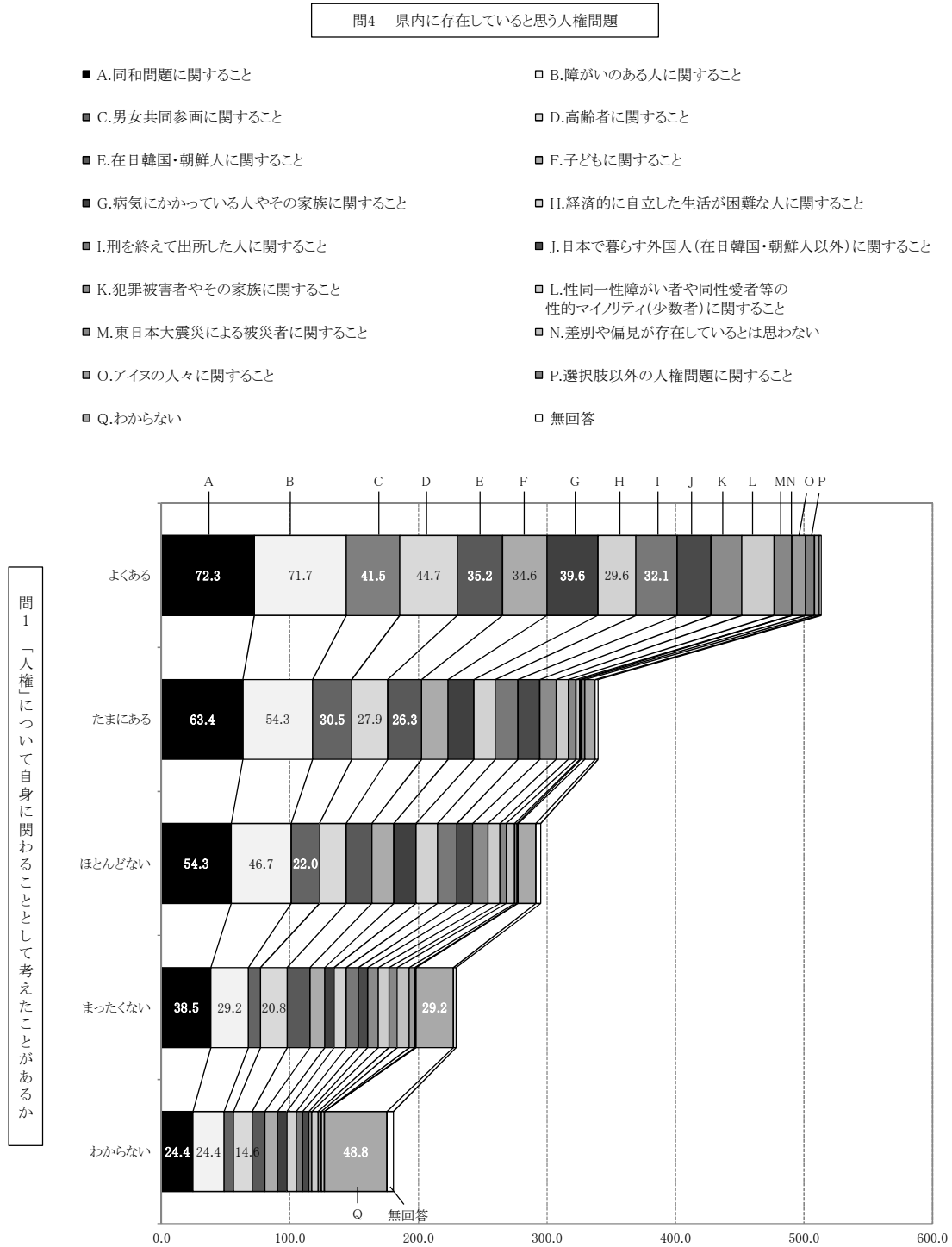
年齢別で見ると〔図 4-2〕、20 歳代以上の各年代では、「A.同和問題に関する事」が最も高く、次いで、「B.障がいのある人に関する事」となっている。

80 歳以上では他の年代と比べ、「N.差別や偏見が存在しているとは思わない」(13.0%)が高い。

【他の設問との関係】

〔図 4-3〕 問 4 県内に存在していると思う人権問題 と

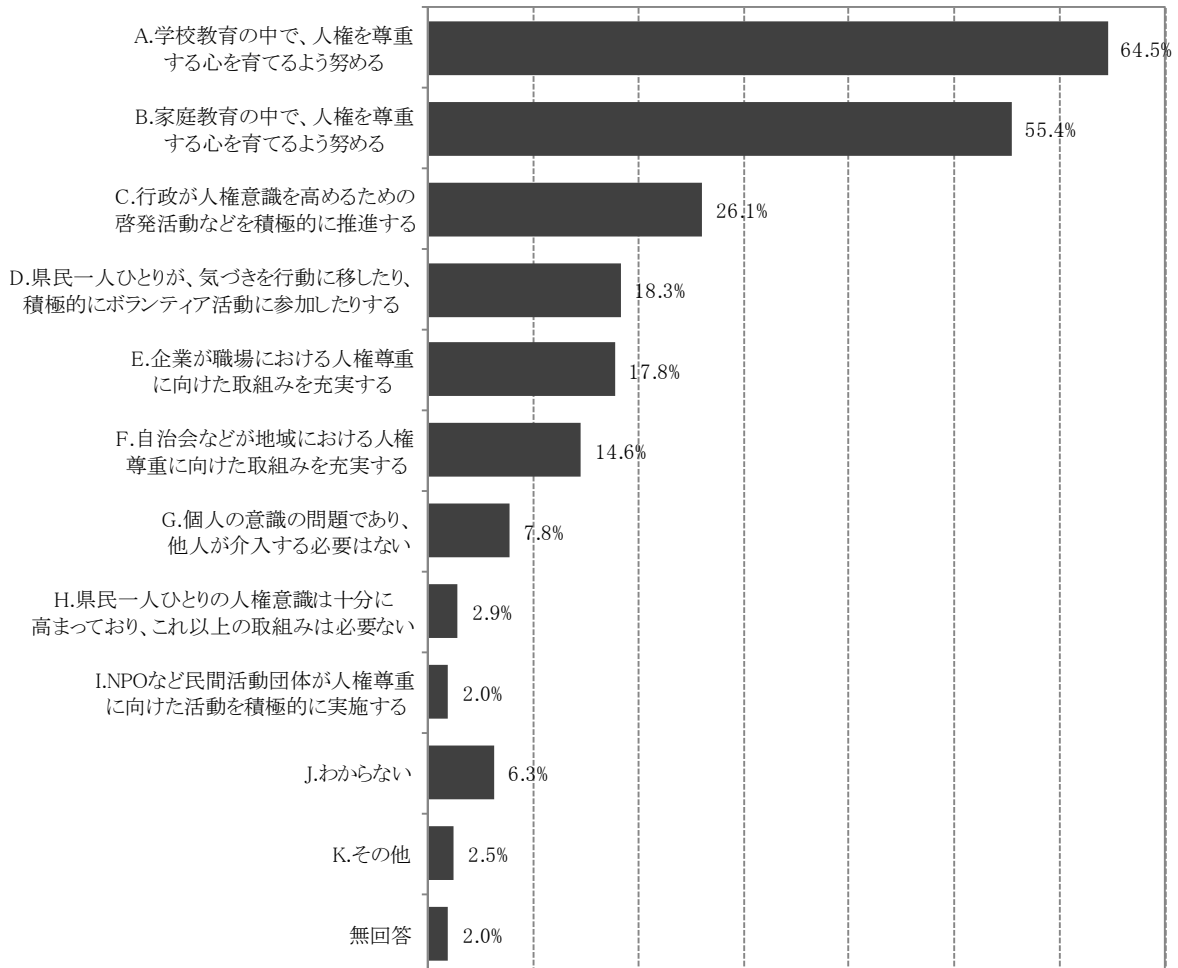
問 1 「人権」について自身に関わることとして考えたことがあるか の関係



問1(「人権」について自身に関わることとして考えたことがあるか)との関係では〔図 4-3〕、自身に関わることとして考えたことがある人ほど、さまざまな人権への問題意識が高くなっている。全ての層において、「同和問題」や「障がいのある人」に関する事への問題意識が高くなっている。

問5（人権意識の向上のために必要な取組み）

あなたは、人権問題についての理解を深め人権意識を高めるために、特にどのような取組みが必要だと思いますか。（〇は3つ以内）

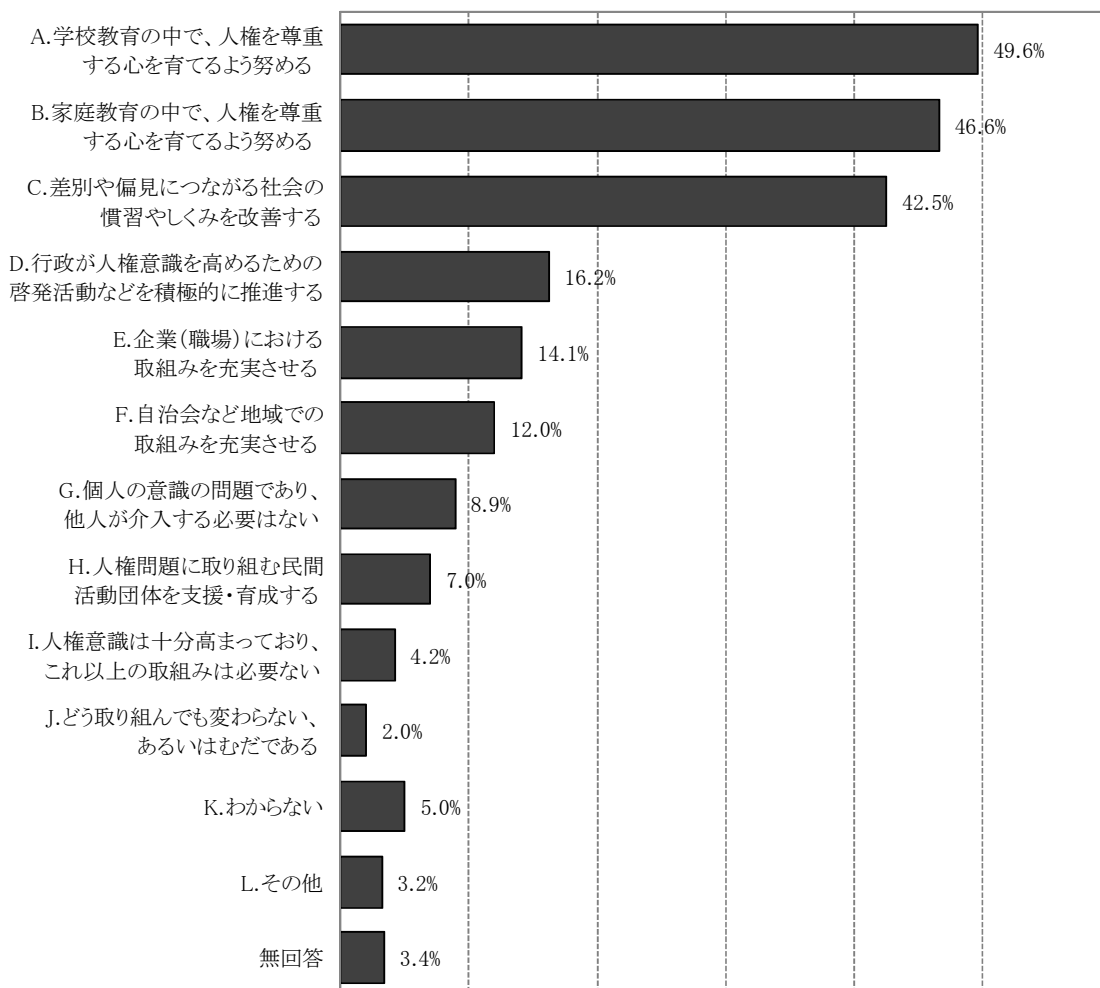


■人権問題についての理解を深め人権意識を高めるために必要と思う取組みは、「A.学校教育の中で、人権を尊重する心を育てよう努める」(64.5%)が最も高く、次いで、「B.家庭教育の中で、人権を尊重する心を育てよう努める」(55.4%)となっている。

【参考】 ※設問文、選択肢の文言の一部が前回に比べて異なっているため、参考としてご参照ください。

前回調査(H23 鳥取県人権意識調査)

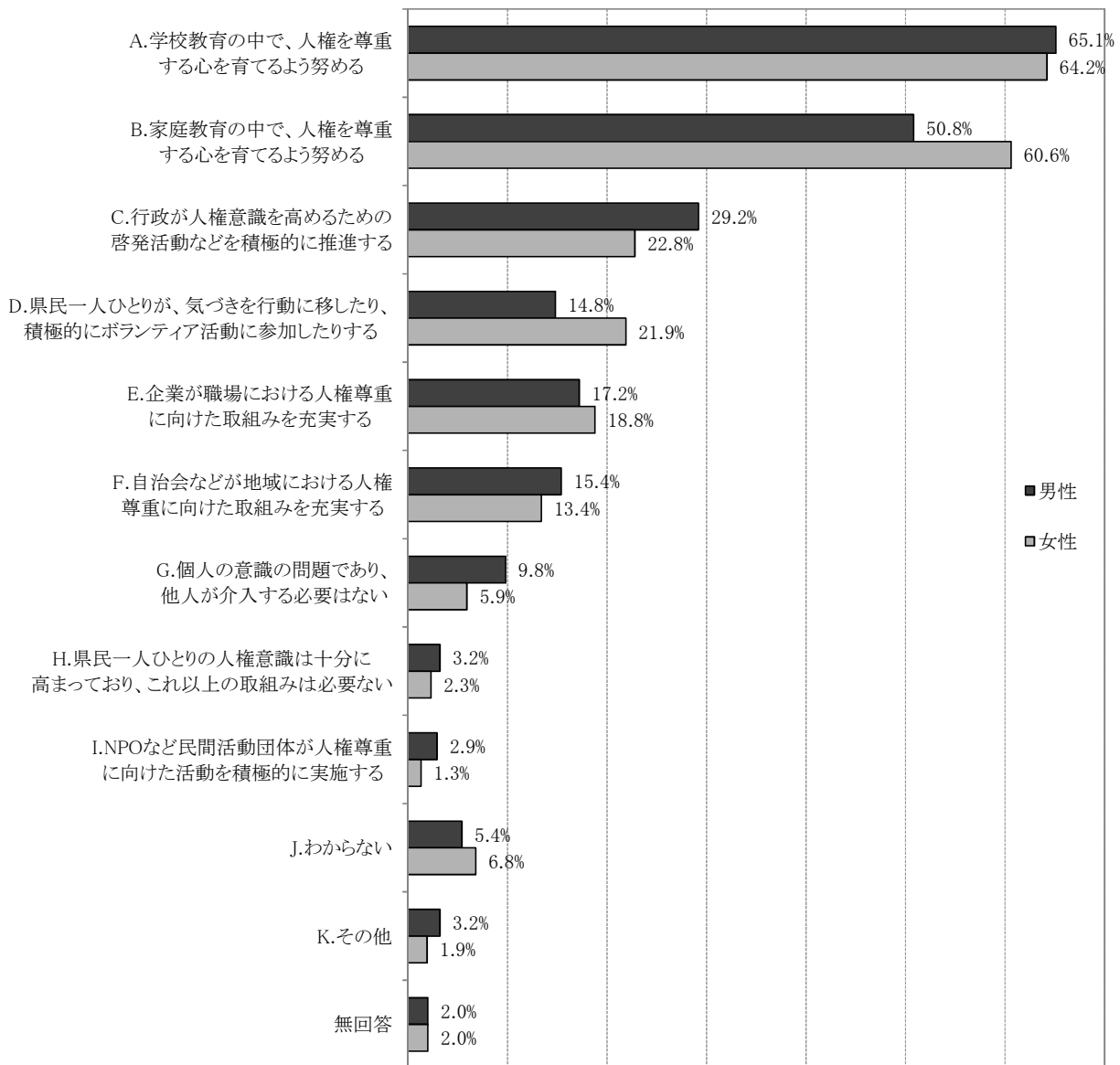
問 6 人権問題についての理解を深め人権意識を高めるために、今後どのような取組みが必要だと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものをお答えください。(〇は3つ以内)



人権問題についての理解を深め、人権意識を高めるために必要と思う取組みは、「A.学校教育の中で、人権を尊重する心を育てよう努める」が 49.6%、次いで「B.家庭教育の中で、人権を尊重する心を育てよう努める」が 46.6%、「C.差別や偏見につながる社会の慣習やしぐみを改善する」が 42.5%と高い割合を占める。

【性別・年齢との関係】

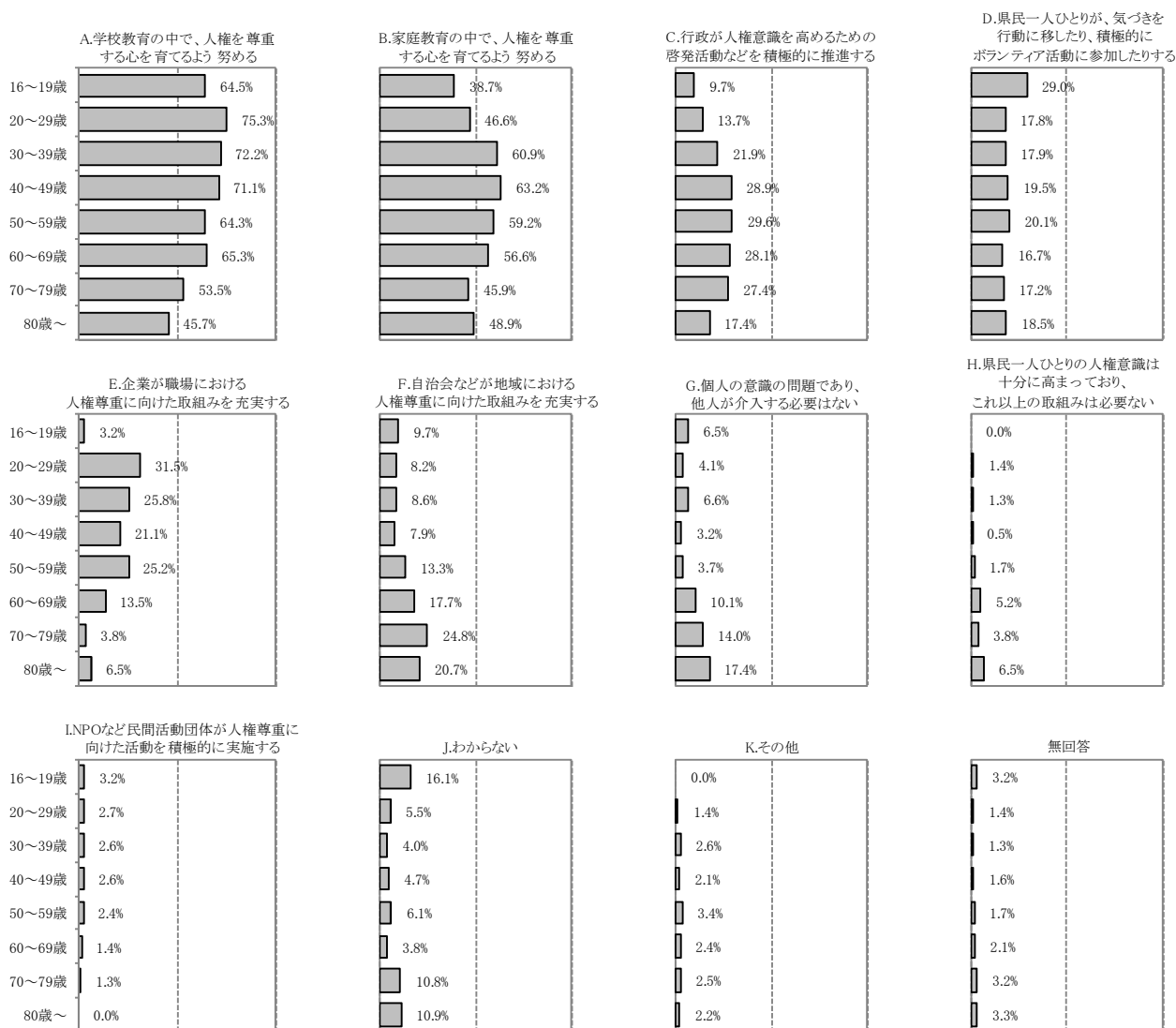
〔図 5-1〕 問 5 人権意識の向上のために必要な取組み と 性別 の関係



性別でみると〔図 5-1〕、「C. 行政が人権意識を高めるための啓発活動などを積極的に推進する」、「G. 個人の意識の問題であり、他人が介入する必要はない」では、男性の方が大幅に高くなっている。

「B. 家庭教育の中で、人権を尊重する心を育てよう努める」、「D. 県民一人ひとりが、気づきを行動に移したり、積極的にボランティア活動に参加したりする」では、女性の方が大幅に高くなっている。

〔図 5-2〕 問 5 人権意識の向上のために必要な取組み と 年齢 の関係

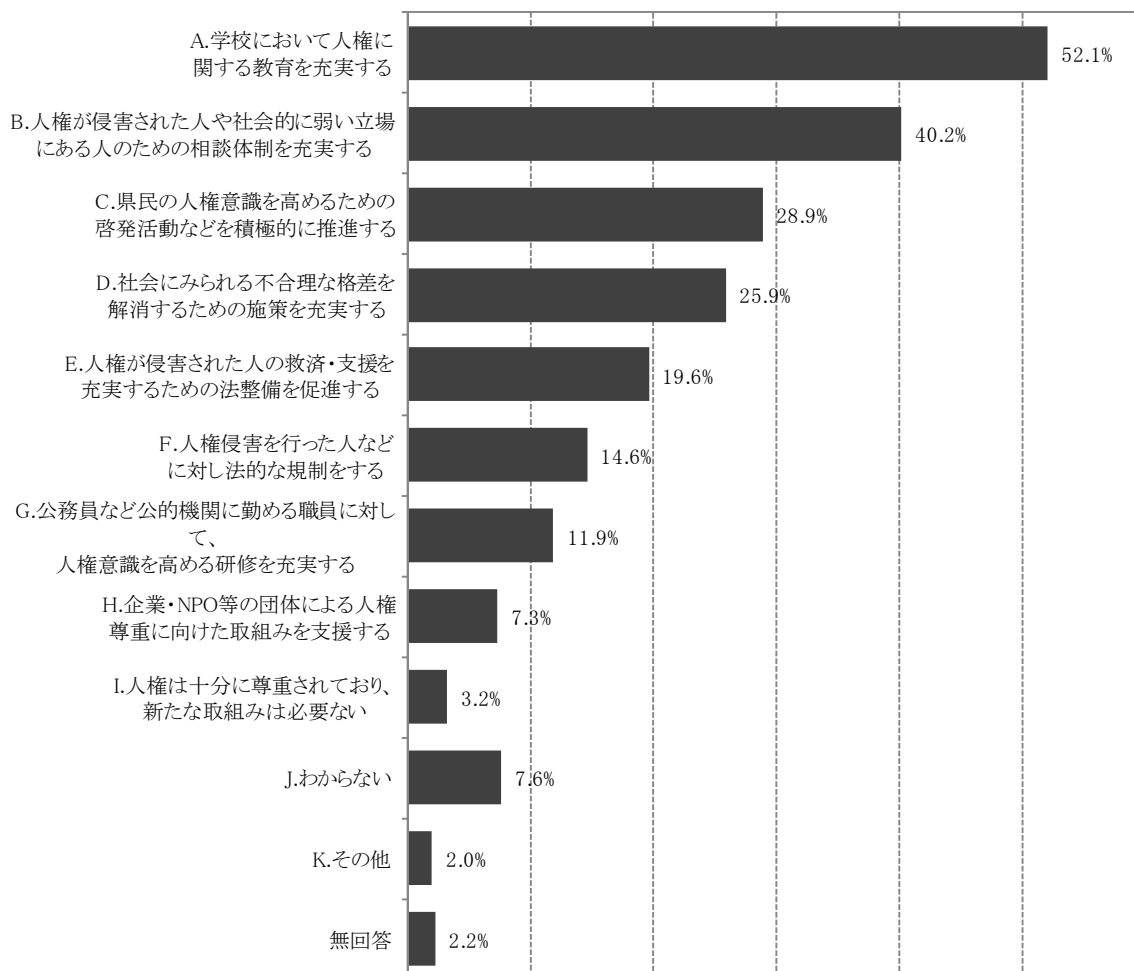


年齢別でみると〔図 5-2〕、「A.学校教育の中で、人権を尊重する心を育てるよう努める」は、各年代ともほぼ半数以上が選択しており、特に 20 歳代(75.3%)、30 歳代(72.2%)、40 歳代(71.1%)で高くなっている。

「F.自治会などが地域における人権尊重に向けた取組みを充実する」、「G.個人の意識の問題であり、他人が介入する必要はない」においては、他の年代よりも、60 歳代以上の年代で高くなっている。

問6 (人権尊重の社会づくりのために必要な行政施策)

あなたは、人権が尊重される社会を実現するためには、行政の施策(せさく)として、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つ以内)

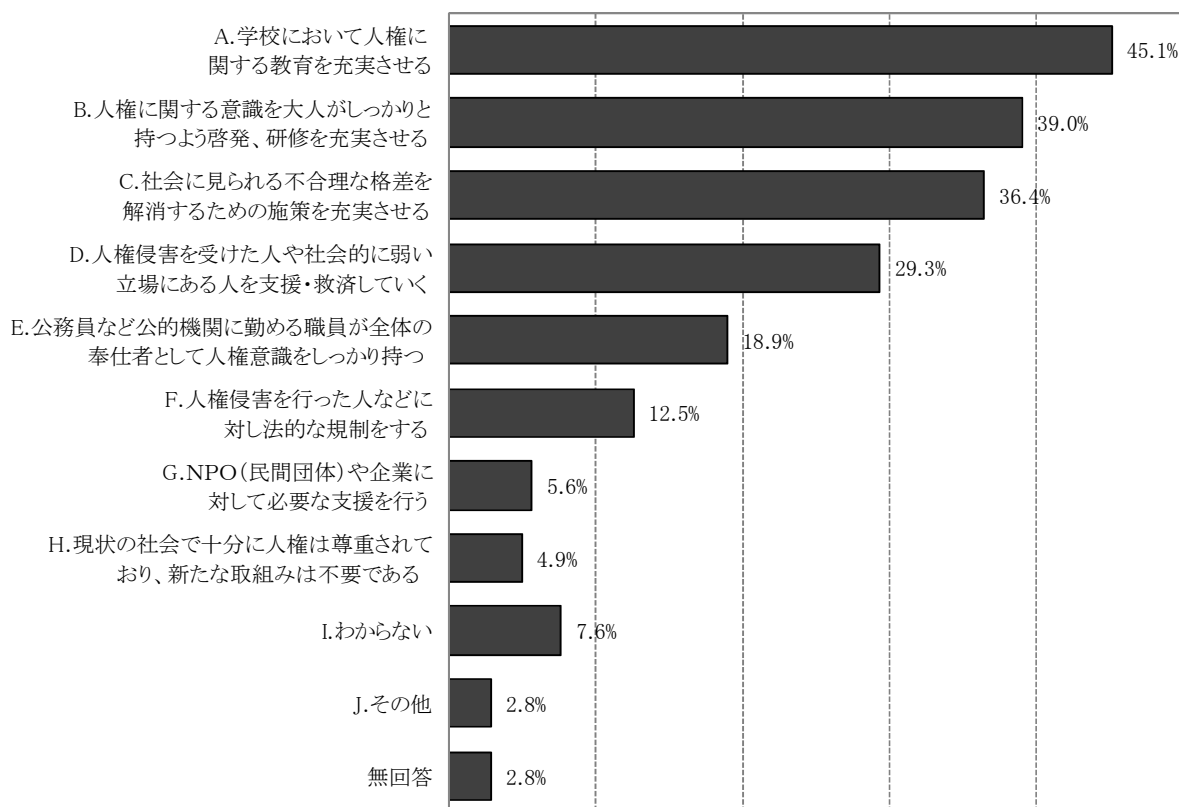


■人権が尊重される社会を実現するために必要と思う行政の施策は、「A.学校において人権に関する教育を充実する」(52.1%)が最も高く、次いで、「B.人権が侵害された人や社会的に弱い立場にある人のための相談体制を充実する」(40.2%)となっている。

【参考】 ※設問文、選択肢の文言の一部が前回に比べて異なっているため、参考としてご参照ください。

前回調査(H23 鳥取県人権意識調査)

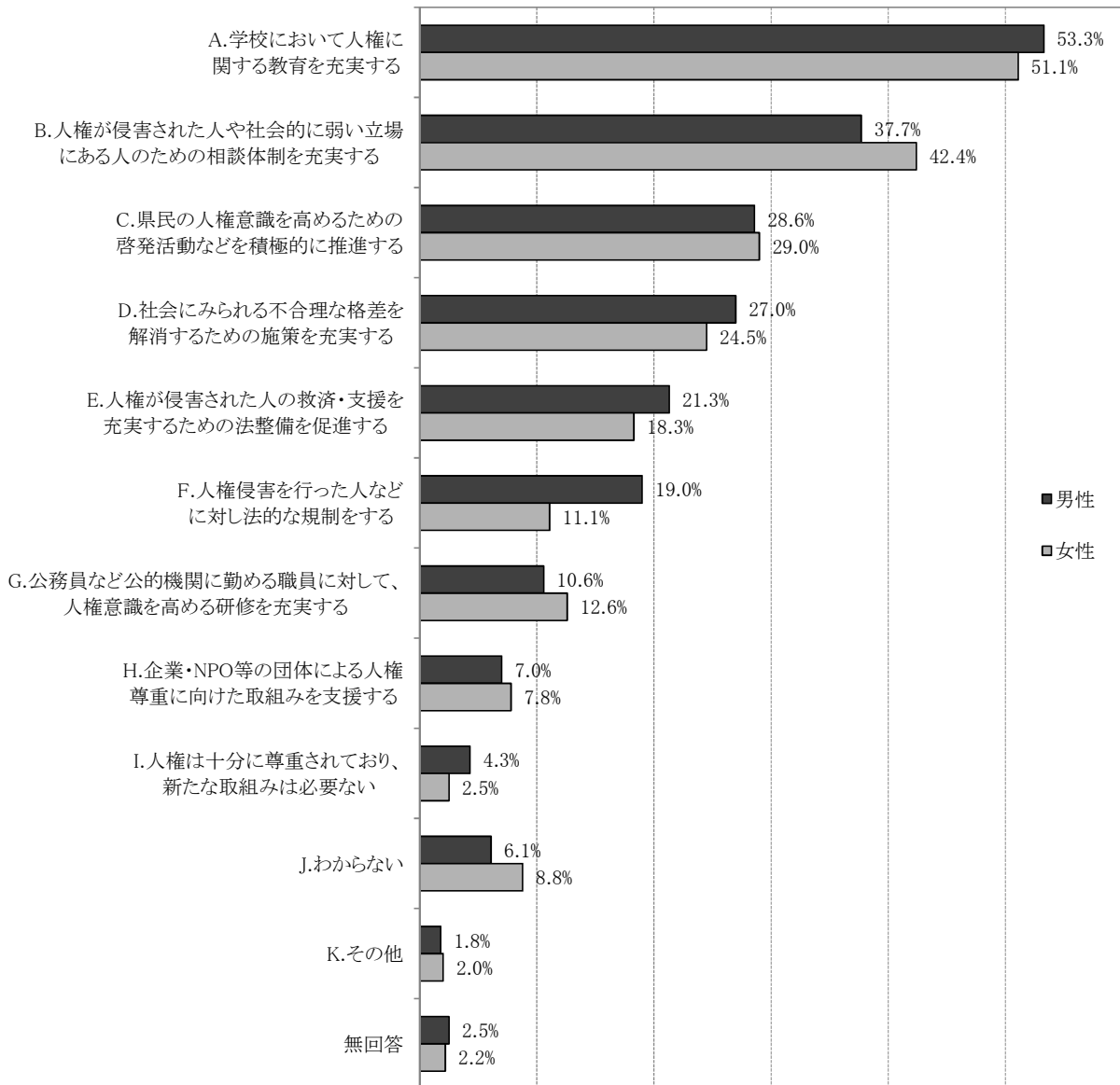
問7 人権が尊重される社会を実現するためには行政の施策としてどのような取組みが必要だと思いますか。次の中からあなたの考えに近いものをお答えください。(○は3つ以内)



人権が尊重される社会を実現するため必要と思う行政の施策は、「A.学校において人権に関する教育を充実させる」が 45.1%と最も高く、次いで「B.人権に関する意識を大人がしっかりと持つよう啓発、研修を充実させる」が 39.0%、「C.社会に見られる不合理な格差を解消するための施策を充実させる」が 36.4%となっている。また、「D.人権侵害を受けた人や社会的に弱い立場にある人を支援・救済していく」も 29.3%となっている。

【性別・年齢との関係】

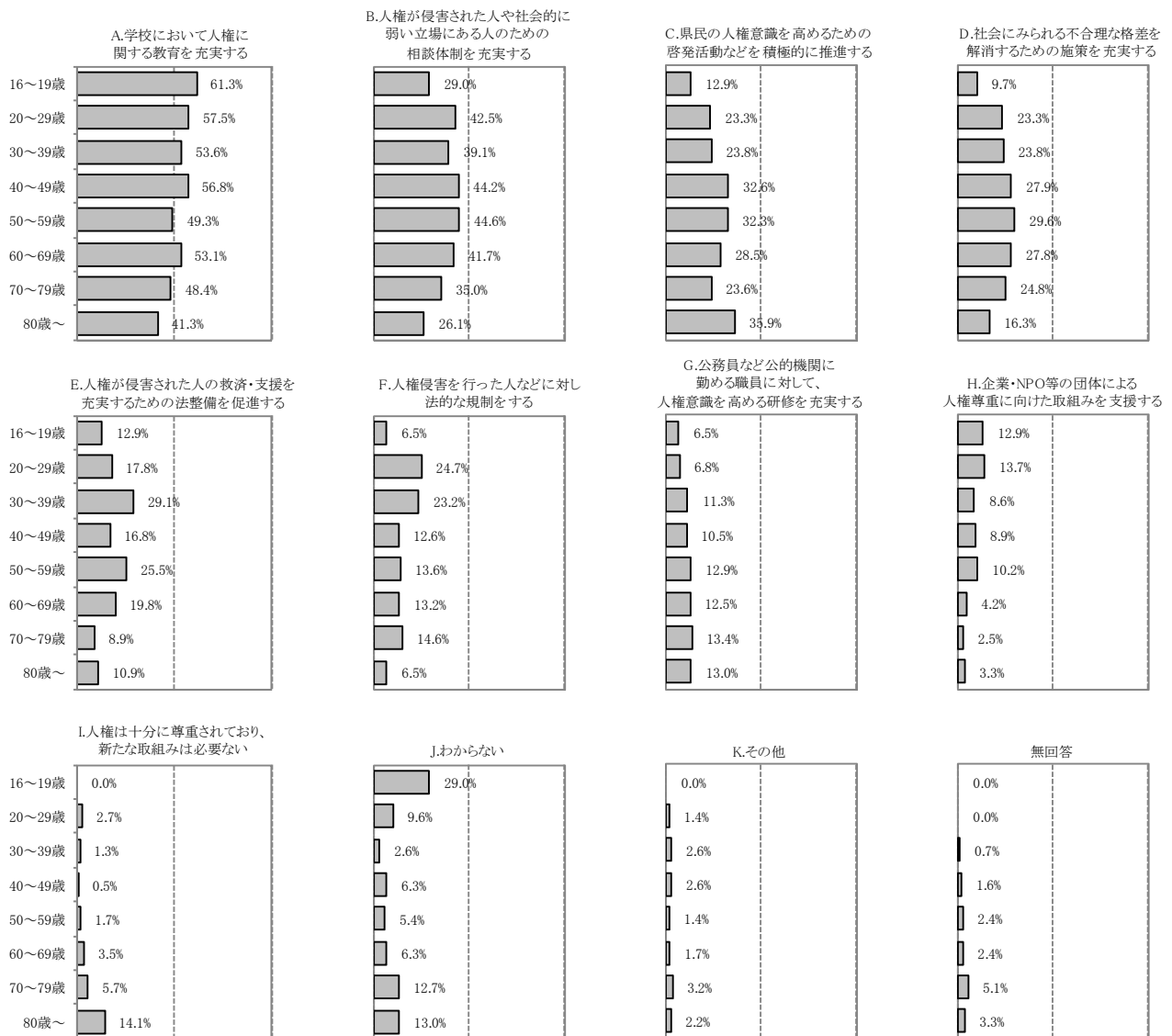
〔図 6-1〕 問 6 人権尊重の社会づくりのために必要な行政施策 と 性別 の関係



性別でみると〔図 6-1〕、「F. 人権侵害を行った人などに対し法的な規制をする」では、男性の方が大幅に高くなっている。

「B. 人権が侵害された人や社会的に弱い立場にある人のための相談体制を充実する」では、女性の方が大幅に高くなっている。

〔図 6-2〕 問 6 人権尊重の社会づくりのために必要な行政施策 と 年齢 の関係



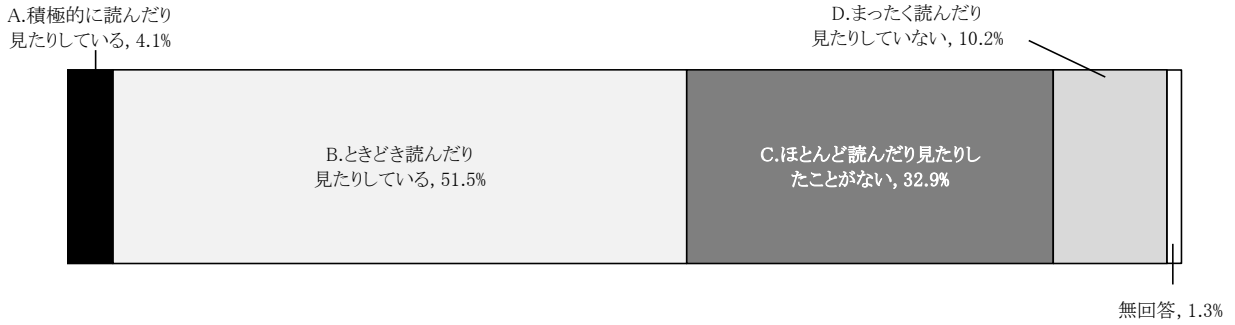
年齢別で見ると〔図 6-2〕、「A.学校において人権に関する教育を充実する」は、全ての年代で4割を超えて高くなっている。

「B.人権が侵害された人や社会的に弱い立場にある人のための相談体制を充実する」は、40歳代(44.2%)、50歳代(44.6%)が高い。

「F.人権侵害を行った人などに対し法的な規制をする」は、20歳代(24.7%)、30歳代(23.2%)が高い。

問 7-①（啓発物を読んだり見たりした経験）

県や市町村の広報誌や新聞記事、映画・テレビ番組などを通じて、人権問題に関する啓発活動を行っています。あなたはこれらを読んだり見たりしたことがありますか。（○は1つだけ）

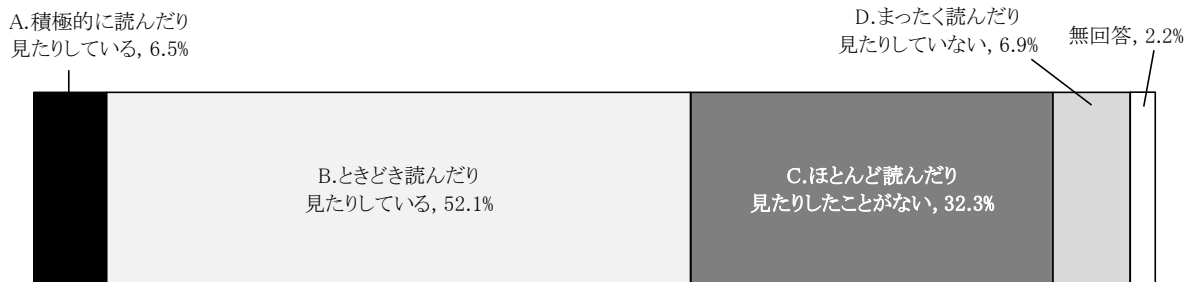


■人権問題に関して県や市町村が提供している広報誌等を、「A.積極的に読んだり見たりしている」、「B.ときどき読んだり見たりしている」と回答した人は、合わせて 55.6%となっている。これに対し、「C.ほとんど読んだり見たりしたことがない」、「D.まったく読んだり見たりしていない」は、合わせて 43.1%であった。

【参 考】 ※設問文、選択肢の文言の一部が前回に比べて異なっているため、参考としてご参照ください。

前回調査(H23 鳥取県人権意識調査)

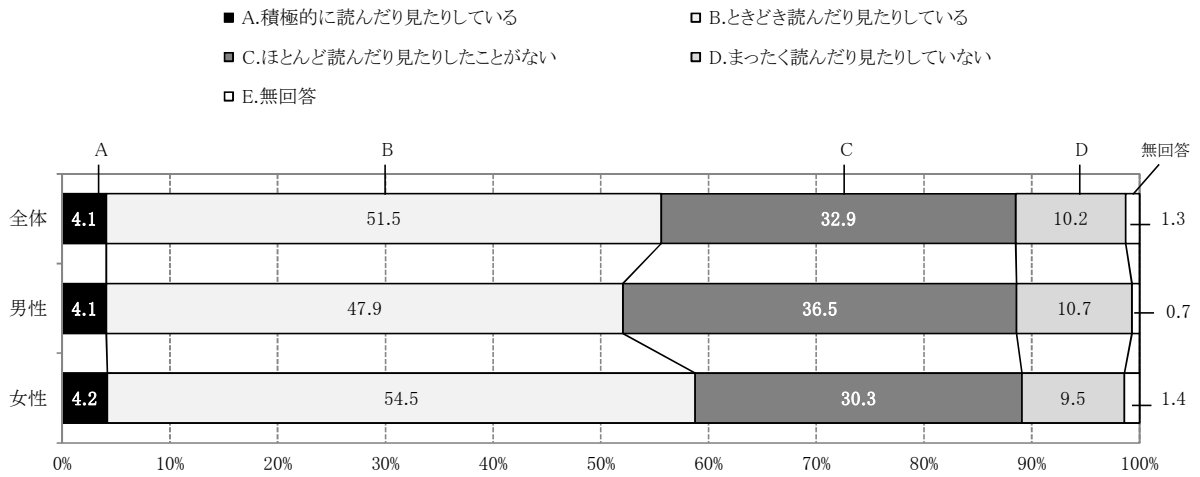
問 8-① 人権問題に関しては県や市町村の広報誌や新聞記事、映画・テレビ番組などを通じて啓発活動が行われていますが、これらを読んだり見たりしたことがありますか。（○は1つだけ）



人権問題に関して県や市町村が提供している広報誌等を「A.積極的に読んだり見たりしている」、「B.ときどき読んだり見たりしている」は合わせて 58.6%となっている。これに対し、「C.ほとんど読んだり見たりしたことがない」、「D.まったく読んだり見たりしていない」は合わせて 39.2%となっている。

【性別・年齢との関係】

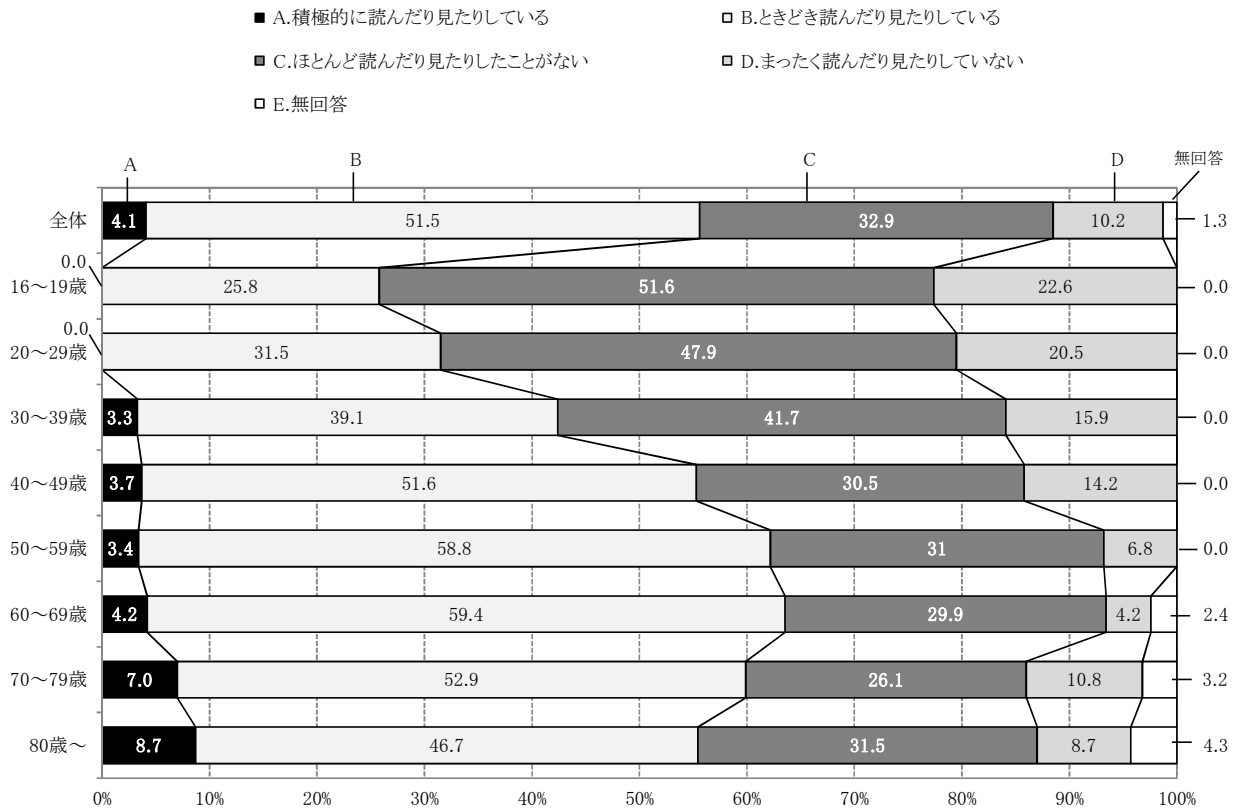
〔図 7-1〕 問 7-① 啓発物を読んだり見たりした経験 と 性別 の関係



性別でみると〔図 7-1〕、「A.積極的に読んだり見たりしている」、「B.ときどき読んだり見たりしている」を合わせると、女性の割合が男性より高くなっている(男性 52.0%、女性 58.7%)。

「C.ほとんど読んだり見たりしたことがない」、「D.まったく読んだり見たりしていない」を合わせると、男性の割合が女性より高くなっている(男性 47.2%、女性 39.8%)。

〔図 7-2〕 問 7-① 啓発物を読んだり見たりした経験 と 年齢 の関係



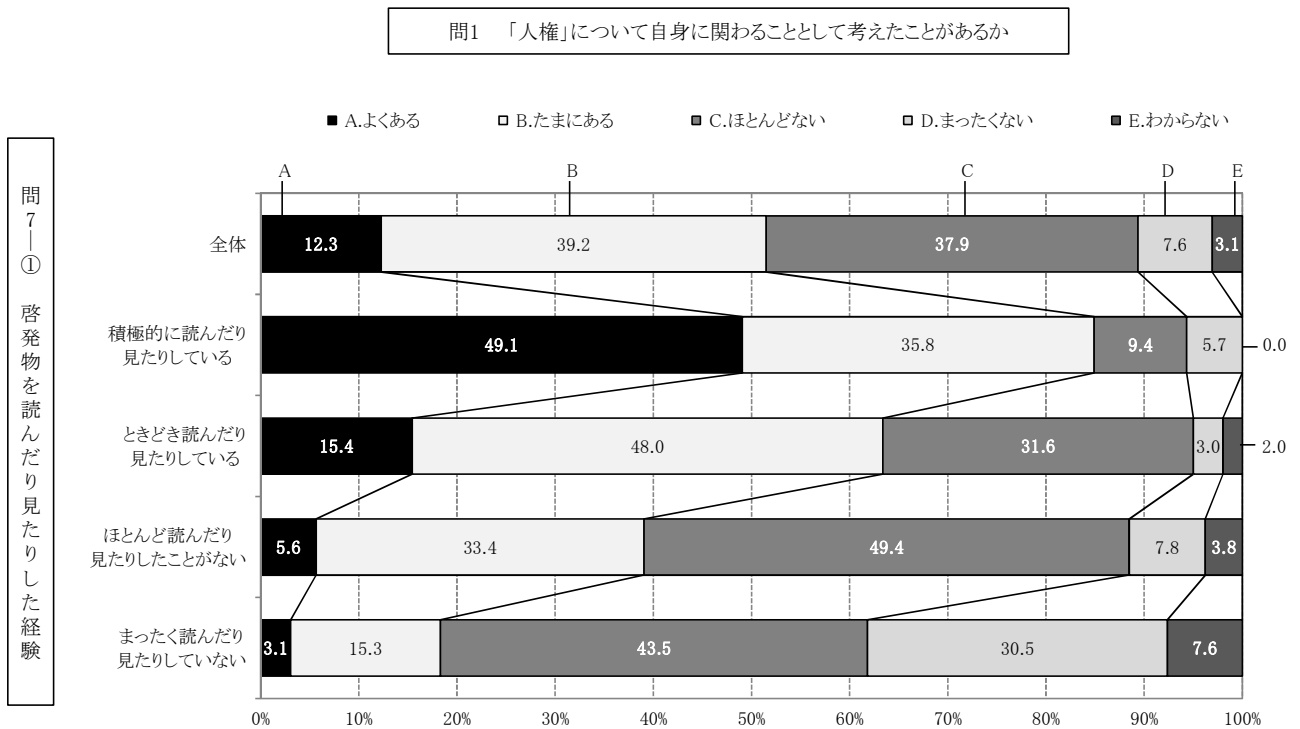
年齢別でみると〔図 7-2〕、40 歳代以上では、約 5～6 割の人が、「A.積極的に読んだり見たりしている」、「B.ときどき読んだり見たりしている」と回答している。

逆に、30 歳代以下では、約 6～7 割の人が、「C.ほとんど読んだり見たりしたことがない」、「D.まったく読んだり見たりしていない」と回答している。

【他の設問との関係】

〔図 7-3〕 問 7-① 啓発物を読んだり見たりした経験 と

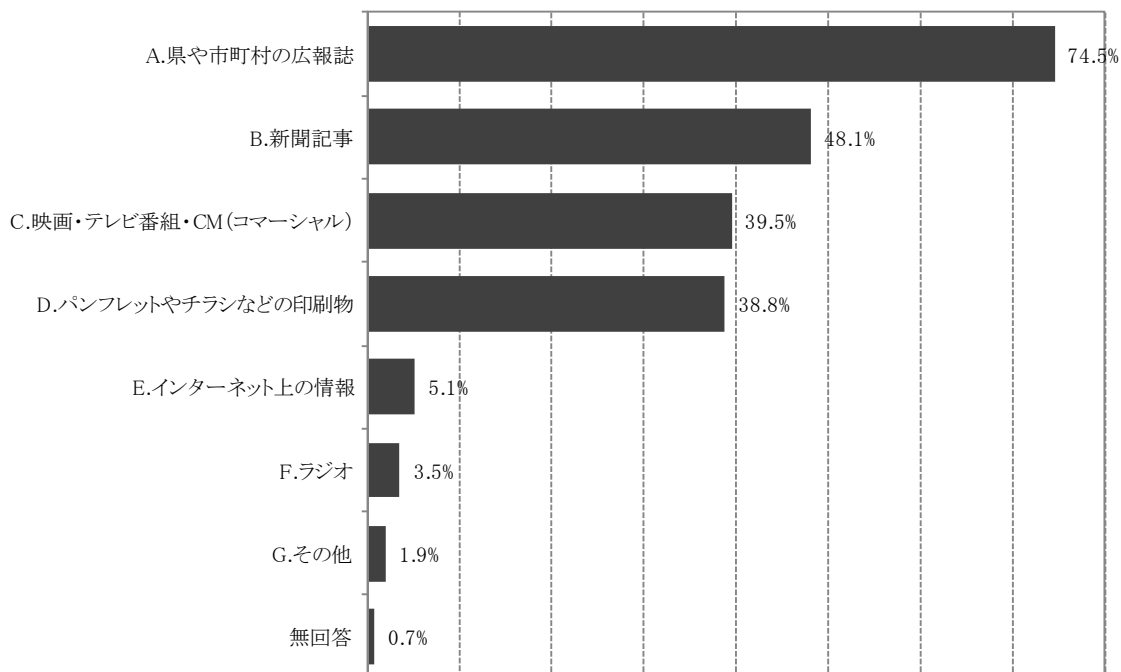
問 1 「人権」について自身に関わることとして考えたことがあるか の関係



問 1(「人権」について自身に関わることとして考えたことがあるか)との関係では〔図 7-3〕、啓発物を「積極的に読んだり見たりしている」、「ときどき読んだり見たりしている」と回答した人ほど、「人権」を自身に関わることとして考えたことが「A.よくある」、「B.たまにある」と回答している。また、啓発物を「ほとんど読んだり見たりしたことがない」、「まったく読んだり見たりしていない」と回答した人ほど、「人権」を自身に関わることとして考えたことが「C.ほとんどない」、「D.まったくない」と回答している。

問 7-②（啓発物の内容）

問 7-①で「積極的に読んだり見たりしている」または「ときどき読んだり見たりしている」を選択された方におたずねします。読んだり見たりしたことがある啓発物は何ですか？（○はいくつでも）

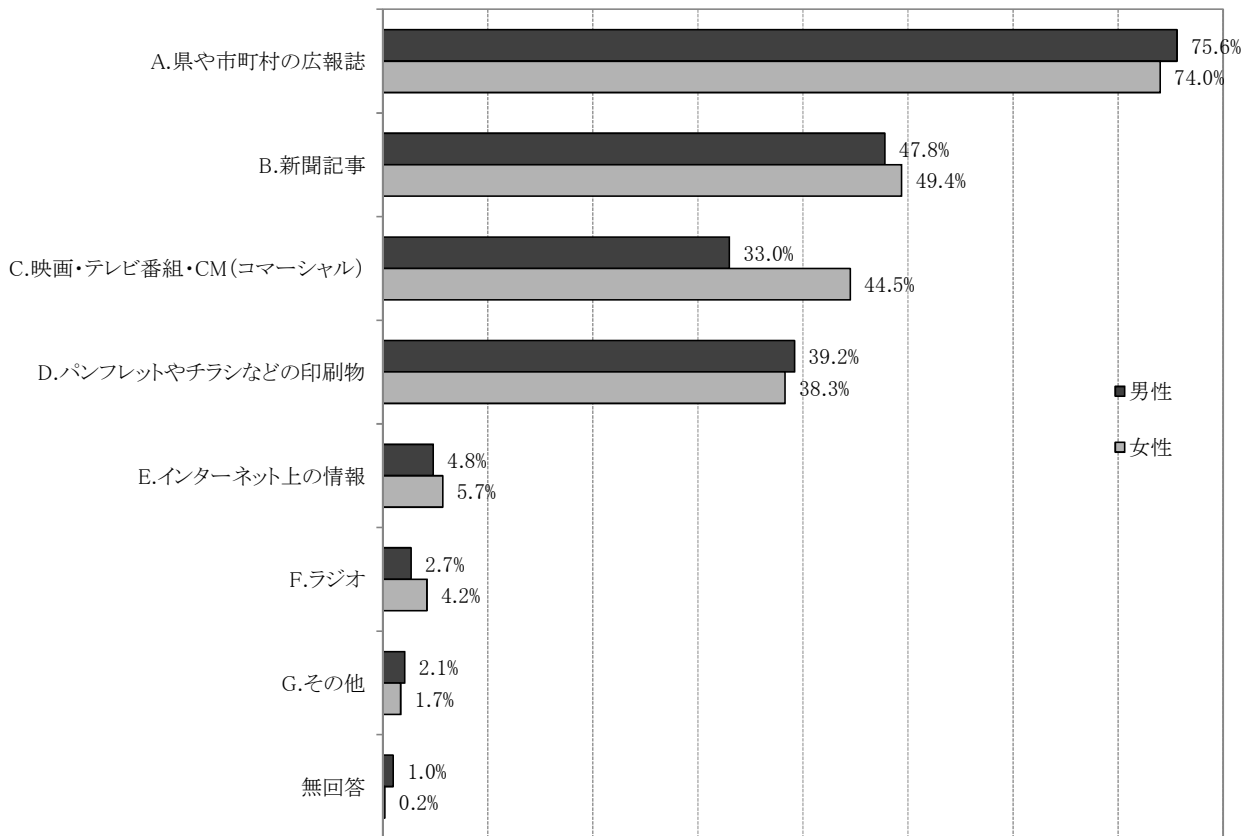


■人権問題に関して読んだり見たりしたことがある啓発物は、「A. 県や市町村の広報誌」(74.5%)が最も高く、次いで、「B. 新聞記事」(48.1%)、「C. 映画・テレビ番組・CM(コマーシャル)」(39.5%)、「D. パンフレットやチラシなどの印刷物」(38.8%)となっている。「E. インターネット上の情報」は 5.1%と低かった。

※前回調査なし

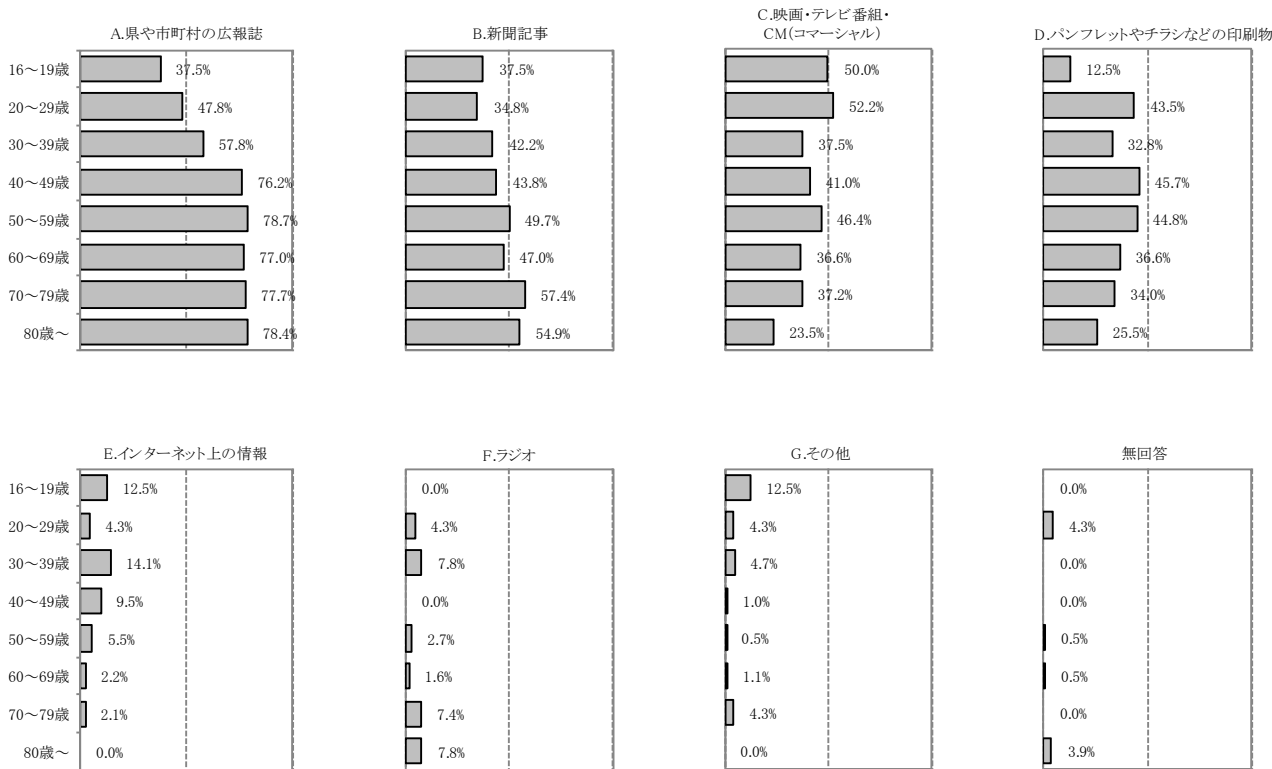
【性別・年齢との関係】

〔図 7-4〕 問 7-② 啓発物の内容 と 性別 の関係



性別で見ると〔図 7-4〕、「C. 映画・テレビ番組・CM(コマーシャル)」では、女性の方が大幅に高くなっている。

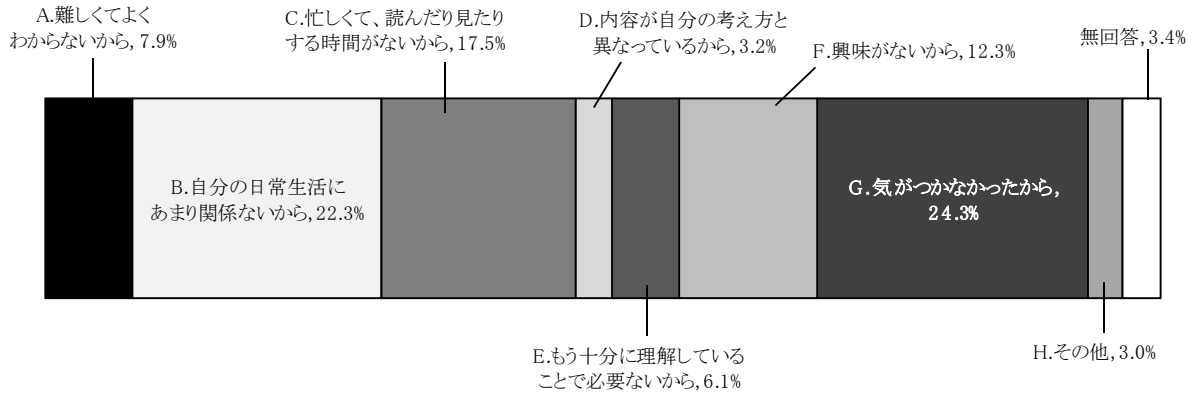
〔図 7-5〕 問 7-② 啓発物の内容 と 年齢 の関係



年齢別で見ると〔図 7-5〕、「A. 県や市町村の広報誌」は 40 歳代以上の 7 割以上が見たことがあると答えている。「C. 映画・テレビ番組・CM(コマーシャル)」では、16～19 歳(50.0%)、20 歳代(52.2%)が高くなっている。

問 7-③ (啓発物を読んだり見たりしない理由)

問 7-①で「ほとんど読んだり見たりしたことがない」または「まったく読んだり見たりしていない」を選択された方におたずねします。あなたが啓発物を読んだり見たりしなかった理由をお聞かせください。(○は1つだけ)

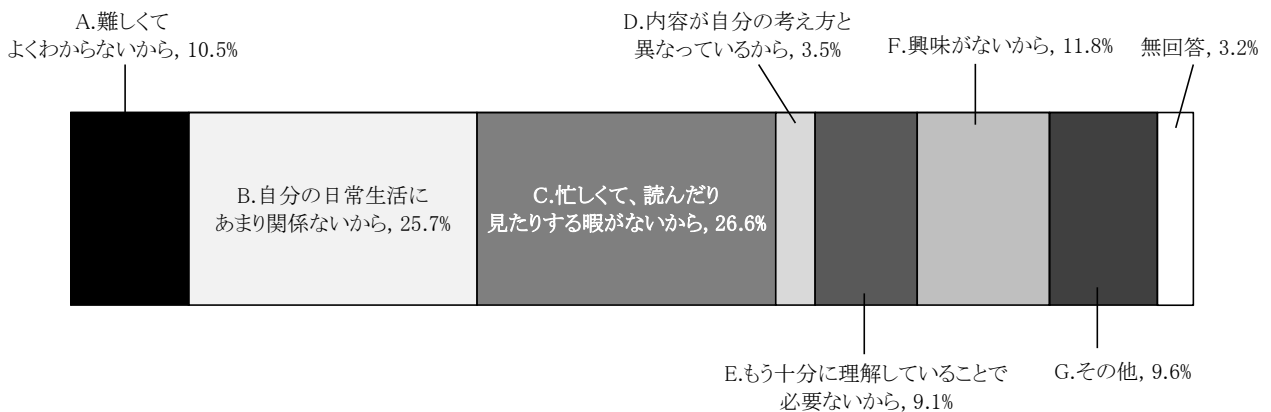


■人権問題に関する啓発物を読んだり見たりしなかった理由は、「G.気がつかなかったから」(24.3%)が最も高く、次いで、「B.自分の日常生活にあまり関係ないから」(22.3%)、「C.忙しくて、読んだり見たりする時間がないから」(17.5%)となっている。

【参考】 ※設問文、選択肢の文言の一部が前回に比べて異なっているため、参考としてご参照ください。

前回調査(H23 鳥取県人権意識調査)

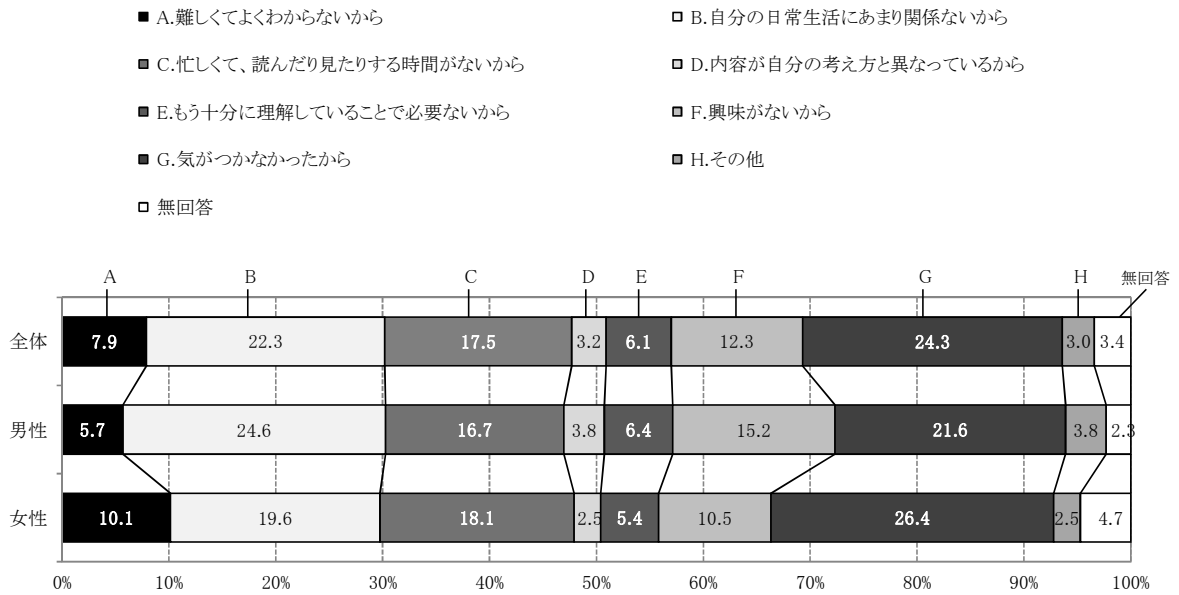
問 8-③ 問 8-①で「ほとんど読んだり見たりしたことがない」又は「まったく読んだり見たりしていない」と回答された方におたずねします。あなたが広報誌などを読んだり見たりしないのはなぜですか。(○は1つだけ)



県や市町村が作成している人権に関する啓発物を読んだり見たりしない理由は、「C.忙しくて、読んだり見たりする暇がないから」(26.6%)が最も高い。次いで「B.自分の日常生活にあまり関係ないから」(25.7%)、「F.興味がないから」(11.8%)、「A.難しくてよくわからないから」(10.5%)となっている。

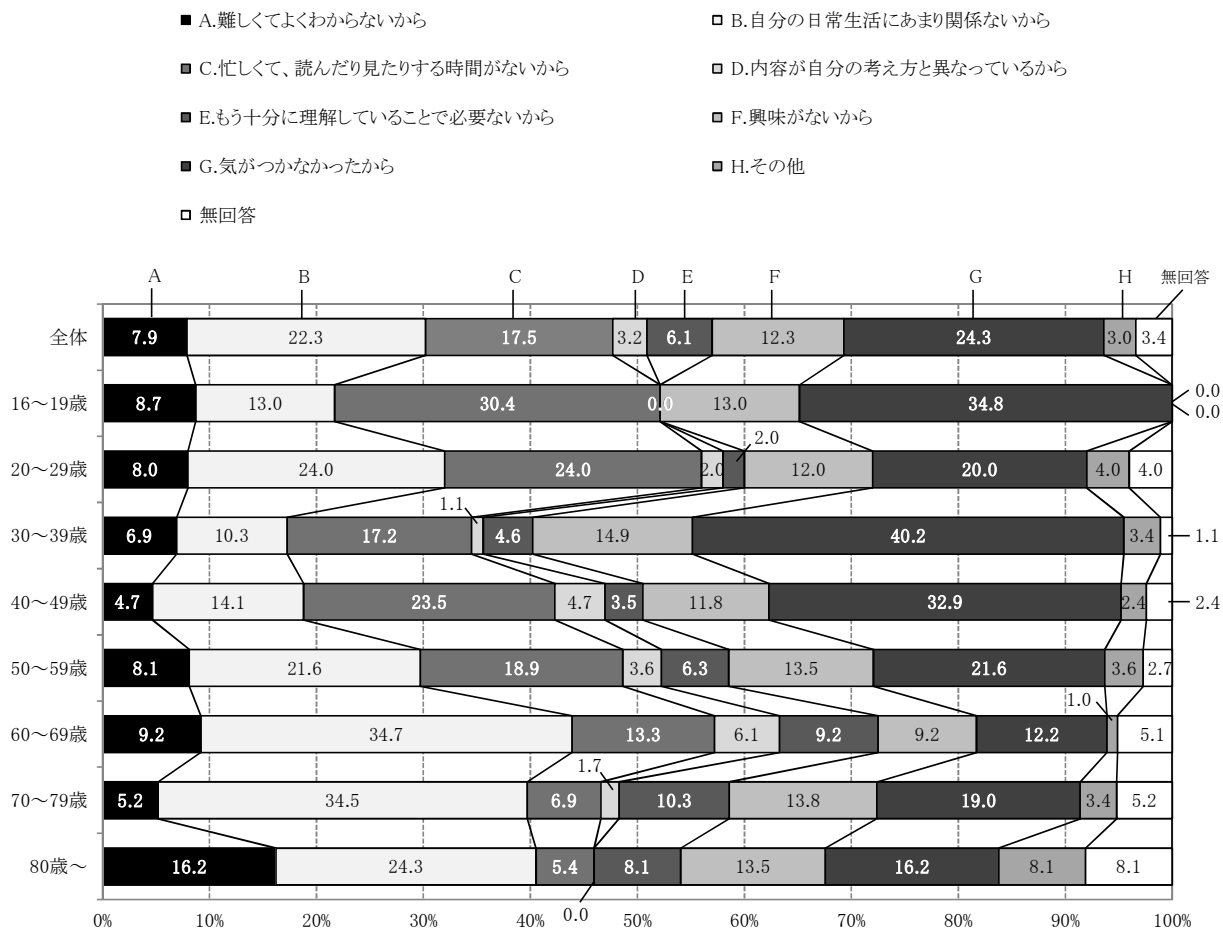
【性別・年齢との関係】

〔図 7-6〕 問 7-③ 啓発物を読んだり見たりしない理由 と 性別 の関係



性別でみると〔図 7-6〕、男性では「B.自分の日常生活にあまり関係ないから」(24.6%)、女性では「G.気がつかなかったから」(26.4%)が最も高くなっている。

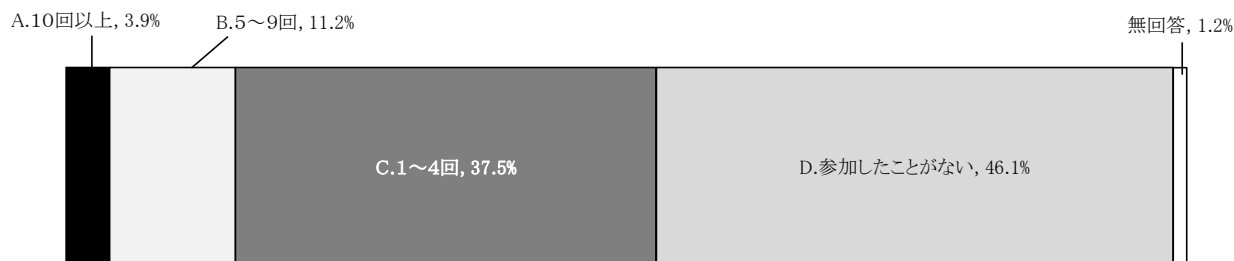
〔図 7-7〕 問 7-③ 啓発物を読んだり見たりしない理由 と 年齢 の関係



年齢別で見ると〔図 7-7〕、16～19歳、30歳代、40歳代では「G.気がつかなかったから」が最も高く、60歳代以上では「B.自分の日常生活にあまり関係ないから」が最も高くなっている。

問 8-①（研修会等への参加回数）

あなたは、過去5年間に人権問題に関する講演会や研修会、地域の学習会等に何回参加しましたか。
(○は1つだけ)

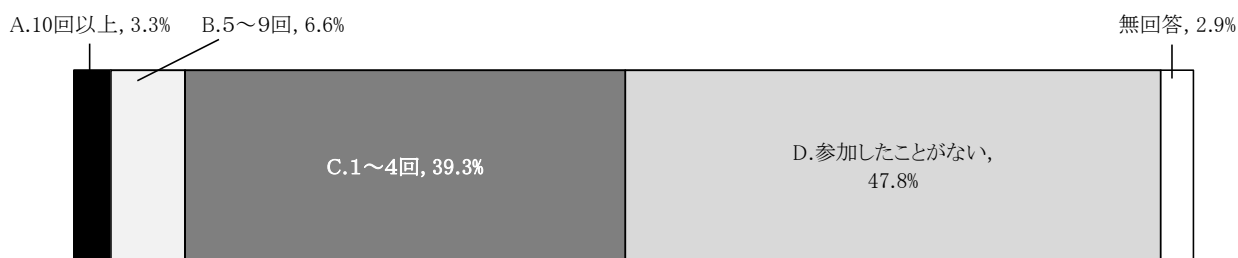


■過去5年間に人権問題に関する研修会等に参加したことがある人は、52.6%となっている。

【参 考】 ※設問文、選択肢の文言の一部が前回に比べて異なっているため、参考としてご参照ください。

前回調査(H23 鳥取県人権意識調査)

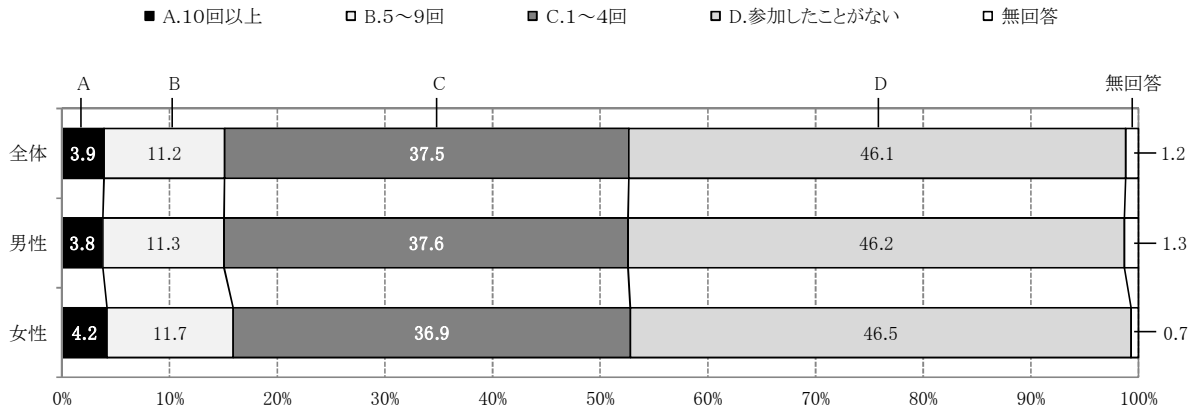
問 9-① 過去3年ぐらいの間に人権問題に関する講演会や研修会に何回くらい参加しましたか。(○は1つだけ)



過去3年間に人権問題に関する研修会等へ参加したことがある人は 49.2%となっている。

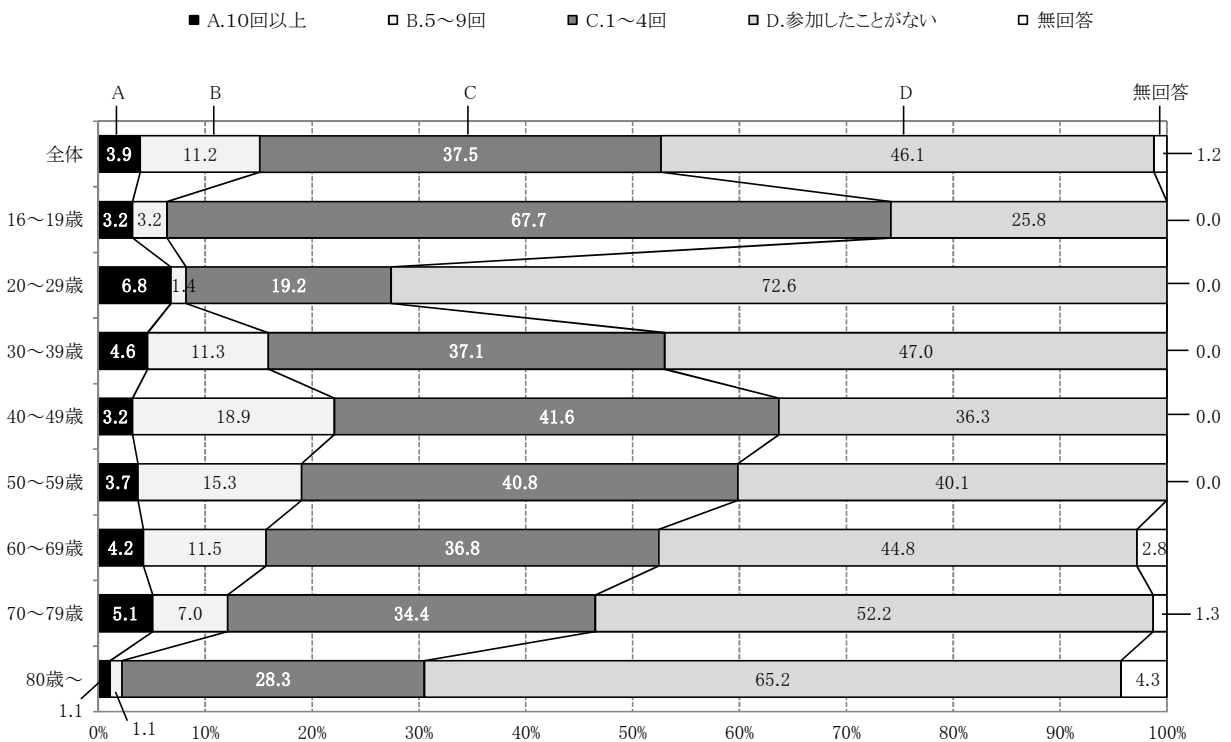
【性別・年齢との関係】

〔図 8-1〕 問 8-① 研修会等への参加回数 と 性別 の関係



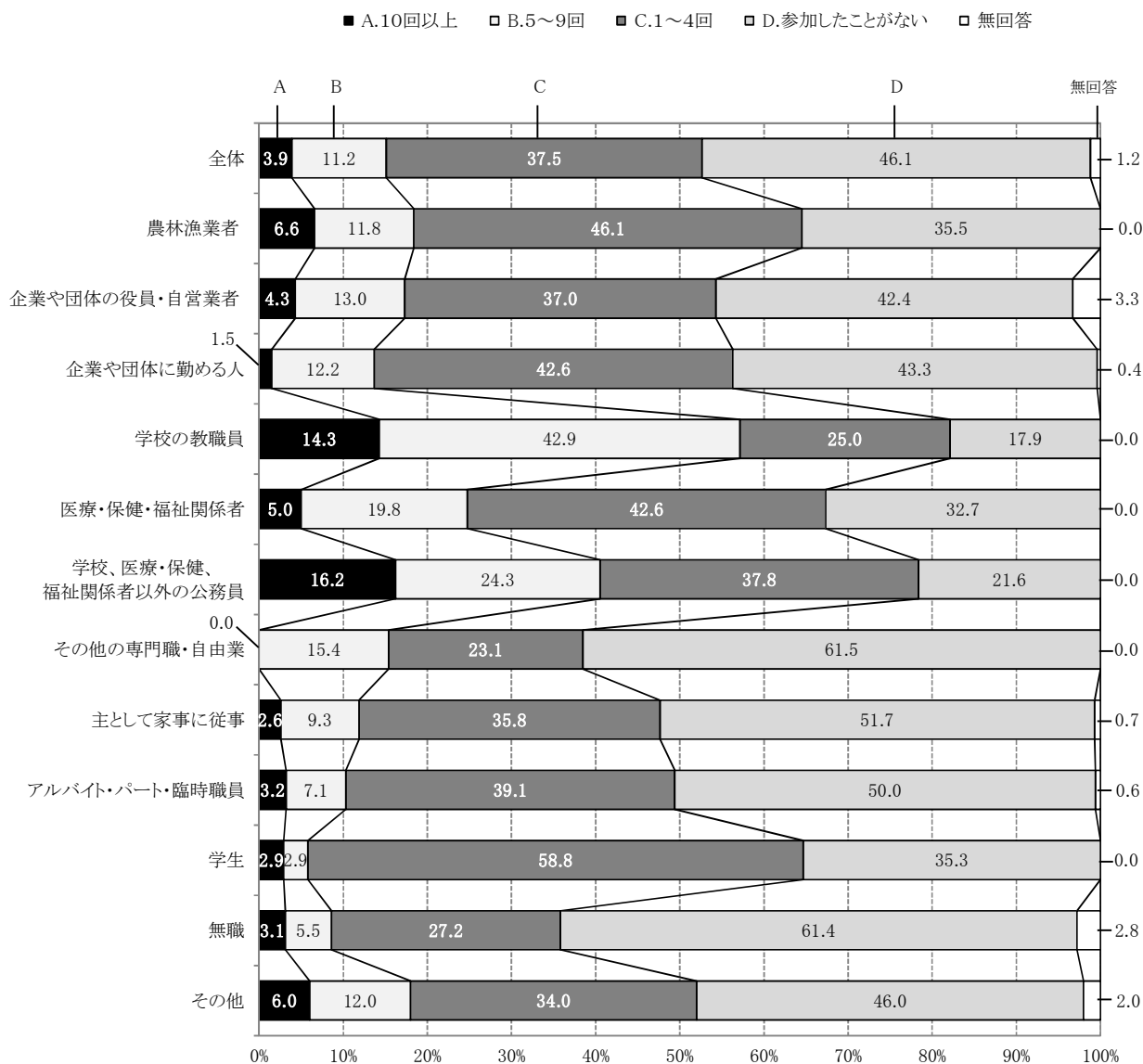
性別でみると〔図 8-1〕、過去 5 年間に 1 回以上研修会等へ参加したことがあると回答した人の割合は、男性が 52.7%、女性が 52.8%となっており、あまり差がない。

〔図 8-2〕 問 8-① 研修会等への参加回数 と 年齢 の関係



年齢別でみると〔図 8-2〕、過去 5 年間に 1 回以上研修会等へ参加したことがあると回答した人の割合は、16～19 歳 (74.1%) が最も高く、次いで 40 歳代 (63.7%)、50 歳代 (59.8%) となっている。最も低いのは 20 歳代で 27.4%となっている。

〔図 8-3〕 問 8-① 研修会等への参加回数 と 職業 の関係



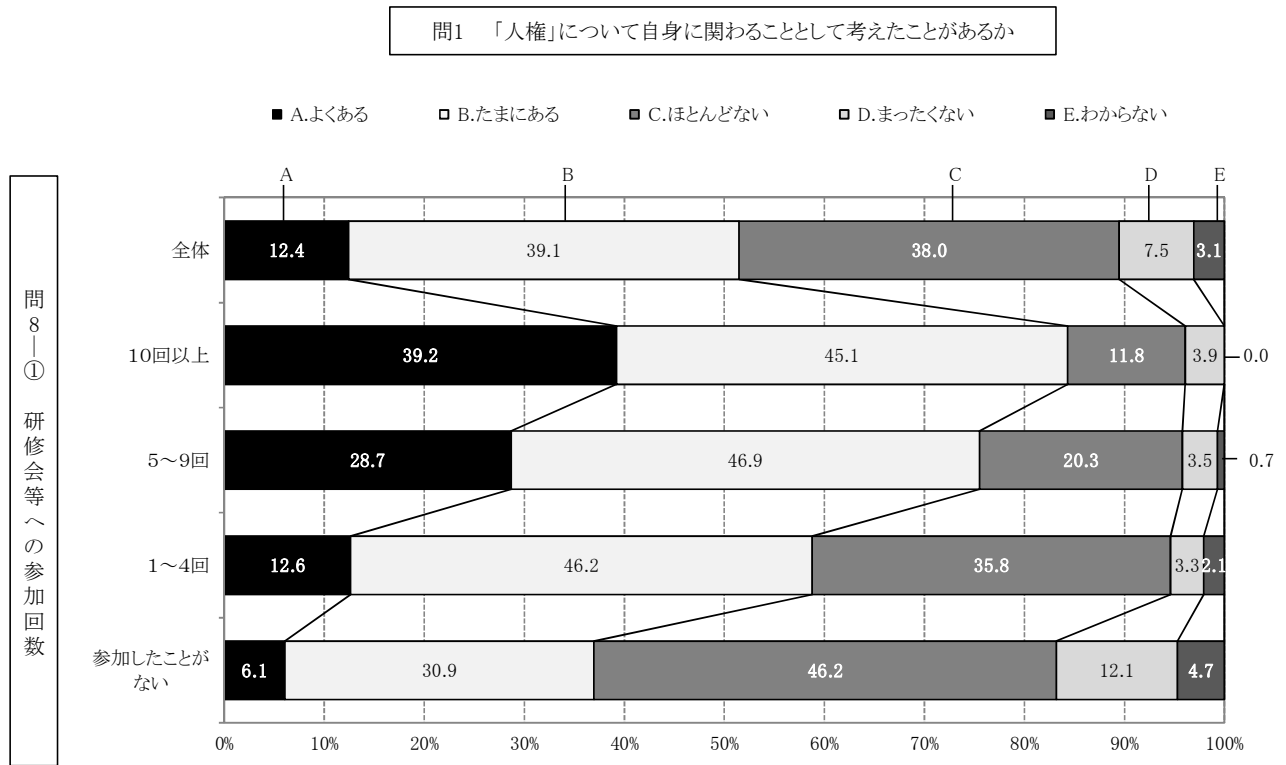
職業別で見ると〔図 8-3〕、過去 5 年間に 1 回以上研修会等へ参加したことがあると回答した人の割合が最も高いのは、「学校の教職員」(82.2%)となっており、次いで、「学校、医療・保健、福祉関係者以外の公務員」(78.3%)となっている。

最も低いのは「無職」(35.8%)で、次いで、「その他の専門職・自由業(弁護士・税理士・公認会計士・宗教家・芸術家等)」(38.5%)となっている。

【他の設問との関係】

〔図 8-4〕 問 8-① 研修会等への参加回数 と

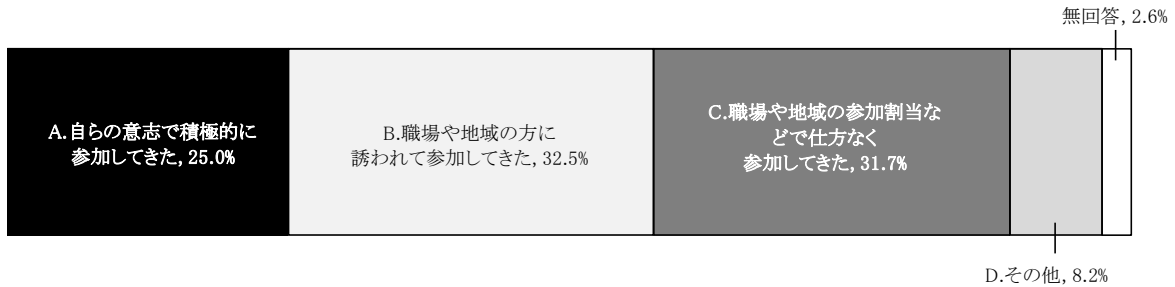
問1「人権」について自身に関わることとして考えたことがあるか の関係



問1(「人権」について自身に関わることとして考えたことがあるか)との関係では〔図 8-4〕、研修会に1回以上参加した人では、「人権」を自身に関わることとして考えたことが「A.よくある」、「B.たまにある」が高くなっており、その割合は参加回数の多さに比例している。研修会に「参加したことがない」と回答した人では、「C.ほとんどない」、「D.まったくない」が高くなっている。

問 8-② (研修会へ参加した理由)

問 8-①で「10回以上」「5～9回」「1～4回」を選択された方におたずねします。それはどのような意識で参加しましたか。(○は1つだけ)

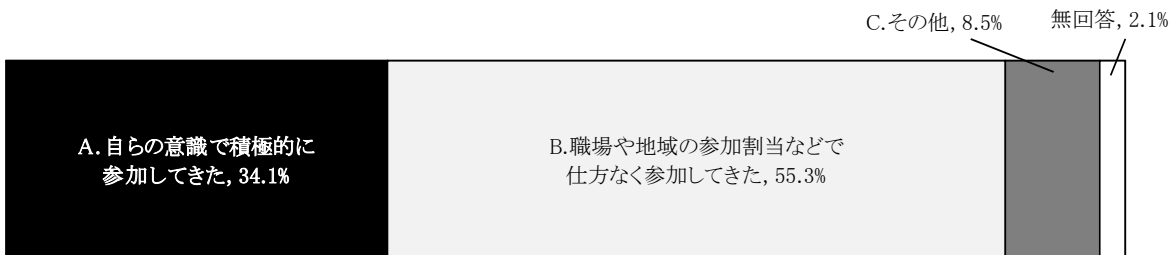


■人権問題に関する研修会等へ参加した理由は、「B.職場や地域の方に誘われて参加してきた」(32.5%)が最も高く、次いで、「C.職場や地域の参加割当などで仕方なく参加してきた」(31.7%)となっている。

【参考】 ※設問文、選択肢の文言の一部が前回に比べて異なっているため、参考としてご参照ください。

前回調査(H23 鳥取県人権意識調査)

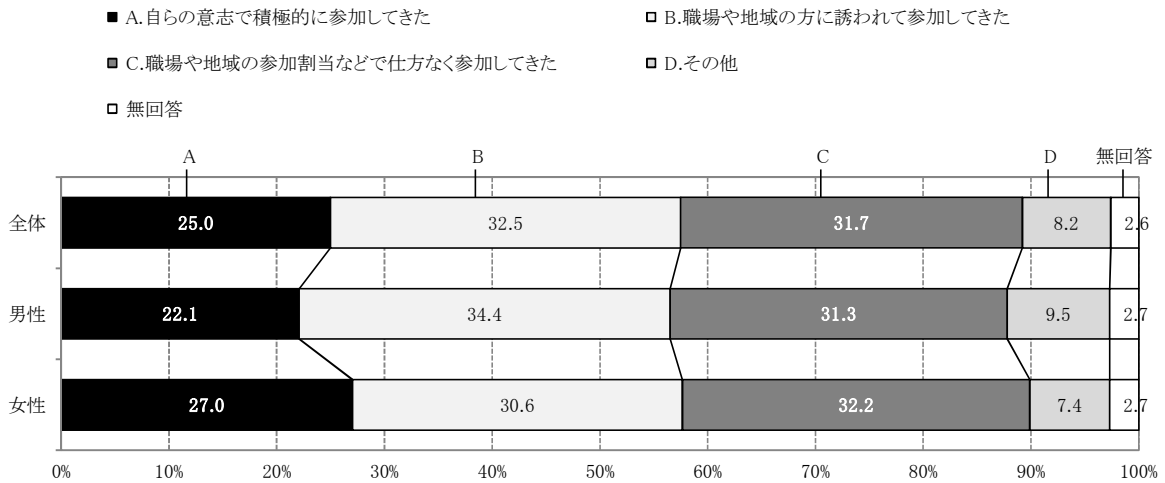
問 9-② 問 9-①で「10回以上」「5～9回」「1～4回」を選択された方におたずねします。それはどのような意識で参加しましたか。(○は1つだけ)



研修会等へ参加した理由は、「B.職場や地域の参加割当などで仕方なく参加してきた」(55.3%)が最も高い。次いで「A.自らの意識で積極的に参加してきた」(34.1%)となっている。

【性別・年齢との関係】

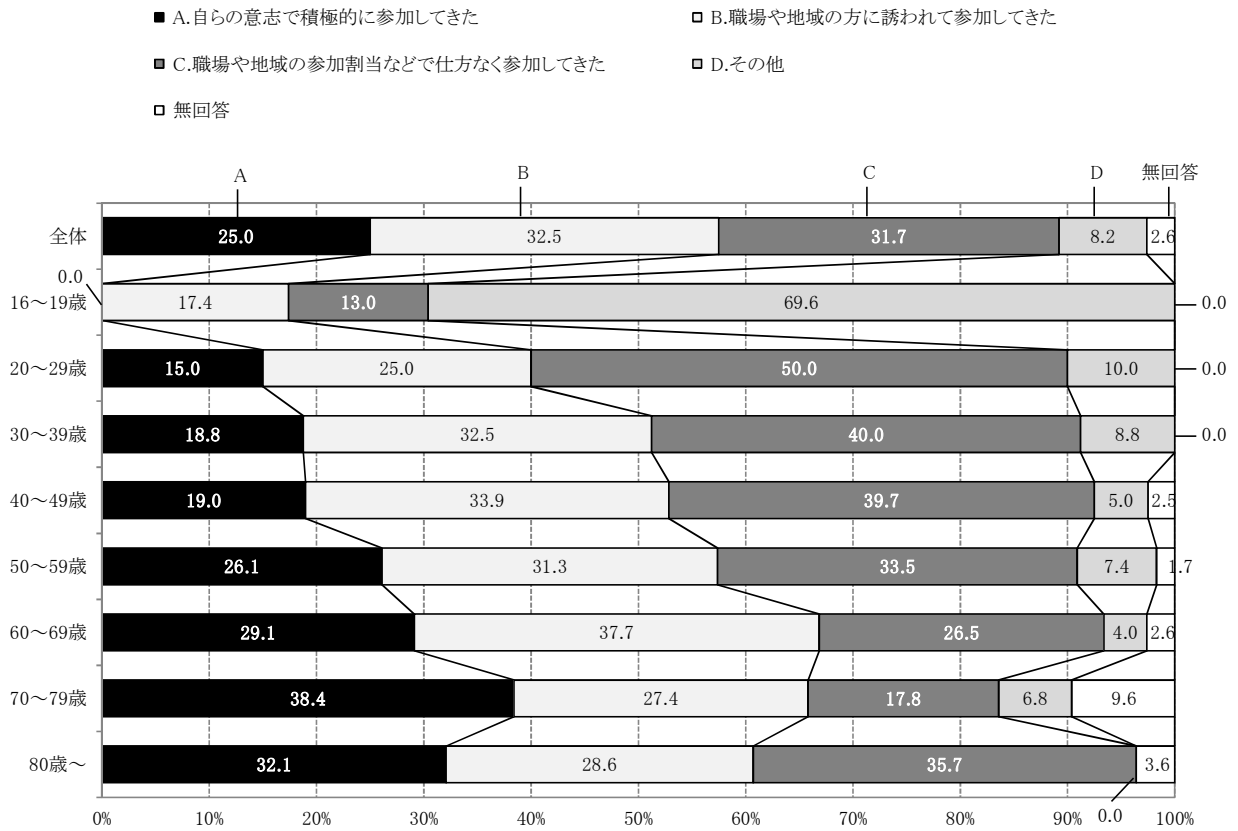
〔図 8-5〕 問 8-② 研修会へ参加した理由 と 性別 の関係



性別でみると〔図 8-5〕、男性では「B.職場や地域の方に誘われて参加してきた」(34.4%)が最も高く、女性では「C.職場や地域の参加割当などで仕方なく参加してきた」(32.2%)が最も高い。

「A.自らの意志で積極的に参加してきた」と回答した人の割合は、男性が 22.1%、女性が 27.0%となっており、女性の方が高い。

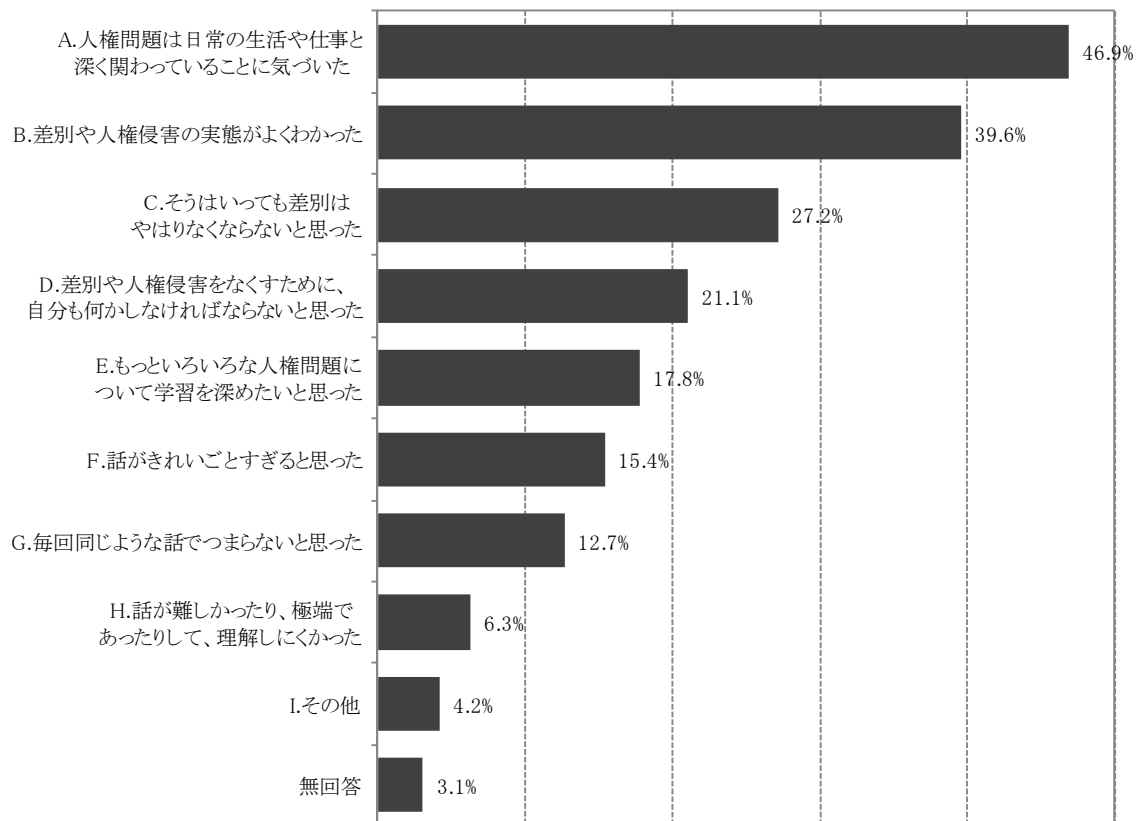
〔図 8-6〕 問 8-② 研修会へ参加した理由 と 年齢 の関係



年齢別で見ると〔図 8-6〕、「A.自らの意志で積極的に参加してきた」は、70 歳代(38.4%)で最も高く、年代が上がるほど高い傾向にある。

問 8-③ (研修会へ参加した感想)

同じく問 8-①で「10回以上」「5～9回」「1～4回」を選択された方におたずねします。参加してどのような感想を持ちましたか。(〇は3つ以内)



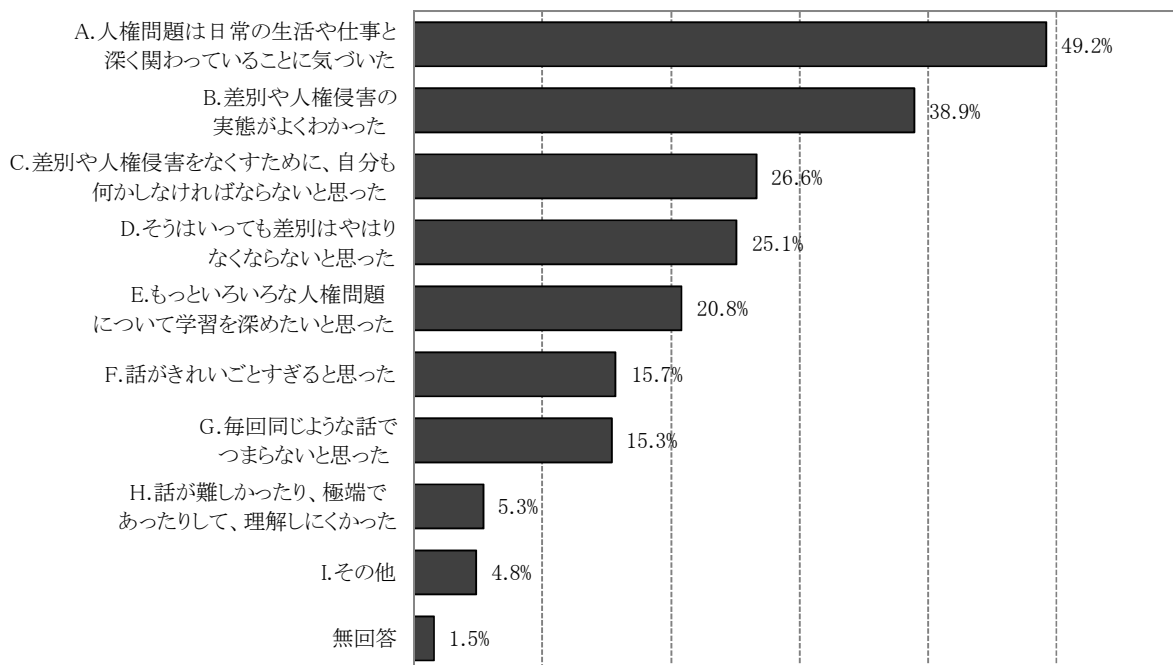
■研修会等へ参加して感じたことは、「A.人権問題は日常の生活や仕事と深く関わっていることに気づいた」(46.9%)が最も高く、次いで、「B.差別や人権侵害の実態がよくわかった」(39.6%)となっている。

一方、「C.そうはいつでも差別はやはりなくならないと思った」と回答した人も、27.2%に上る。

【参考】 ※設問文、選択肢の文言の一部が前回に比べて異なっているため、参考としてご参照ください。

前回調査(H23 鳥取県人権意識調査)

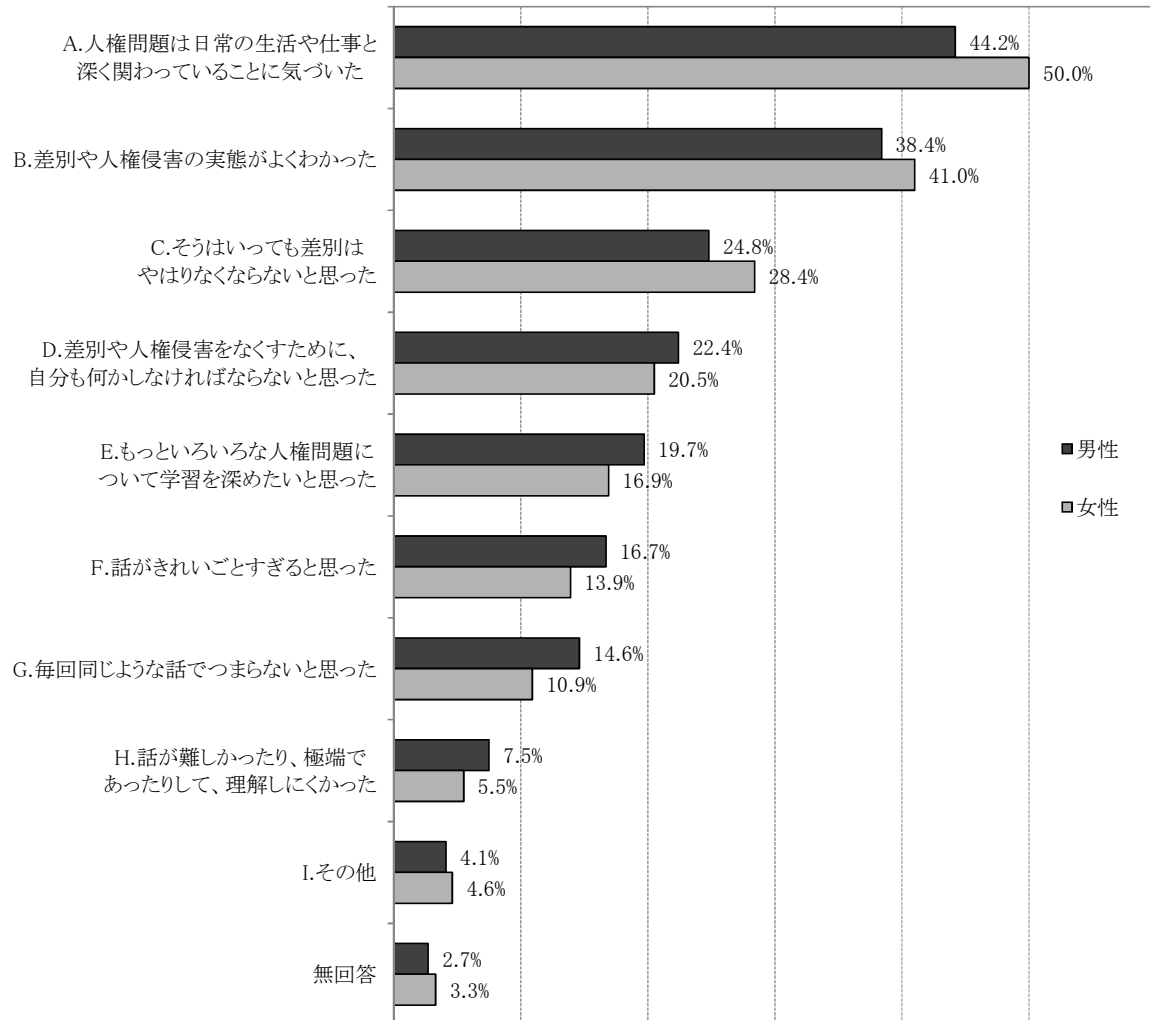
問 9-③ 同じく問 9-①で「10回以上」「5～9回」「1～4回」を選択された方におたずねします。人権問題についての講演会や研修会に参加されてどのような感想を持たれましたか。あなたの考えに近いものをお答えください。
(〇は3つ以内)



研修会等へ参加し感じたことは、「A.人権問題は日常の生活や仕事と深く関わっていることに気づいた」(49.2%)が最も高い。次いで「B.差別や人権侵害の実態がよくわかった」(38.9%)、「C.差別や人権侵害をなくすために、自分も何かしなければならなかった」(26.6%)となっている。他方、「D.そうはいつでも差別はやはりなくなれないと思った」と回答した人も 25.1%に上る。

【性別・年齢との関係】

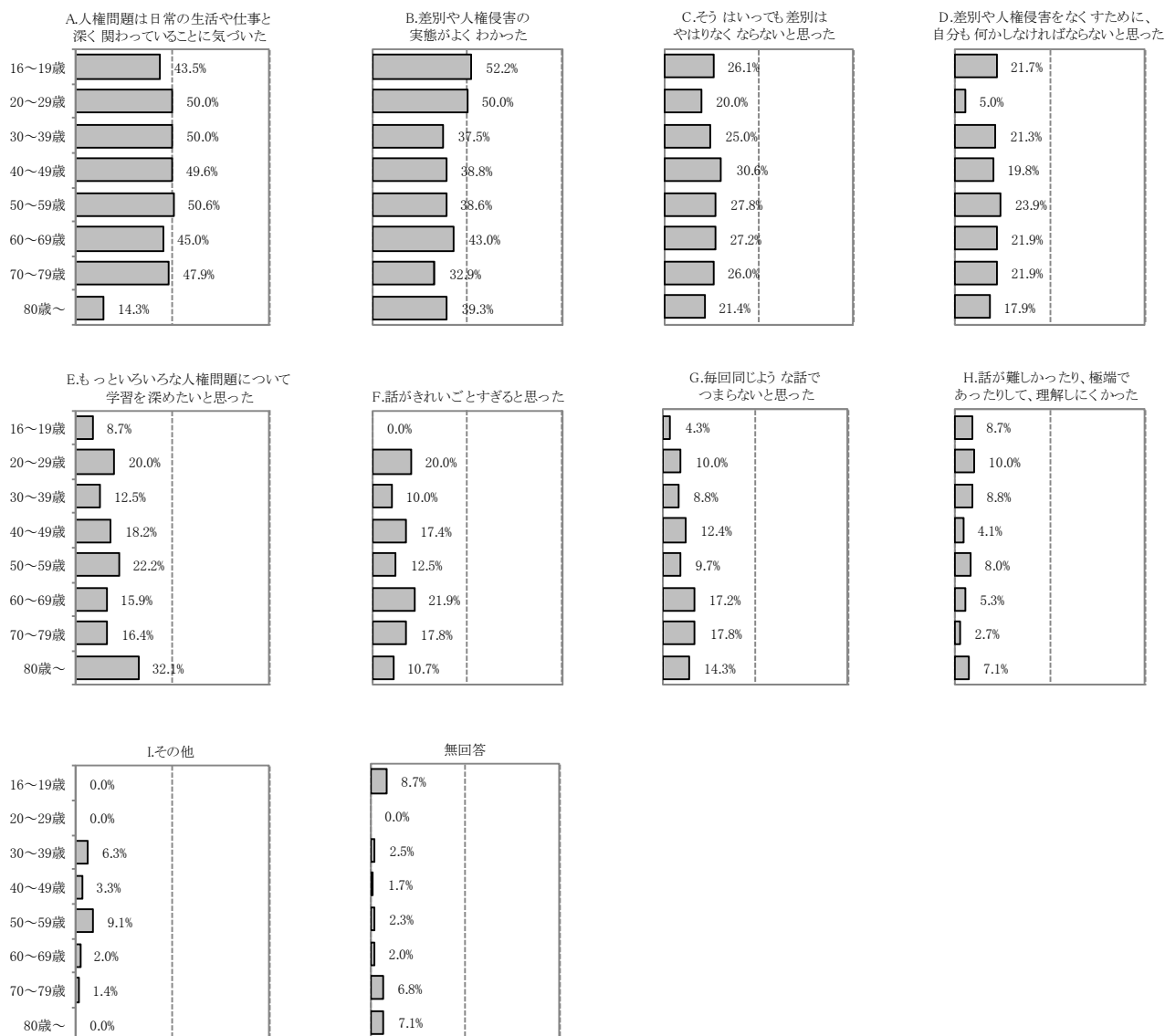
〔図 8-7〕 問 8-③ 研修会へ参加した感想 と 性別 の関係



性別でみると〔図 8-7〕、「G. 毎回同じような話でつまらないと思った」では、男性の方が大幅に高くなっている。

「A. 人権問題は日常の生活や仕事と深く関わっていることに気づいた」では、女性の方が大幅に高くなっている。

〔図 8-8〕 問 8-③ 研修会へ参加した感想 と 年齢 の関係

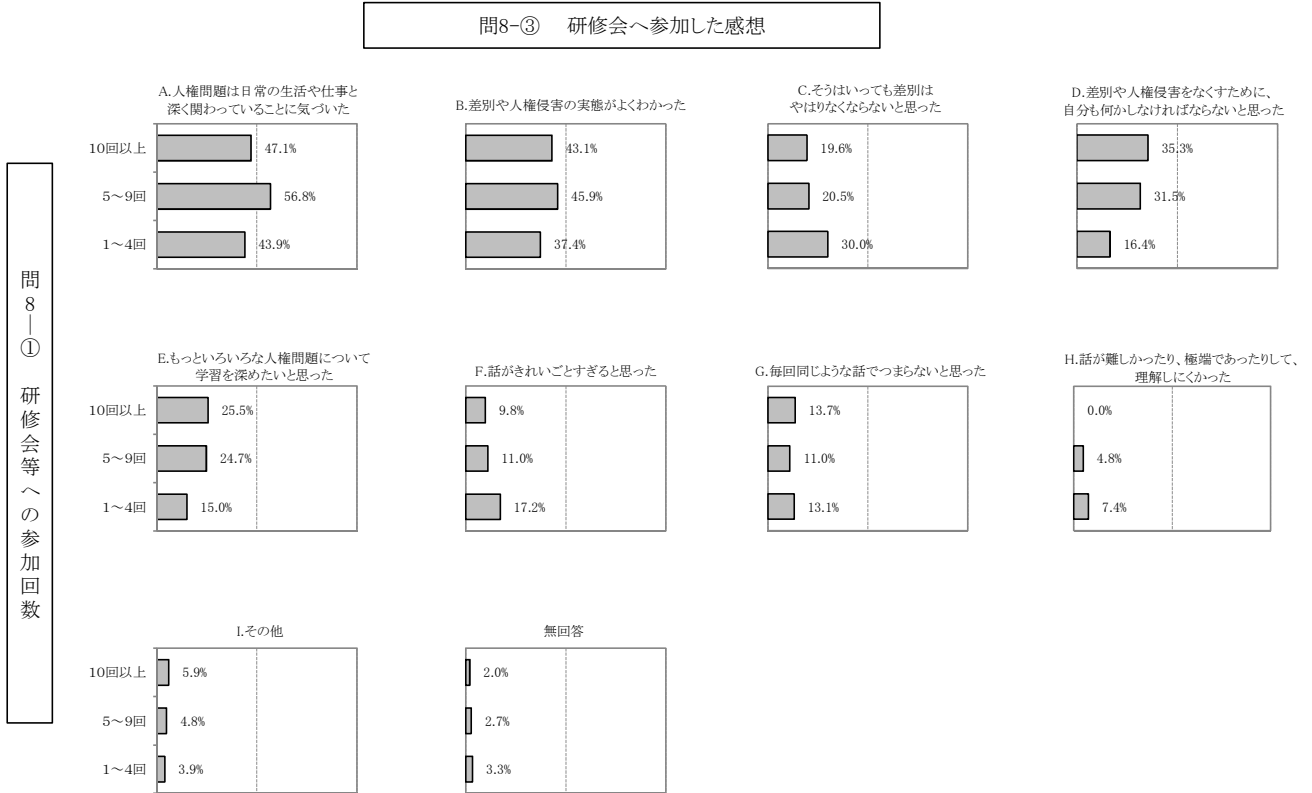


年齢別で見ると〔図 8-8〕、「B.差別や人権侵害の実態がよくわかった」は、16~19 歳、20 歳代で高く、5 割以上となっている。

80 歳代では、「A.人権問題は日常の生活や仕事と深く関わっていることに気づいた」(14.3%)が、他の年代に比べて低く、逆に「E.もっといろいろな人権問題について学習を深めたいと思った」(32.1%)は、他の年代より高くなっている。

【他の設問との関係】

〔図 8-9〕 問 8-③ 研修会へ参加した感想 と 問 8-① 研修会等への参加回数 の関係

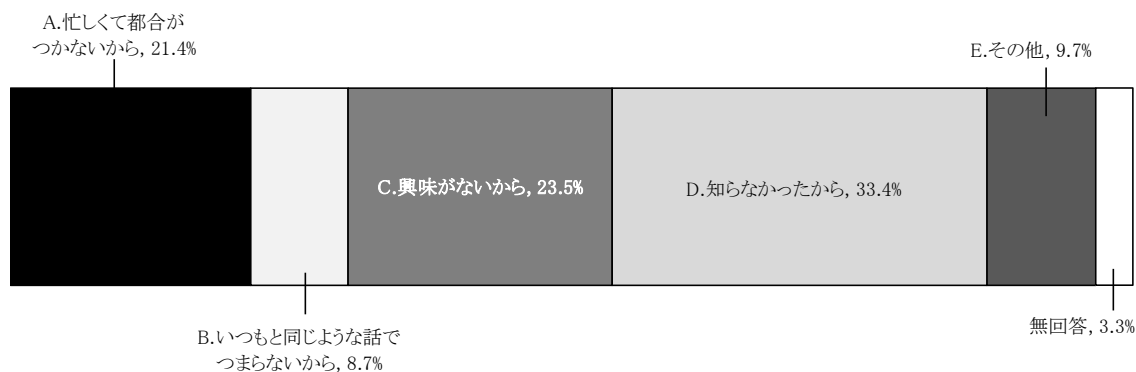


問 8-①(研修会等への参加回数)との関係では〔図 8-9〕、研修会等への参加回数が多いほど、「D.差別や人権侵害をなくすために自分も何かしなければならなかった」と回答する人の割合が高い。

逆に、参加回数が少ないほど、「C.そうはいつでも差別はやはりなくならないと思った」、「F.話がきれいごとすぎると思った」と回答する割合が高くなっている。

問 8-④（研修会へ参加しなかった理由）

問 8-①で「参加したことがない」を選択された方におたずねします。参加しなかった理由をお聞かせください。（〇は1つだけ）

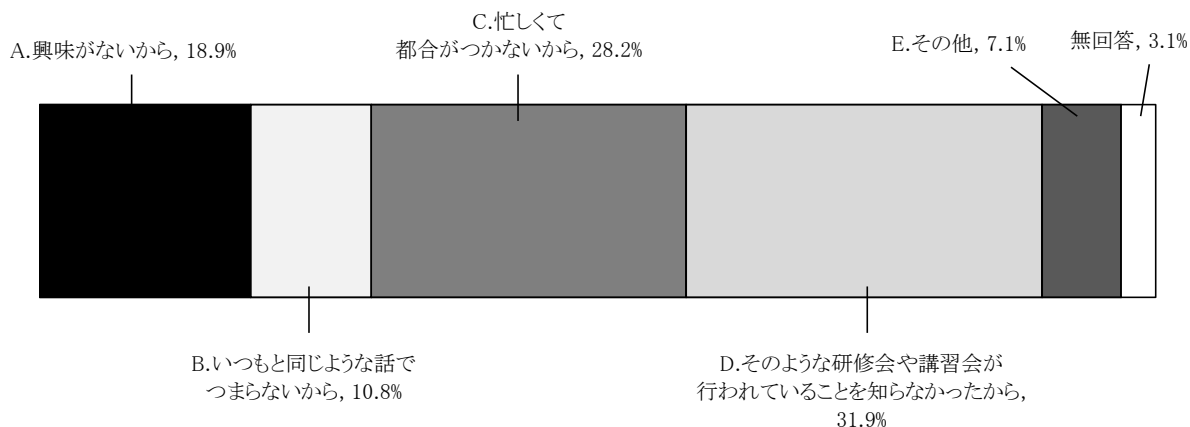


■ 研修会等へ参加しなかった理由は、「D. 知らなかったから」(33.4%)が最も高く、次いで、「C. 興味がないから」(23.5%)、「A. 忙しくて都合がつかないから」(21.4%)となっている。

【参考】 ※設問文、選択肢の文言の一部が前回に比べて異なっているため、参考としてご参照ください。

前回調査(H23 鳥取県人権意識調査)

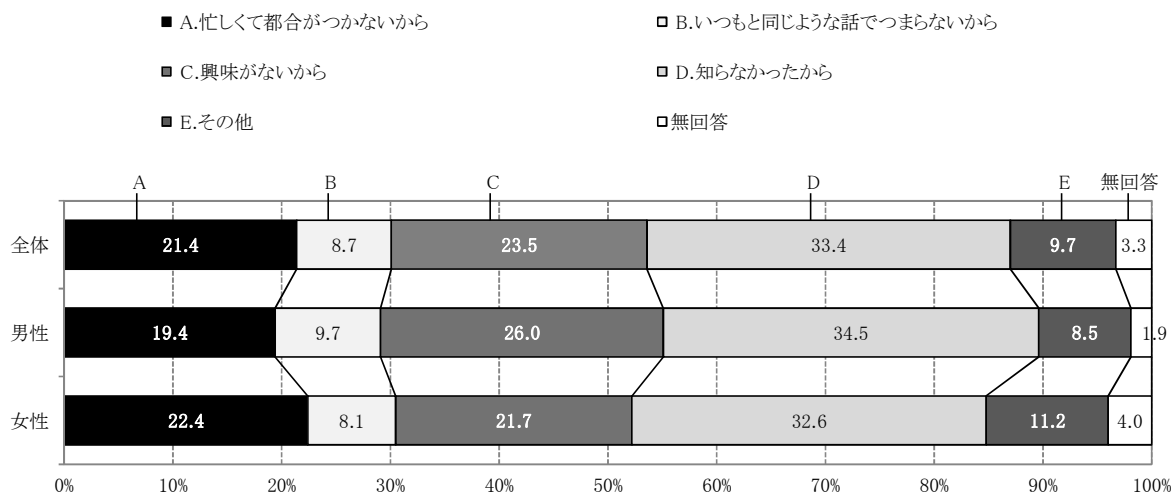
問 9-④ 問 9-①で「参加したことがない」を選択された方におたずねします。参加されなかったのはなぜですか。（〇は1つだけ）



研修会等に参加しなかった理由は、「D. そのような研修会や講習会が行われていることを知らなかったから」(31.9%)が最も高い。次いで「C. 忙しくて都合がつかないから」(28.2%)、「A. 興味がないから」(18.9%)となっている。

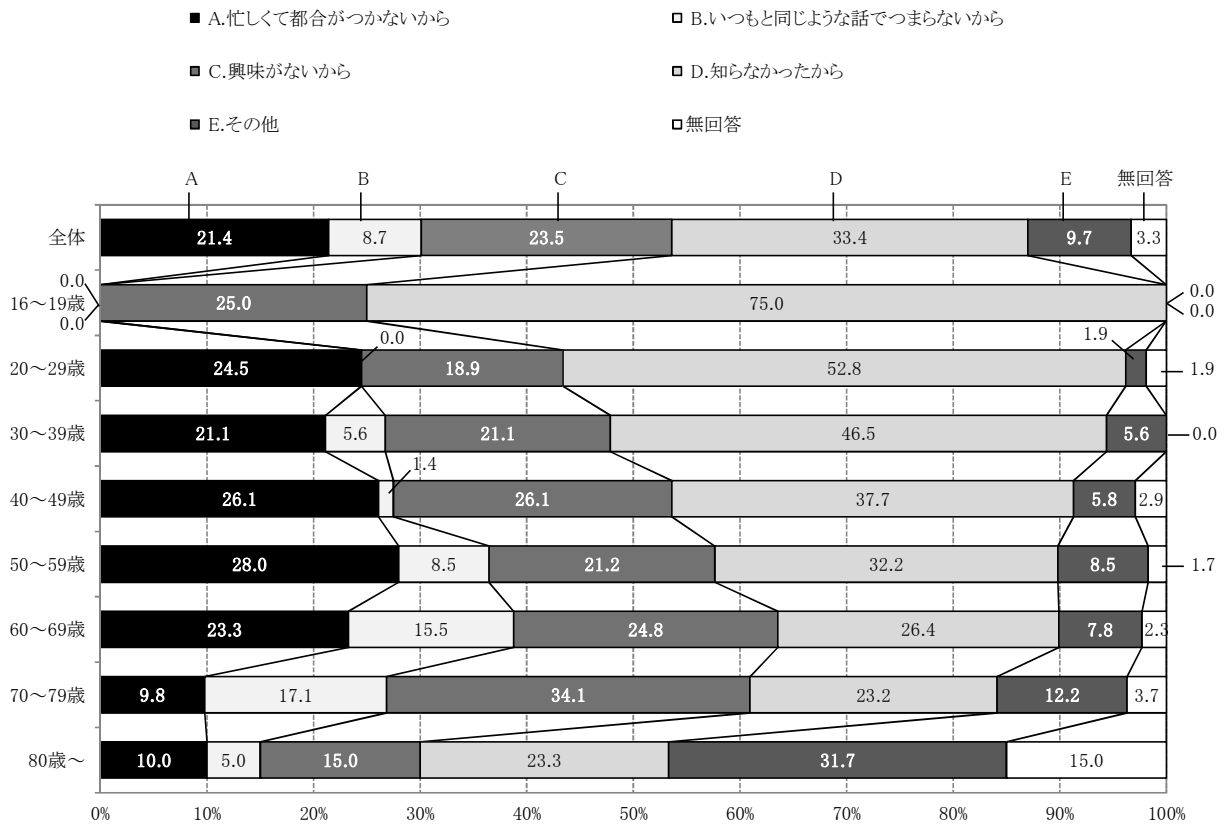
【性別・年齢との関係】

〔図 8-10〕 問 8-④ 研修会へ参加しなかった理由 と 性別 の関係



性別でみると〔図 8-10〕、男女ともに「D. 知らなかったから」(男性 34.5%、女性 32.6%)が最も高くなっている。「C. 興味がないから」は、女性より男性の割合が高くなっている(男性 26.0%、女性 21.7%)。

〔図 8-11〕 問 8-④ 研修会へ参加しなかった理由 と 年齢 の関係



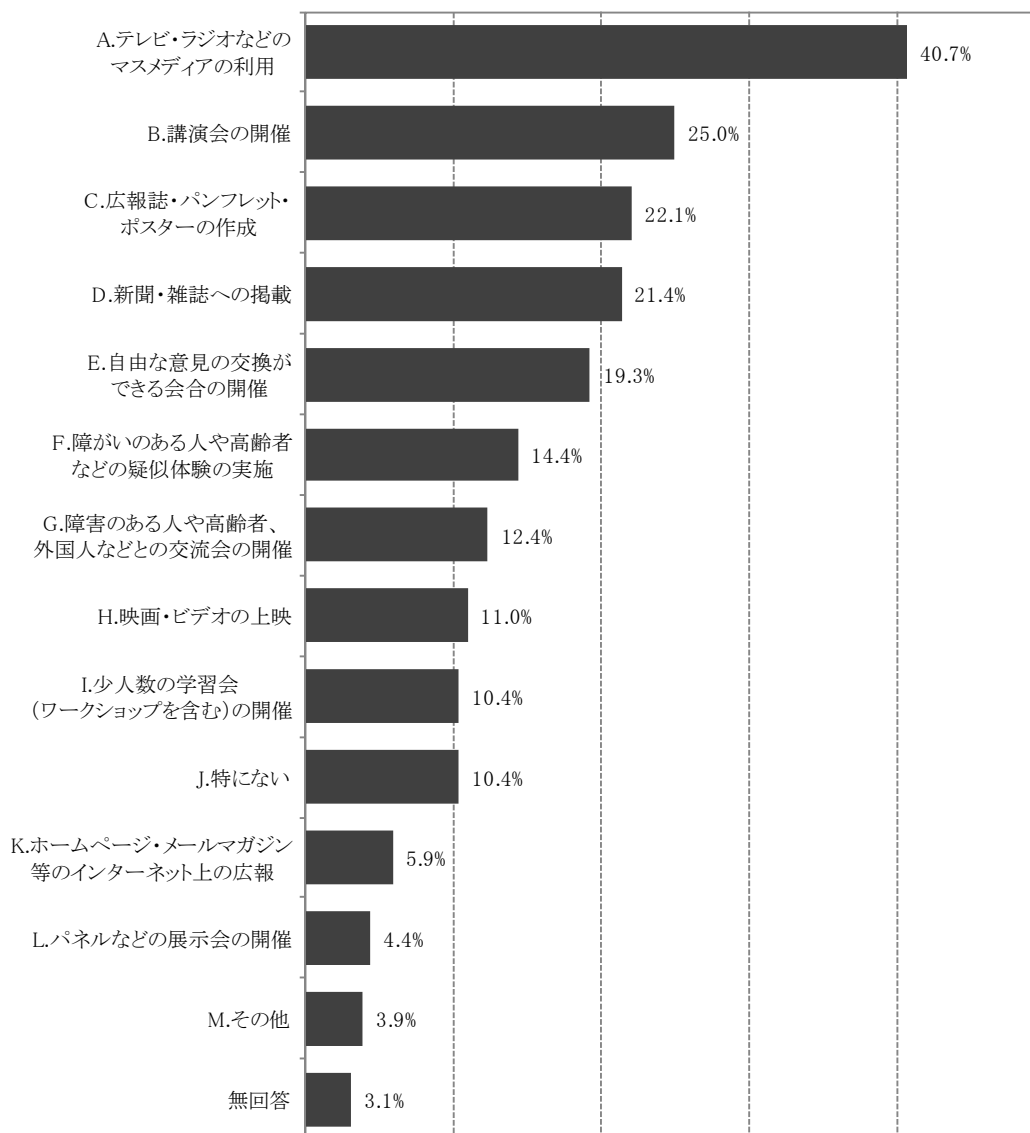
年齢別で見ると〔図 8-11〕、16～19 歳(75.0%)、20 歳代(52.8%)で、「D.知らなかったから」が他の年代よりも高くなっている。

「A.忙しくて都合がつかないから」は、40 歳代(26.1%)、50 歳代(28.0%)で高くなっている。

「C.興味がないから」は、70 歳代(34.1%)で高くなっている。

問9（人権問題への理解を深めるために必要な啓発手法）

あなたは、県民一人ひとりが人権問題について理解を深めるためには、どのような手法での啓発活動が有効だと思いますか。（〇は3つ以内）

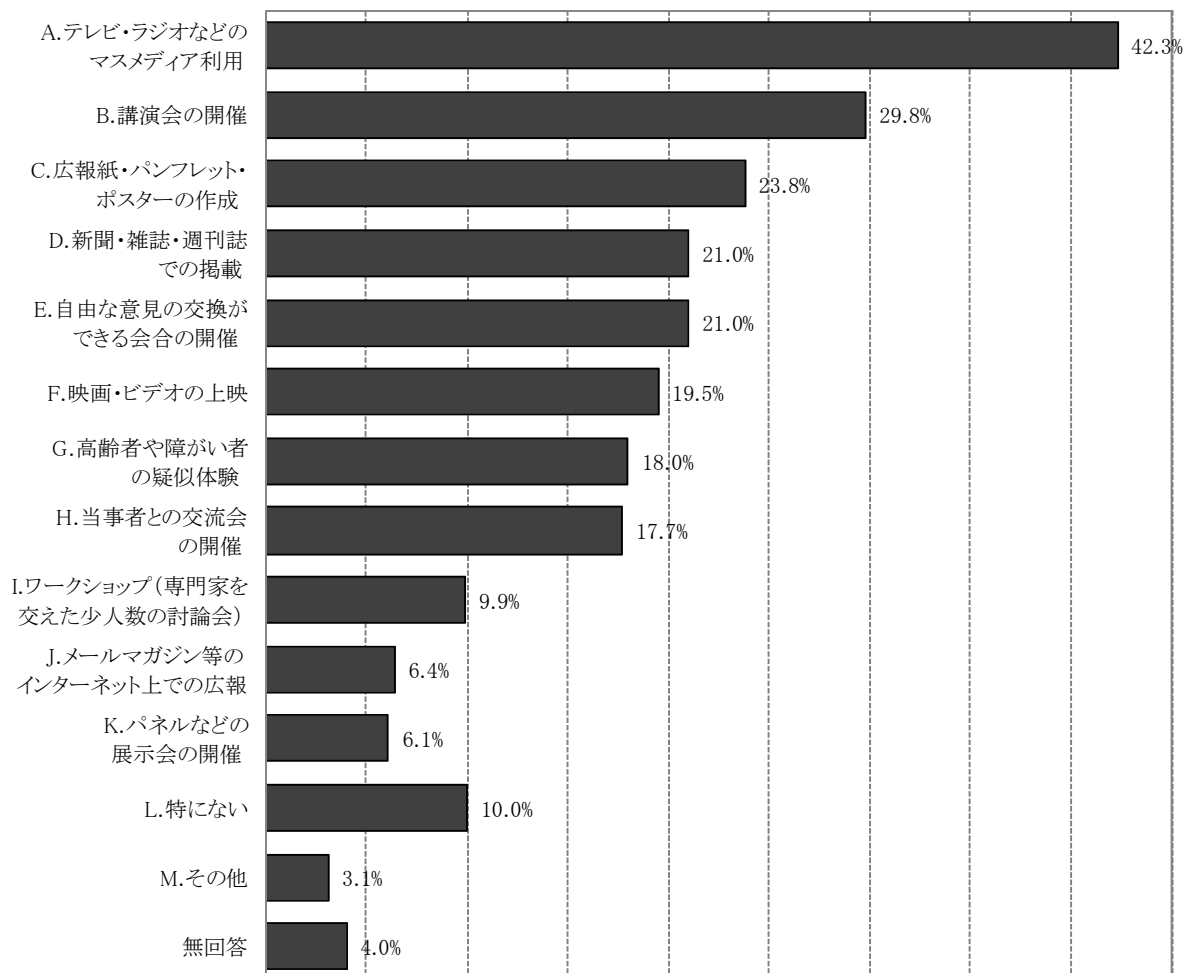


■県民が人権問題への理解を深めるために有効と思う啓発手法は、「A.テレビ・ラジオなどのマスメディアの利用」(40.7%)が最も高く、次いで、「B.講演会の開催」(25.0%)、「C.広報誌・パンフレット・ポスターの作成」(22.1%)、「D.新聞・雑誌への掲載」(21.4%)となっている。

【参考】 ※設問文、選択肢の文言の一部が前回に比べて異なっているため、参考としてご参照ください。

前回調査(H23 鳥取県人権意識調査)

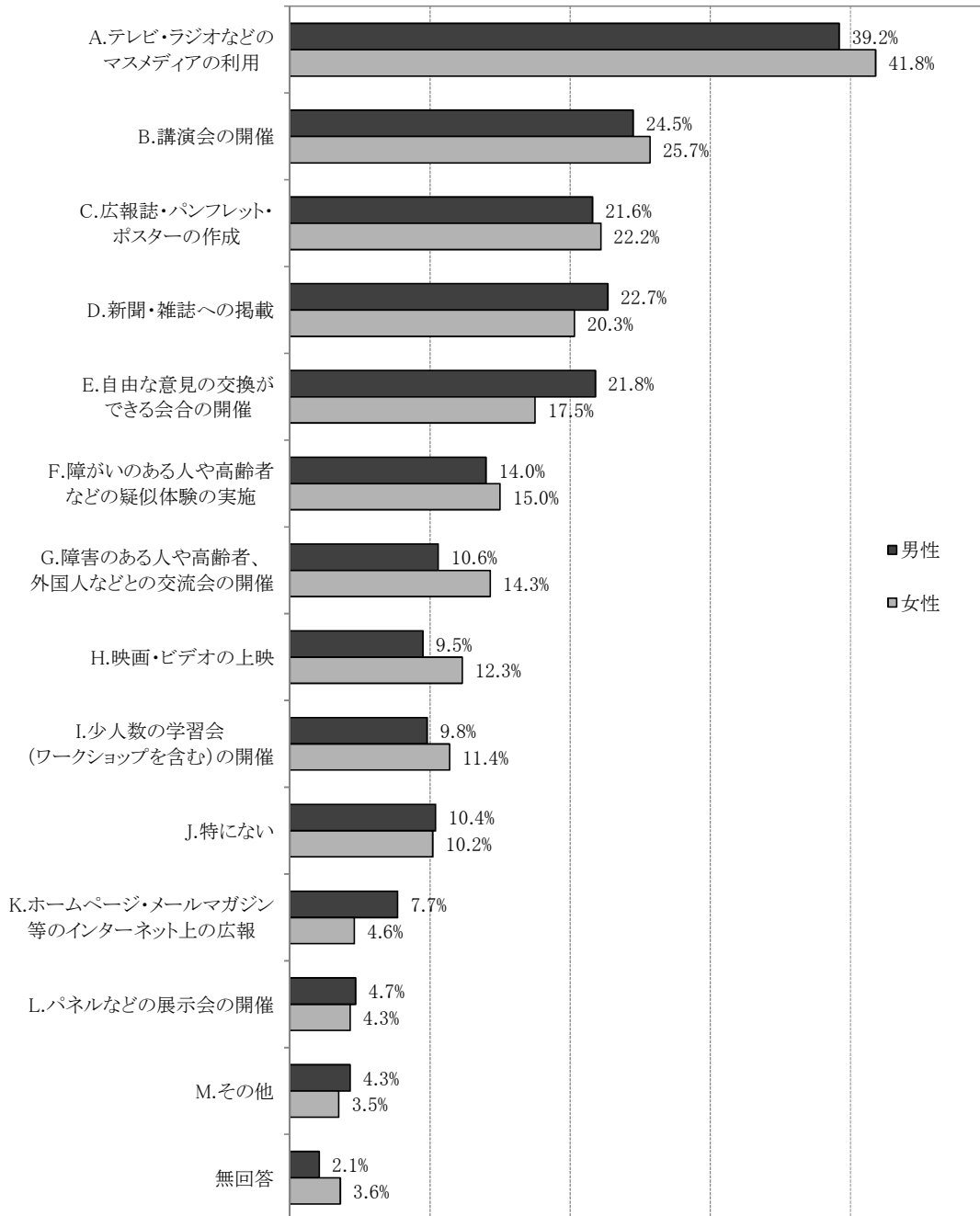
問 10 県民が人権問題について理解を深めるために、どのような手法での啓発活動が重要だと思いますか。
(〇はいくつでも)



県民が人権問題への理解を深めるために重要な啓発手法は、「A.テレビ・ラジオなどのマスメディア利用」(42.3%)が最も高い。次いで「B.講演会の開催」(29.8%)、「C.広報紙・パンフレット・ポスターの作成」(23.8%)などとなっている。

【性別・年齢との関係】

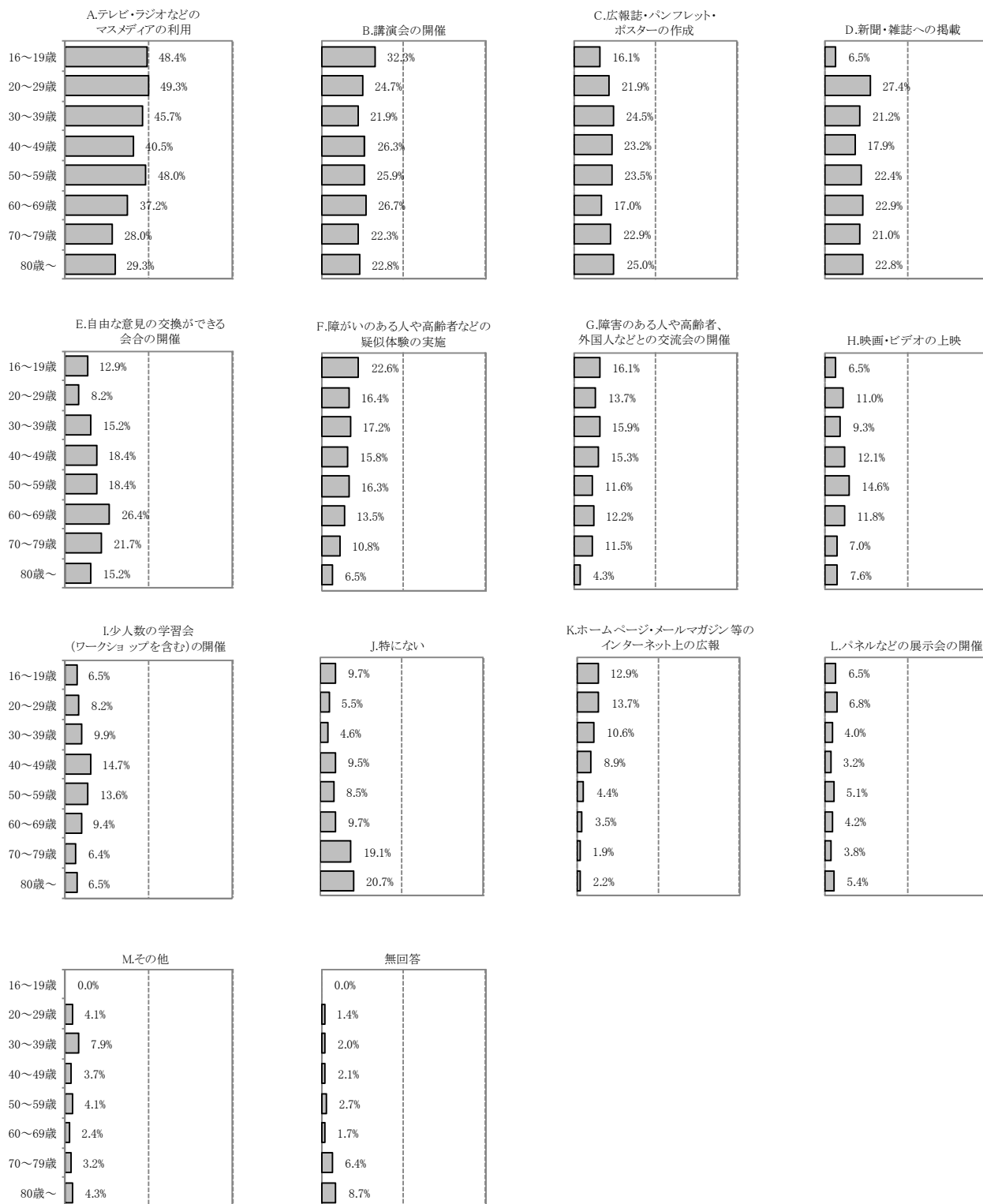
〔図 9-1〕 問 9 人権問題への理解を深めるために必要な啓発手法 と 性別 の関係



性別でみると〔図 9-1〕、「E. 自由な意見の交換ができる会合の開催」、「K. ホームページ・メールマガジン等のインターネット上の広報」では、男性の方が大幅に高くなっている。

「G. 障がいのある人や高齢者、外国人などとの交流会の開催」では、女性の方が大幅に高くなっている。

〔図 9-2〕 問 9 人権問題への理解を深めるために必要な啓発手法 と 年齢 の関係

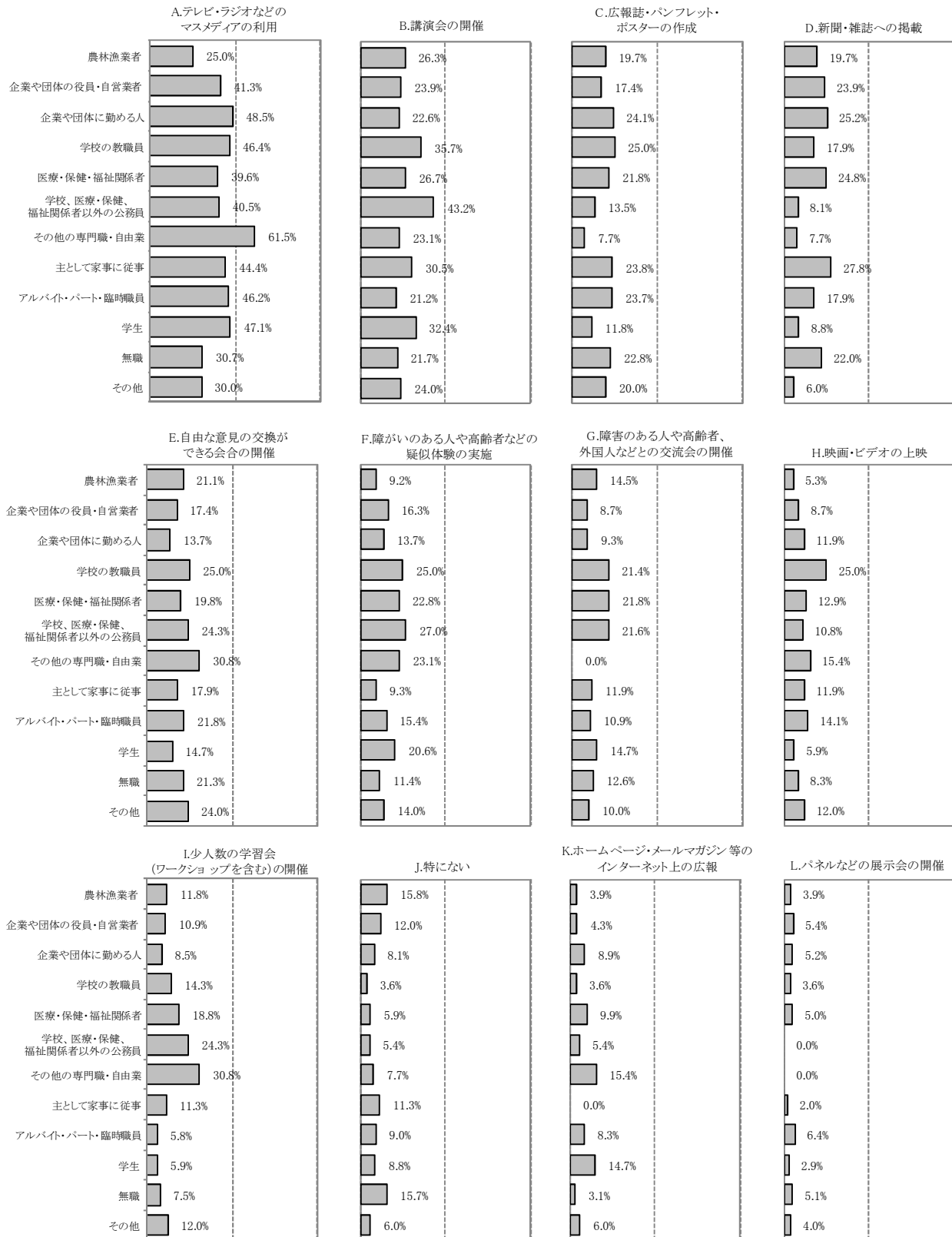


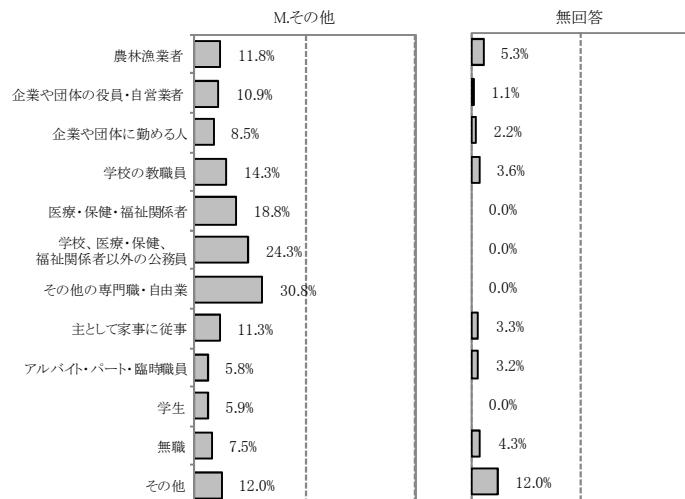
年齢別で見ると〔図 9-2〕、「A.テレビ・ラジオなどのマスメディアの利用」が 16～19 歳から 50 歳代で最も高く、それぞれ 4 割を超えている。

「E.自由な意見の交換ができる会合の開催」では、60 歳代(26.4%)が最も高い。

「K.ホームページ・メールマガジン等のインターネット上の広報」は、若い年代ほど高くなっている。

〔図 9-3〕 問 9 人権問題への理解を深めるために必要な啓発手法 と 職業 の関係





職業別でみると[図 9-3]、「B.講演会の開催」では、「学校・医療・保健、福祉関係者以外の公務員」(43.2%)が最も高くなっている。

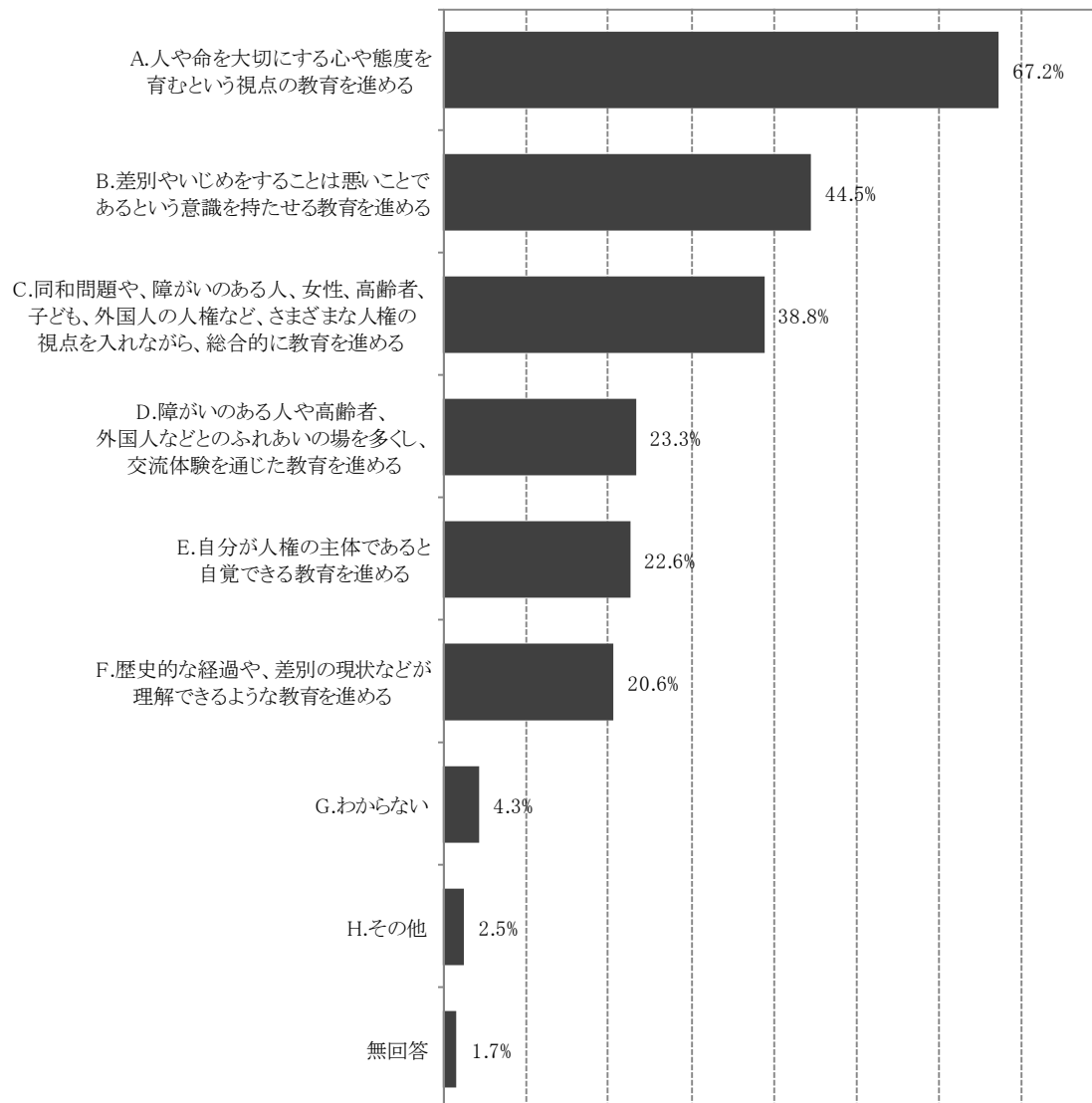
「D.新聞・雑誌への掲載」では、「主として家事に従事」(27.8%)が最も高くなっている。

「H.映画・ビデオの上映」では、「学校の教職員」(25.0%)が他の職業よりも大幅に高くなっている。

「K.ホームページ・メールマガジン等のインターネット上の広報」では、「学生」(15.4%)が高くなっている。

問 10 (人権尊重の心を育むために必要な学校教育)

あなたは、人権を尊重する心や態度を育むためには、学校教育においてどのような教育を行ったらよいと思いますか。(〇は3つ以内)

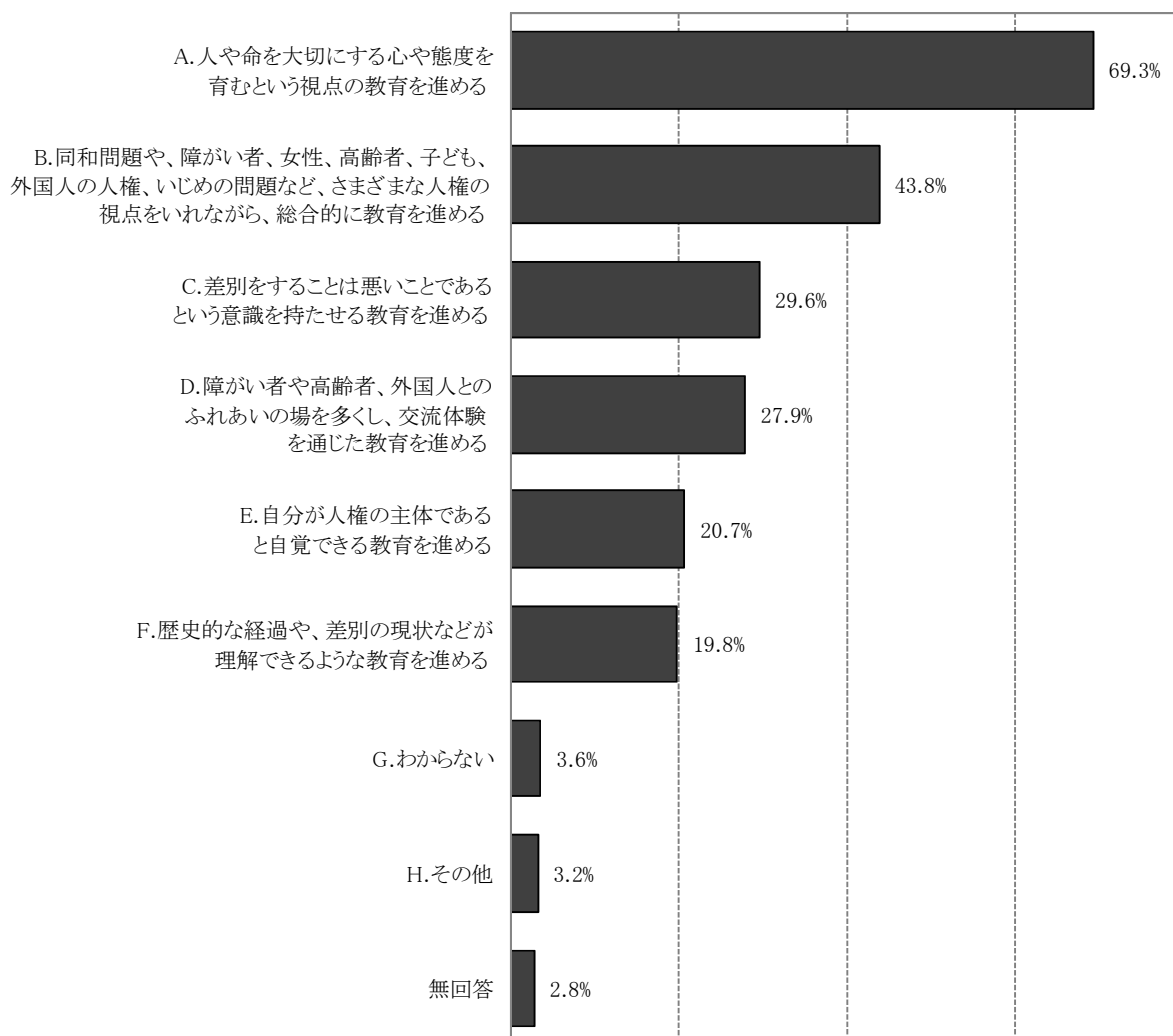


■人権を尊重する心や態度を育むために必要と思う学校教育は、「A.人や命を大切にする心や態度を育むという視点の教育を進める」(67.2%)が最も高く、次いで、「B.差別やいじめをすることは悪いことであるという意識を持たせる教育を進める」(44.5%)、「C.同和問題や、障がいのある人、女性、高齢者、子ども、外国人の人権など、さまざまな人権の視点を入れながら、総合的に教育を進める」(38.8%)となっている。

【参考】 ※設問文、選択肢の文言の一部が前回に比べて異なっているため、参考としてご参照ください。

前回調査(H23 鳥取県人権意識調査)

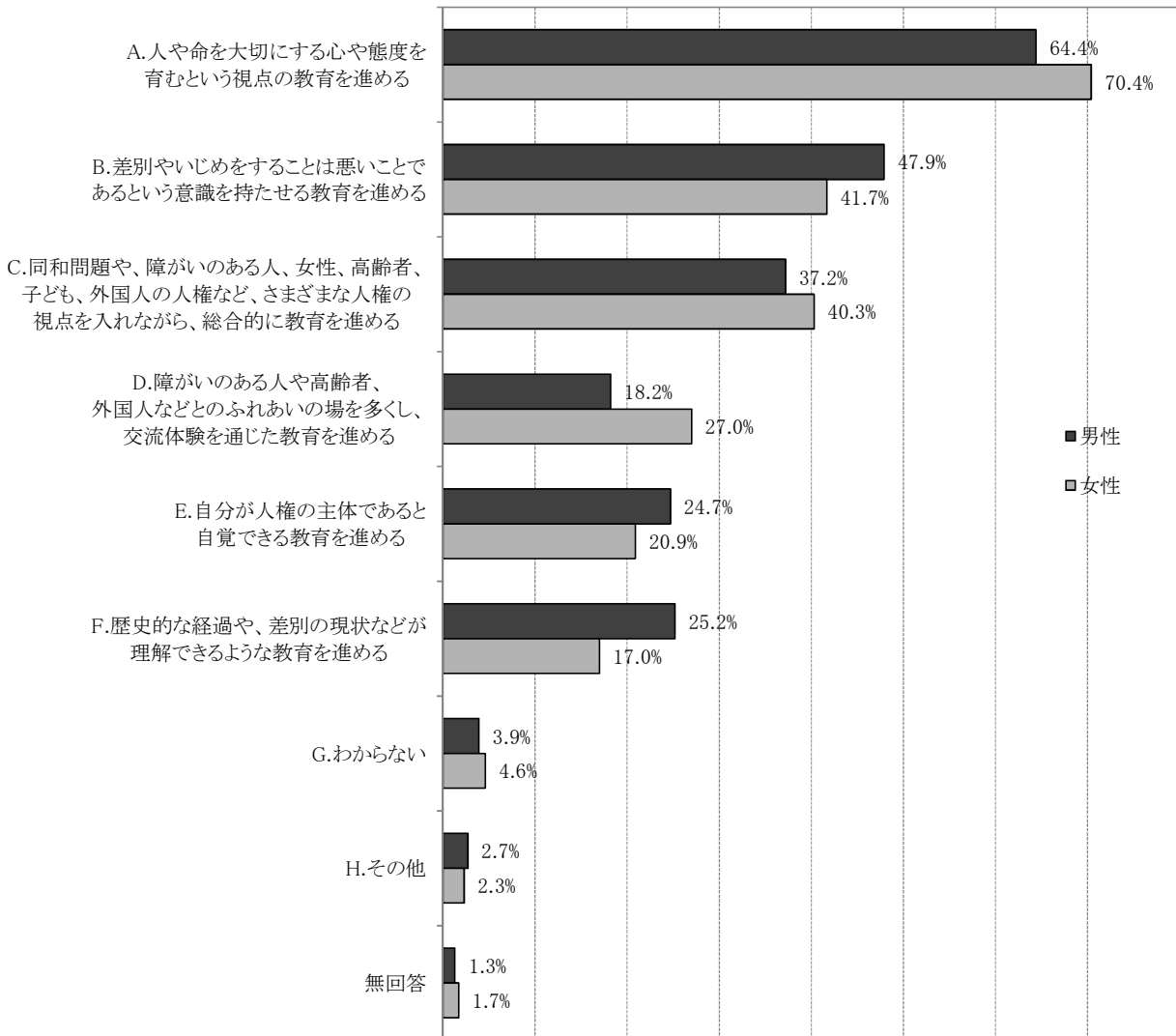
問 11 人権を尊重する心や態度を育むために、学校教育においてどのような教育を行ったらよいと思いますか。あなたの経験や現在の子どもを取り巻く状況などから判断してあなたの考えに近いものをお答えください。
(○は3つ以内)



人権を尊重する心や態度を育むために必要な学校教育について、「A.人や命を大切にすることや態度を育むという視点の教育を進める」(69.3%)が最も高い。次いで「B.同和問題や、障がい者、女性、高齢者、子ども、外国人の人権、いじめの問題など、さまざまな人権の視点をいれながら、総合的に教育を進める」(43.8%)などとなっている。

【性別・年齢との関係】

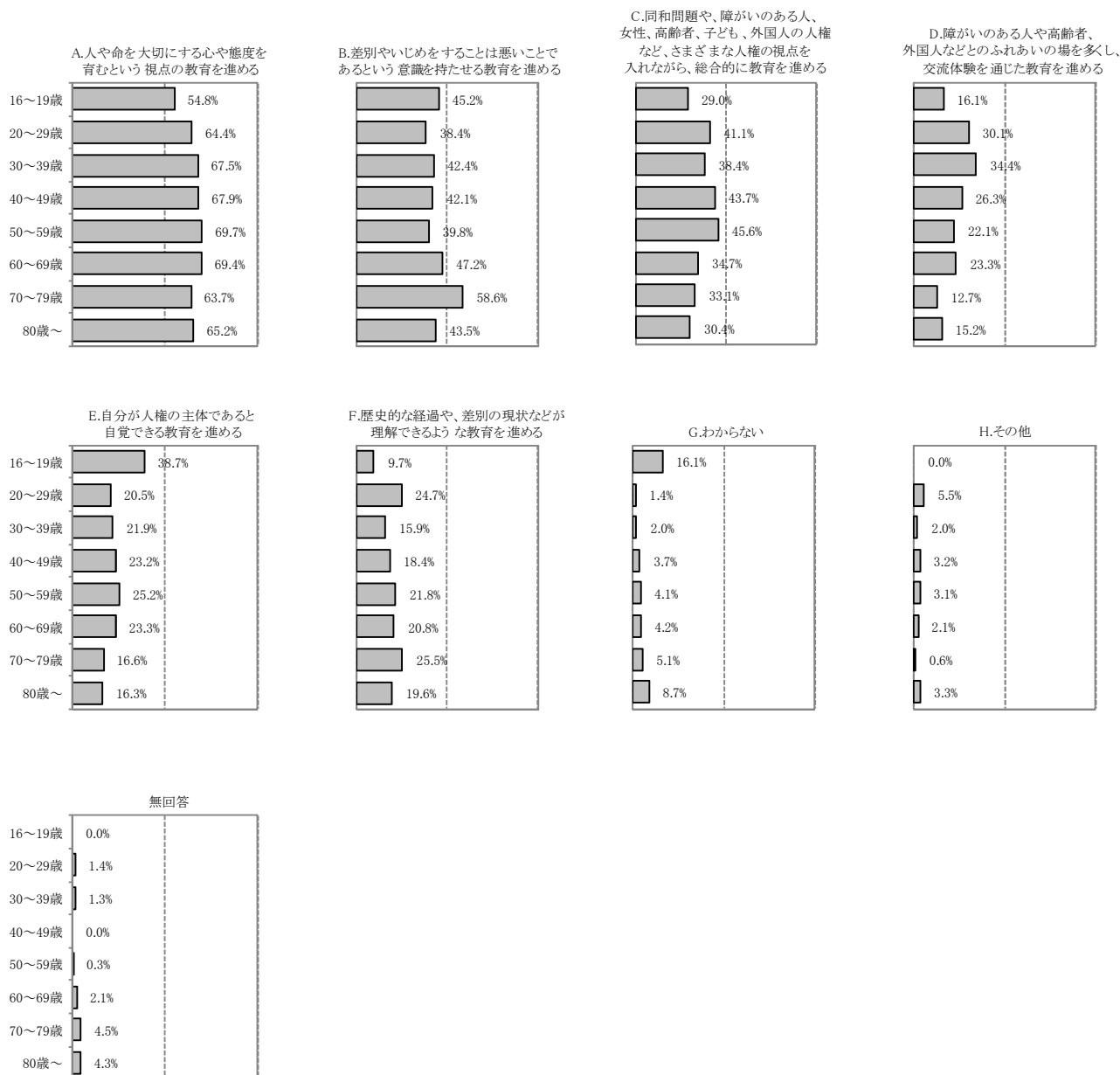
〔図 10-1〕 問 10 人権尊重の心を育むために必要な学校教育 と 性別 の関係



性別でみると〔図 10-1〕、「B. 差別やいじめをすることは悪いことであるという意識を持たせる教育を進める」、「E. 自分が人権の主体であると自覚できる教育を進める」、「F. 歴史的な経過や、差別の現状などが理解できるような教育を進める」では、男性の方が大幅に高くなっている。

「A. 人や命を大切にすることを育むという視点の教育を進める」、「D. 障がいのある人や高齢者、外国人などとのふれあいの場を多くし、交流体験を通じた教育を進める」では、女性の方が大幅に高くなっている。

〔図 10-2〕 問 10 人権尊重の心を育むために必要な学校教育 と 年齢 の関係



年齢別でみると〔図 10-2〕、「A. 人や命を大切にする心や態度を育むという視点の教育を進める」が各年代で最も高い。

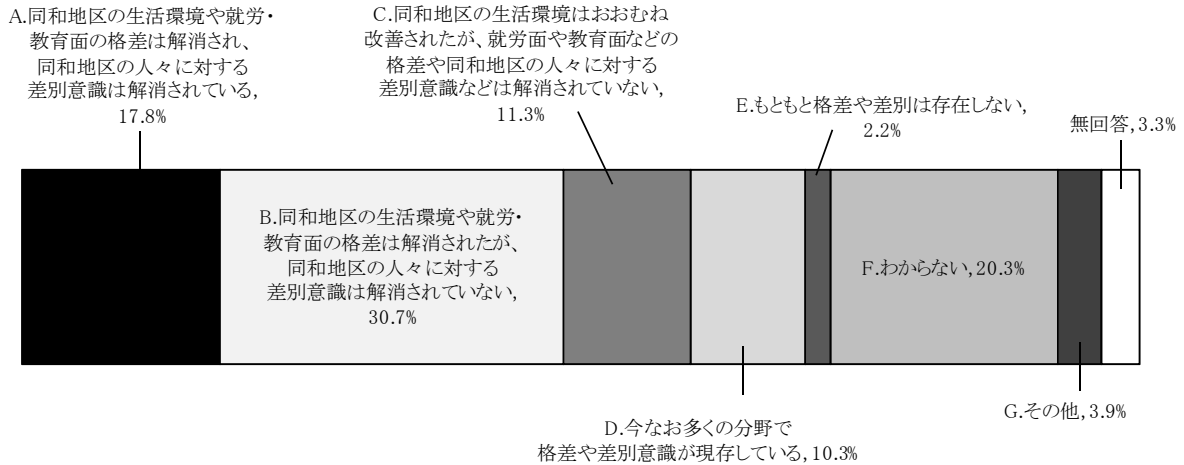
「B. 差別やいじめをすることは悪いことであるという意識を持たせる教育を進める」は、70 歳代(58.6%)が他の年代より高くなっている。

「D. 障がいのある人や高齢者、外国人などとのふれあいの場を多くし、交流体験を通じた教育を進める」は、30 歳代(34.4%)が高い。

16～19 歳代では、「E. 自分が人権の主体であると自覚できる教育を進める」、「G. わからない」が他の年代より高くなっている。

問 11 (部落差別の現状に対する考え)

部落差別の現状についてあなたはどのように考えていますか。次の中から最もあなたの考えに近いものをお答えください。(○は1つだけ)



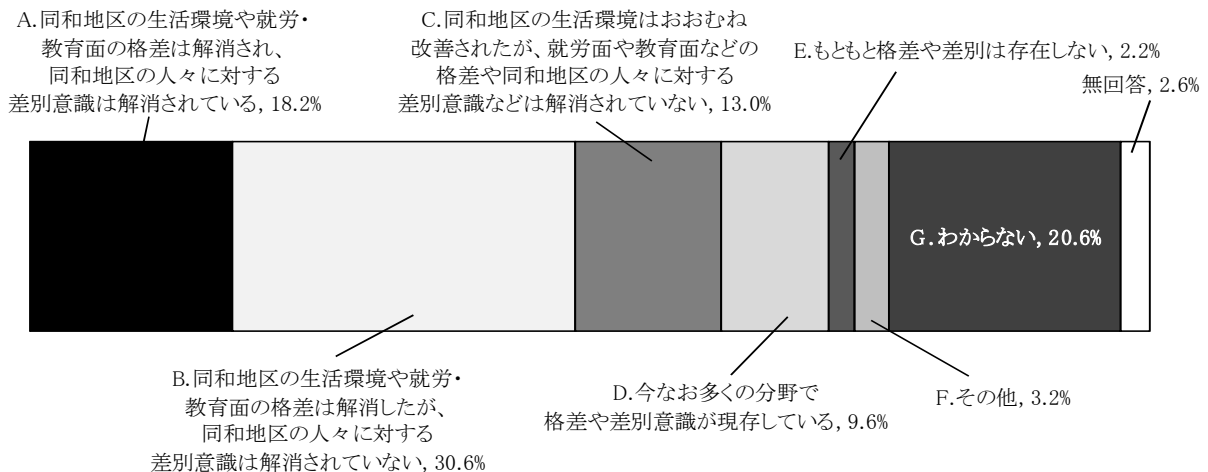
■部落差別の現状の認識については、「B.同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消されたが、同和地区の人々に対する差別意識は解消されていない」(30.7%)が最も高く、次いで、「F.わからない」(20.3%)、「A.同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消され、同和地区の人々に対する差別意識は解消されている」(17.8%)となっている。

差別意識が「現存している」または「解消されていない」と回答した人は、合わせて 52.3%。

【参考】 ※設問文、選択肢の文言の一部が前回に比べて異なっているため、参考としてご参照ください。

前回調査(H23 鳥取県人権意識調査)

問 12 部落差別の現状についてあなたはどのように考えていますか。次の中から最もあなたの考えに近いものをお答えください。(○は1つだけ)

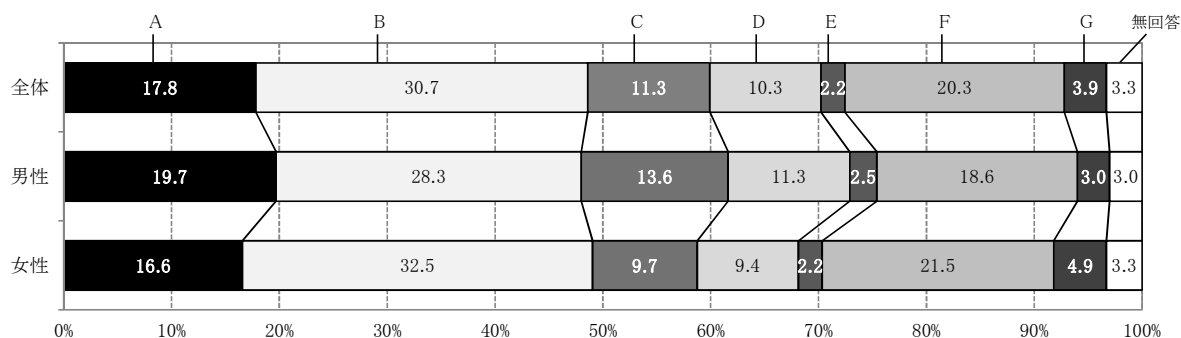


部落差別の現状の認識については、「B.同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消したが、同和地区の人々に対する差別意識は解消されていない」(30.6%)が最も高い。次いで「G.わからない」(20.6%)、「A.同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消され、同和地区の人々に対する差別意識は解消されている」(18.2%)、「C.同和地区の生活環境はおおむね改善されたが、就労面や教育面などの格差や同和地区の人々に対する差別意識などは解消されていない」(13.0%)などとなっている。

【性別・年齢との関係】

〔図 11-1〕 問 11 部落差別の現状に対する考え と 性別 の関係

- A.同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消され、同和地区の人々に対する差別意識は解消されている
- B.同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消されたが、同和地区の人々に対する差別意識は解消されていない
- C.同和地区の生活環境はおおむね改善されたが、就労面や教育面などの格差や同和地区の人々に対する差別意識などは解消されていない
- D.今なお多くの分野で格差や差別意識が現存している
- E.もともと格差や差別は存在しない
- F.わからない
- G.その他
- 無回答



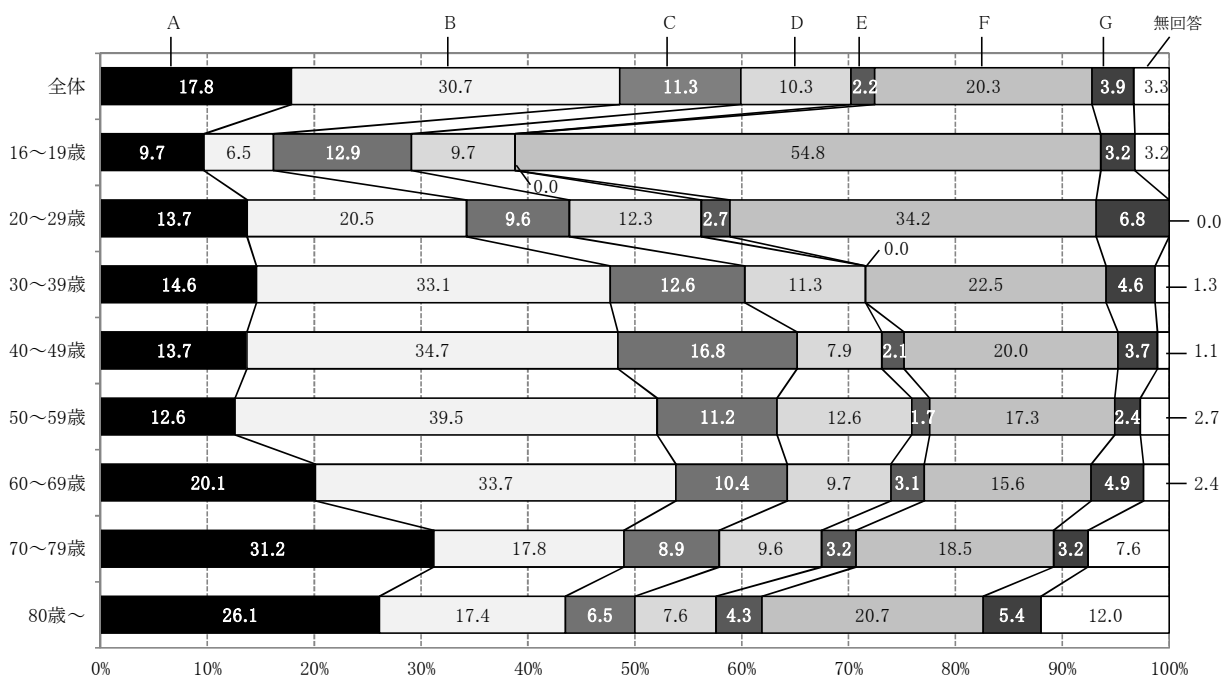
性別でみると〔図 11-1〕、「A.同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消され、同和地区の人々に対する差別意識は解消されている」は、男性 19.7%、女性 16.6%と、男性がやや高い。

一方、「B.同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消されたが、同和地区の人々に対する差別意識は解消されていない」は、男性 28.3%、女性 32.5%と、女性がやや高くなっている。

また、「C.同和地区の生活環境はおおむね改善されたが、就労面や教育面などの格差や同和地区の人々に対する差別意識などは解消されていない」は、男性 13.6%、女性 9.7%と、男性が高くなっている。

〔図 11-2〕 問 11 部落差別の現状に対する考え と 年齢 の関係

- A.同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消され、同和地区の人々に対する差別意識は解消されている
- B.同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消されたが、同和地区の人々に対する差別意識は解消されていない
- C.同和地区の生活環境はおおむね改善されたが、就労面や教育面などの格差や同和地区の人々に対する差別意識などは解消されていない
- D.今なお多くの分野で格差や差別意識が現存している
- E.もともと格差や差別は存在しない
- F.わからない
- G.その他
- 無回答



年齢別でみると〔図 11-2〕、70 歳代で、「A.同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消され、同和地区の人々に対する差別意識は解消されている」(31.2%)が、他の年代よりも大幅に高くなっている。

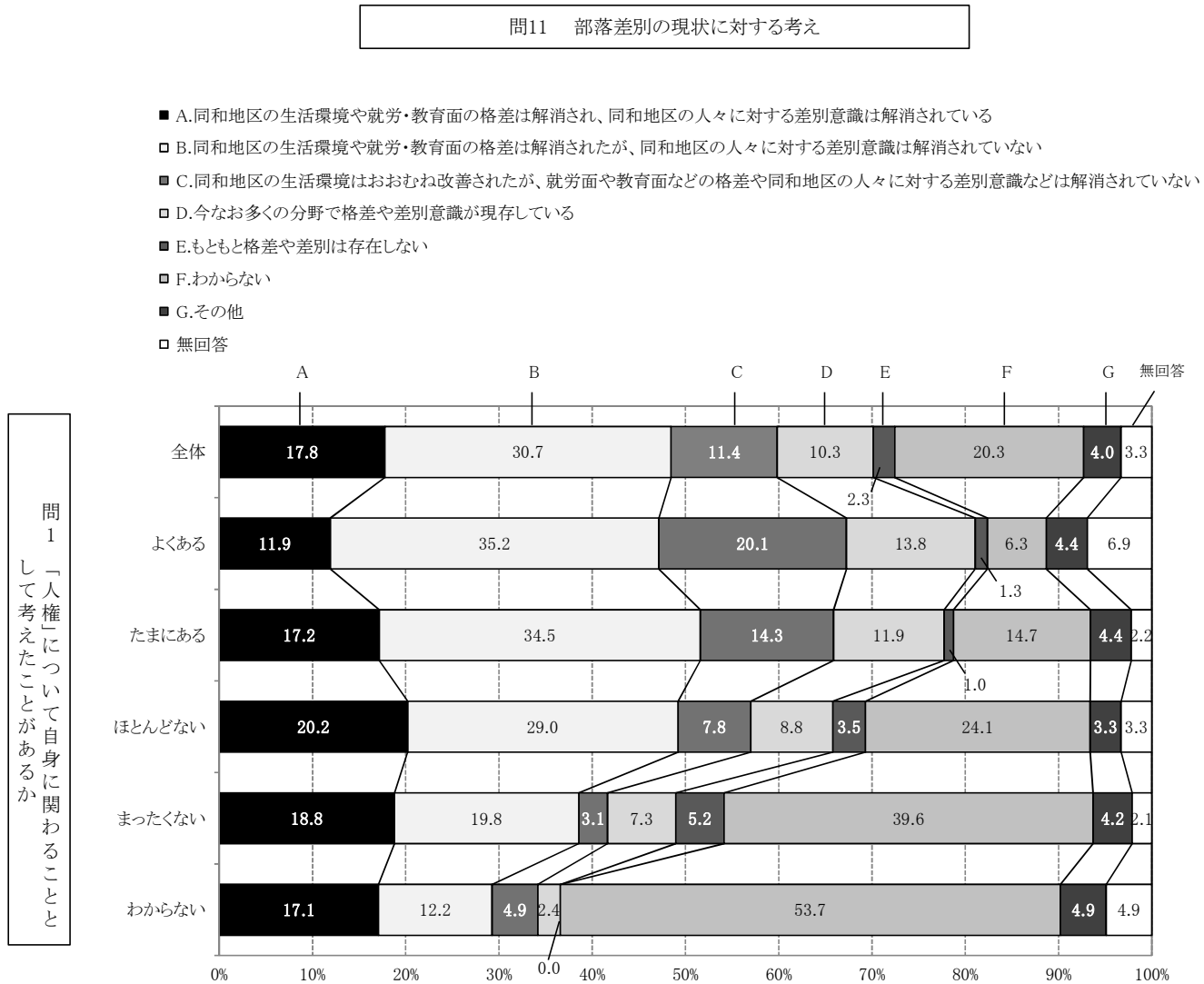
「B.同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消されたが、同和地区の人々に対する差別意識は解消されていない」は、30 歳代から 60 歳代で最も高い。

16～19 歳では、半数以上が「F.わからない」と回答している。

【他の設問との関係】

〔図 11-3〕 問 11 部落差別の現状に対する考え と

問 1 「人権」について自身に関わることとして考えたことがあるか の関係



問 1(「人権」について自身に関わることとして考えたことがあるか)との関係では〔図 11-3〕、自身に関わることとして考えたことのある人ほど、「B.同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消されたが、同和地区の人々に対する差別意識は解消されていない」、「C.同和地区の生活環境はおおむね改善されたが、就労面や教育面などの格差や同和地区の人々に対する差別意識等は解消されていない」、「D.今なお多くの分野で格差や差別意識が現存している」が高くなっている。

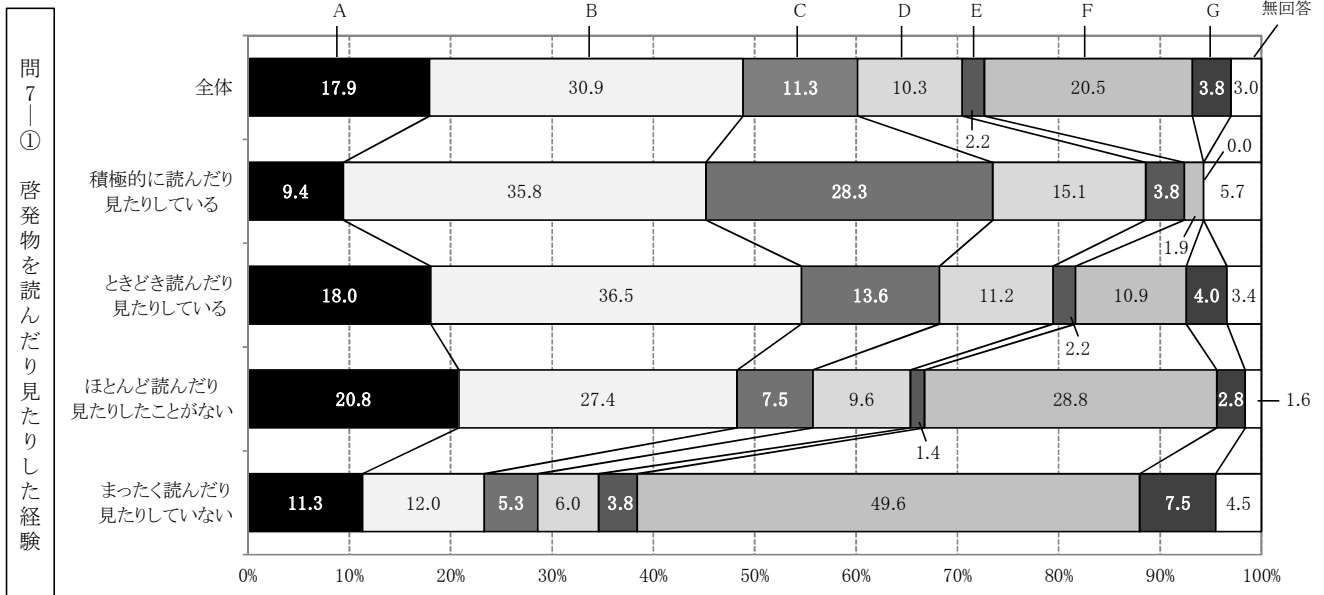
自身に関わることとして考えたことが少ない、あるいはわからないと思う人ほど、部落差別の現状に対し「F.わからない」が高くなっている。

〔図 11-4〕 問 11 部落差別の現状に対する考え と

問 7-① 啓発物を読んだり見たりした経験 の関係

問11 部落差別の現状に対する考え

- A.同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消され、同和地区の人々に対する差別意識は解消されている
- B.同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消されたが、同和地区の人々に対する差別意識は解消されていない
- C.同和地区の生活環境はおおむね改善されたが、就労面や教育面などの格差や同和地区の人々に対する差別意識などは解消されていない
- D.今なお多くの分野で格差や差別意識が現存している
- E.もともと格差や差別は存在しない
- F.わからない
- G.その他
- 無回答



問 7-①(啓発物を読んだり見たりした経験)との関係では〔図 11-4〕、「積極的に読んだり見たりしている」、「ときどき読んだり見たりしている」と回答した人ほど、「B.同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消されたが、同和地区の人々に対する差別意識は解消されていない」、「C.同和地区の生活環境はおおむね改善されたが、就労面や教育面などの格差や同和地区の人々に対する差別意識などは解消されていない」が高くなっている。

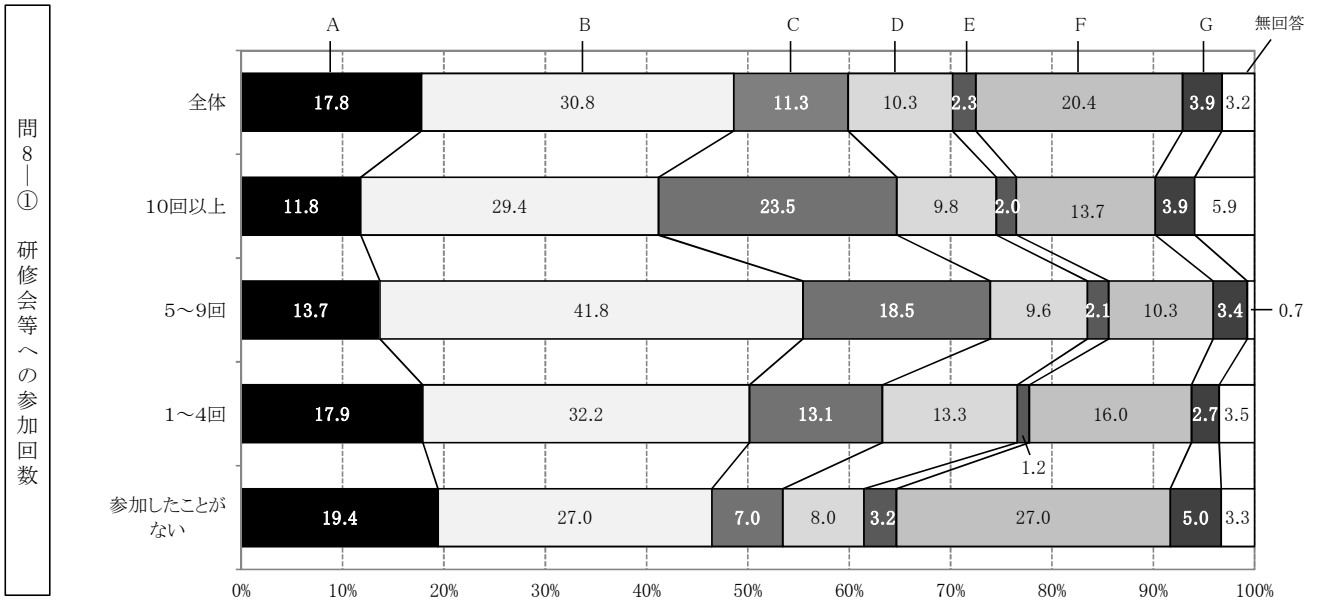
また、啓発物を「ほとんど読んだり見たりしたことがない」、「まったく読んだり見たりしていない」と回答した人ほど、「F.わからない」が高くなっている。

〔図 11-5〕 問 11 部落差別の現状に対する考え と

問 8-① 研修会等への参加回数 の関係

問11 部落差別の現状に対する考え

- A.同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消され、同和地区の人々に対する差別意識は解消されている
- B.同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消されたが、同和地区の人々に対する差別意識は解消されていない
- C.同和地区の生活環境はおおむね改善されたが、就労面や教育面などの格差や同和地区の人々に対する差別意識などは解消されていない
- D.今なお多くの分野で格差や差別意識が現存している
- E.もともと格差や差別は存在しない
- F.わからない
- G.その他
- 無回答



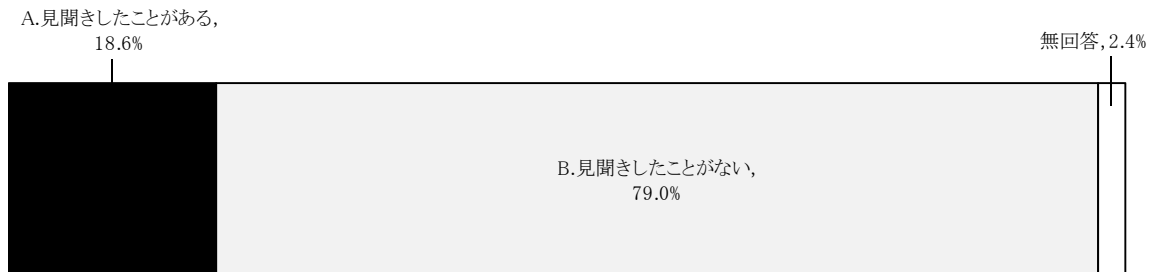
問 8-①(研修会等への参加回数)との関係では〔図 11-5〕、1 回以上参加した人では、「B.同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消されたが、同和地区の人々に対する差別意識は解消されていない」、「C.同和地区の生活環境はおおむね改善されたが、就労面や教育面などの格差や同和地区の人々に対する差別意識等は解消されていない」が高くなっている。

また、研修会等への参加頻度が多くなるほど、「A.同和地区の生活環境や就労・教育面の格差は解消され、同和地区の人々に対する差別意識は解消されている」と回答する人の割合が低く、「C.同和地区の生活環境はおおむね改善されたが、就労面や教育面などの格差や同和地区の人々に対する差別意識等は解消されていない」が高くなっている。

「参加したことがない」と回答した人では、「F.わからない」(27.0%)も高くなっている。

問 12-①（部落差別に関する見聞き—過去5年間の有無）

あなたは、過去5年間で同和地区の人々に対する差別的な発言や行動を直接見聞きしたことはありますか。（○は1つだけ）

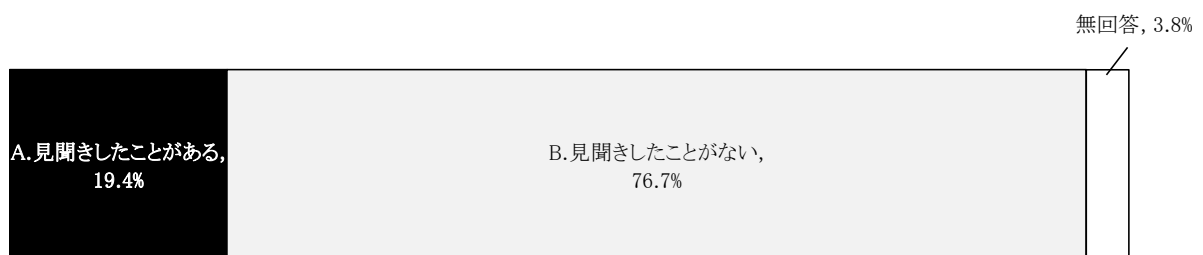


■部落差別について、過去5年間で差別的な発言や行動を直接見聞きしたかどうかについて、「A.見聞きしたことがある」と回答した人は、18.6%だった。一方、「B.見聞きしたことがない」と回答した人は、79.0%だった。

【参 考】 ※設問文、選択肢の文言の一部が前回に比べて異なっているため、参考としてご参照ください。

前回調査(H23 鳥取県人権意識調査)

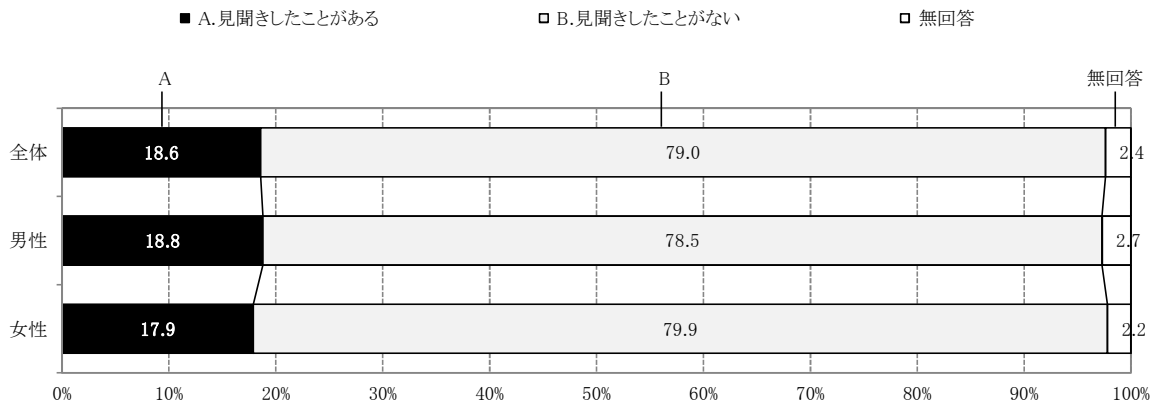
問 13-① あなたは、ここ5年間で同和地区の人々に対する差別的な発言や行動を直接見聞きしたことはありますか。（○は1つだけ）



部落差別について、ここ5年間で差別的な発言や行動を直接見聞きしたかどうかについて、「A.見聞きしたことがある」が 19.4%と約2割の人が見聞きしたことがあると答えた。一方で、「B.見聞きしたことがない」と答えた人の割合は 76.7%だった。

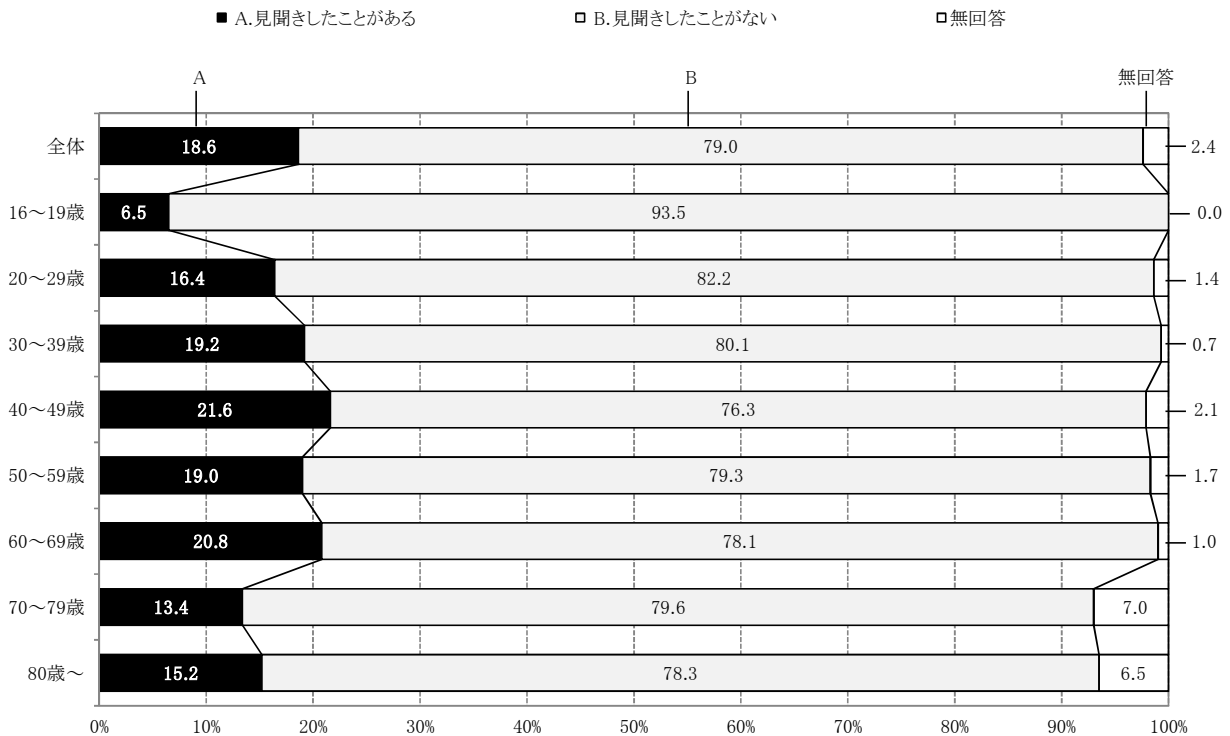
【性別・年齢との関係】

〔図 12-1〕 問 12-① 部落差別に関する見聞き—過去5年間の有無 と 性別 の関係



性別でみると〔図 12-1〕、「A.見聞きしたことがある」は、男性では 18.8%、女性では 17.9%。
「B.見聞きしたことがない」は、男性では 78.5%、女性では 79.9%となっている。

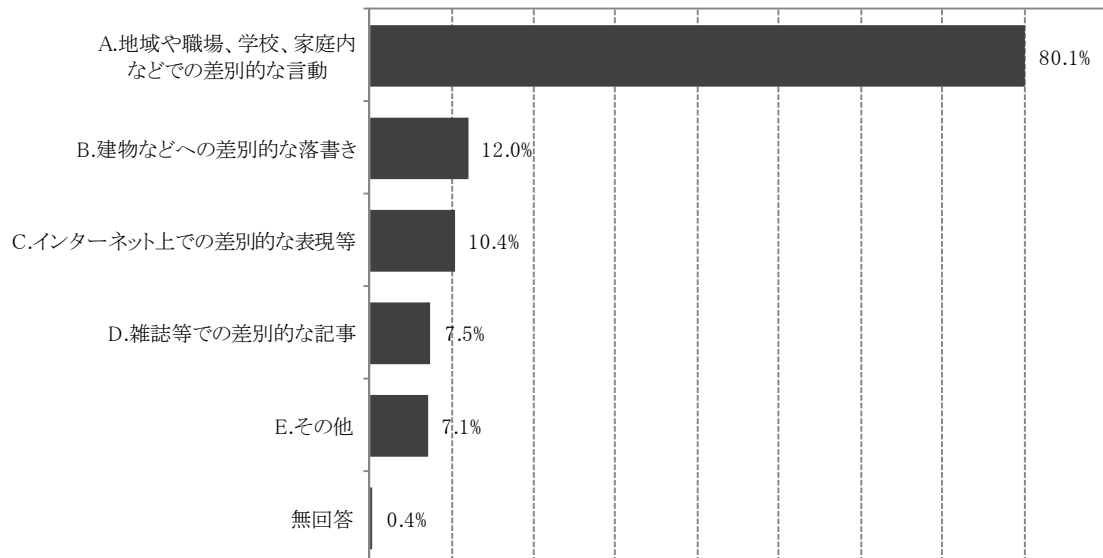
〔図 12-2〕 問 12-① 部落差別に関する見聞き—過去5年間の有無 と 年齢 の関係



年齢別でみると〔図 12-2〕、「A.見聞きしたことがある」は、40歳代、60歳代で2割を超えている。
また、9割以上の16～19歳が、「B.見聞きしたことがない」と回答している。

問 12-②（部落差別に関する見聞き—その内容）

問 12-①で「見聞きしたことがある」を選択された方におたずねします。その見聞きした差別的な発言や行動は、次のうちどれですか。（○はいくつでも）

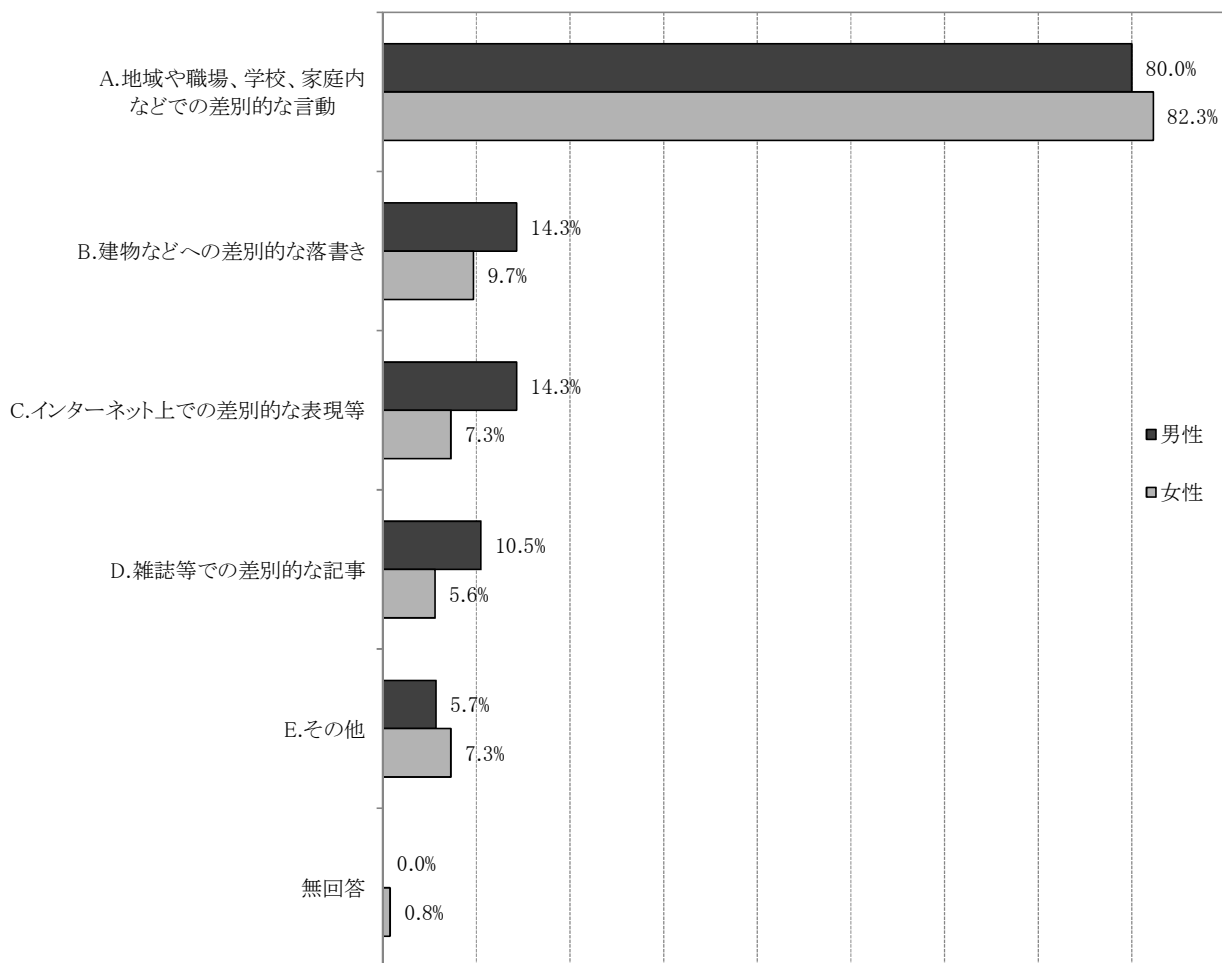


■見聞きしたことがある差別的な発言や行動については、「A.地域や職場、学校、家庭内などでの差別的な言動」と回答した人が、80.1%であった。

※前回調査なし

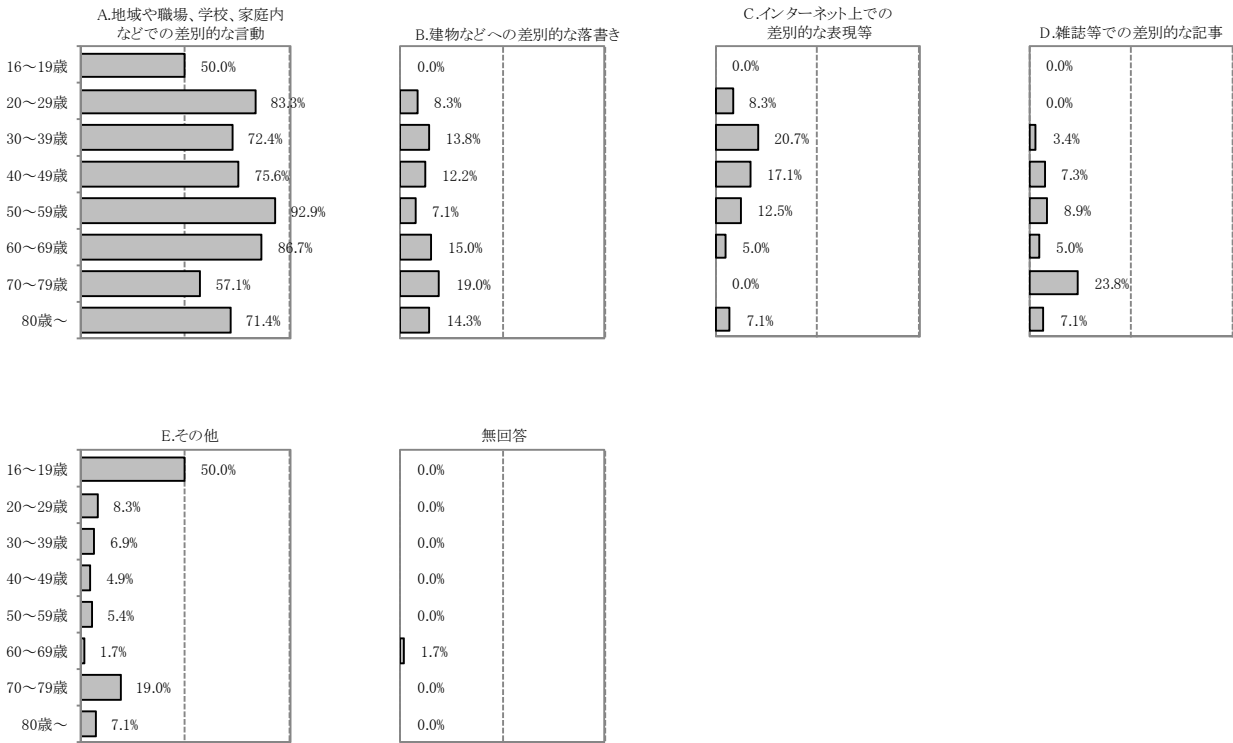
【性別・年齢との関係】

〔図 12-3〕 問 12-② 部落差別に関する見聞き—その内容 と 性別 の関係



性別でみると〔図 12-3〕、「B.建物などへの差別的な落書き」、「C.インターネット上での差別的な表現等」、「D.雑誌等での差別的な記事」では、男性の方が大幅に高くなっている。

〔図 12-4〕 問 12-② 部落差別についての見聞き—その内容 と 年齢 の関係



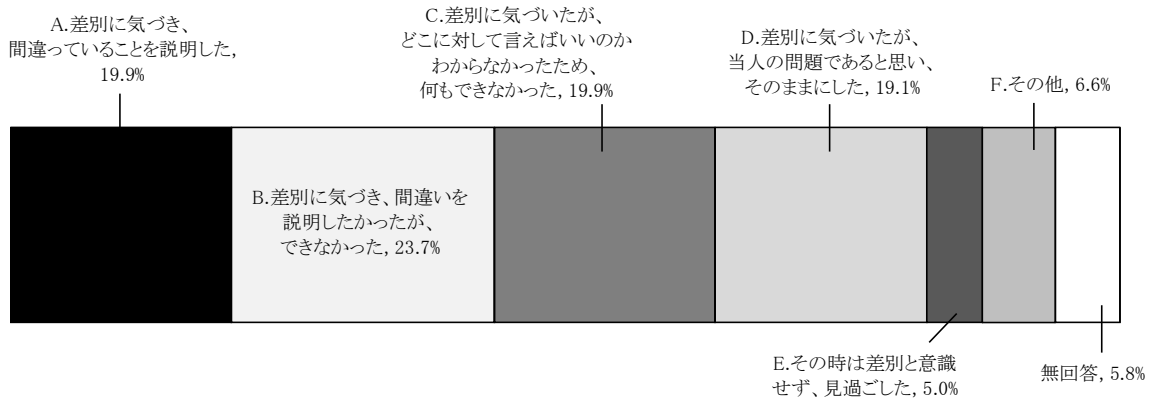
年齢別でみると〔図 12-4〕、50 歳代で、「A.地域や職場、学校、家庭内などでの差別的な言動」が最も高く、9割を超えている。

30 歳代では、「C.インターネット上での差別的な表現等」(20.7%)が他の年代よりも高くなっている。

70 歳代では、「D.雑誌等での差別的な記事」(23.8%)が他の年代よりも大幅に高くなっている。

問 12-③ (部落差別に関する見聞き—その時の対応)

問 12-①で「見聞きしたことがある」を選択された方におたずねします。その時、あなたはどうしましたか。(〇は1つだけ)



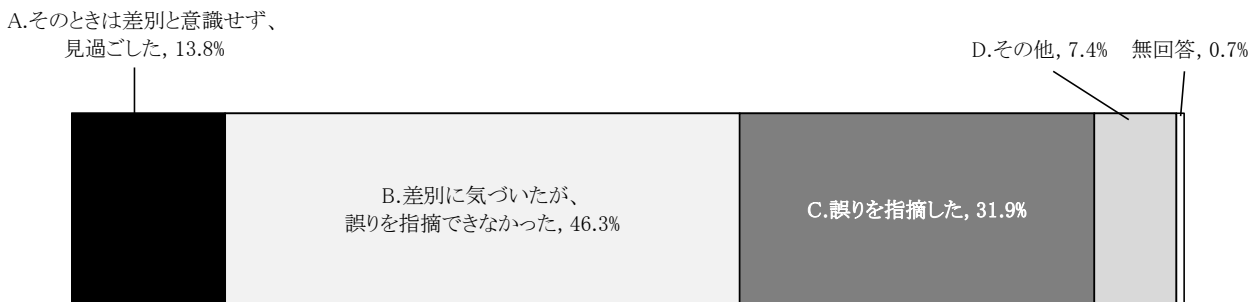
■問 12-①で「見聞きしたことがある」と答えた人のその時の行動について、「B.差別に気づき、間違いを説明したかったが、できなかった」(23.7%)が最も高く、次いで、「A.差別に気づき、間違っていることを説明した」と、「C.差別に気づいたが、どこに対して言えばいいのかわからなかったため、何もできなかった」がともに 19.9%であった。

「D.差別に気づいたが、当人の問題であると思い、そのままにした」は、19.1%であった。

【参考】 ※設問文、選択肢の文言の一部が前回に比べて異なっているため、参考としてご参照ください。

前回調査(H23 鳥取県人権意識調査)

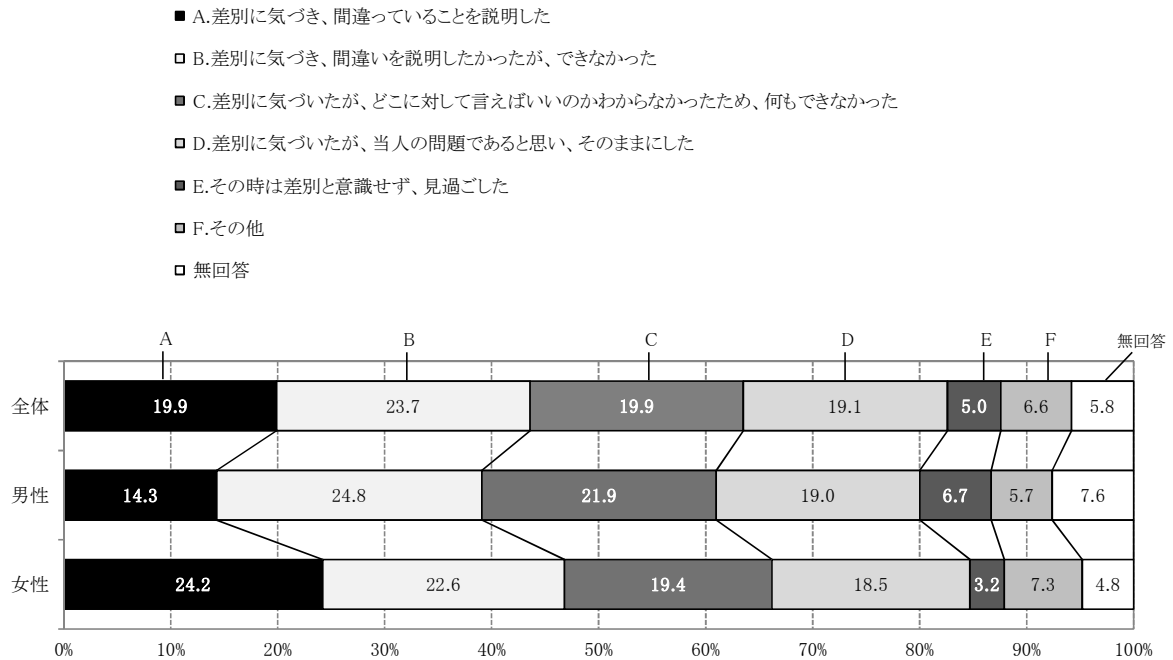
問 13-② 問 13-①で「見聞きしたことがある」を選択された方におたずねします。その時、あなたはどうしましたか。(〇は1つだけ)



問 13-①で「見聞きしたことがある」と答えた人のその時の行動について、「A.そのときは差別と意識せず、見過ごした」が 13.8%。「B.差別に気づいたが、誤りを指摘できなかった」が 46.3%となっている。また、「C.誤りを指摘した」と答えた人は 31.9%となっている。

【性別・年齢との関係】

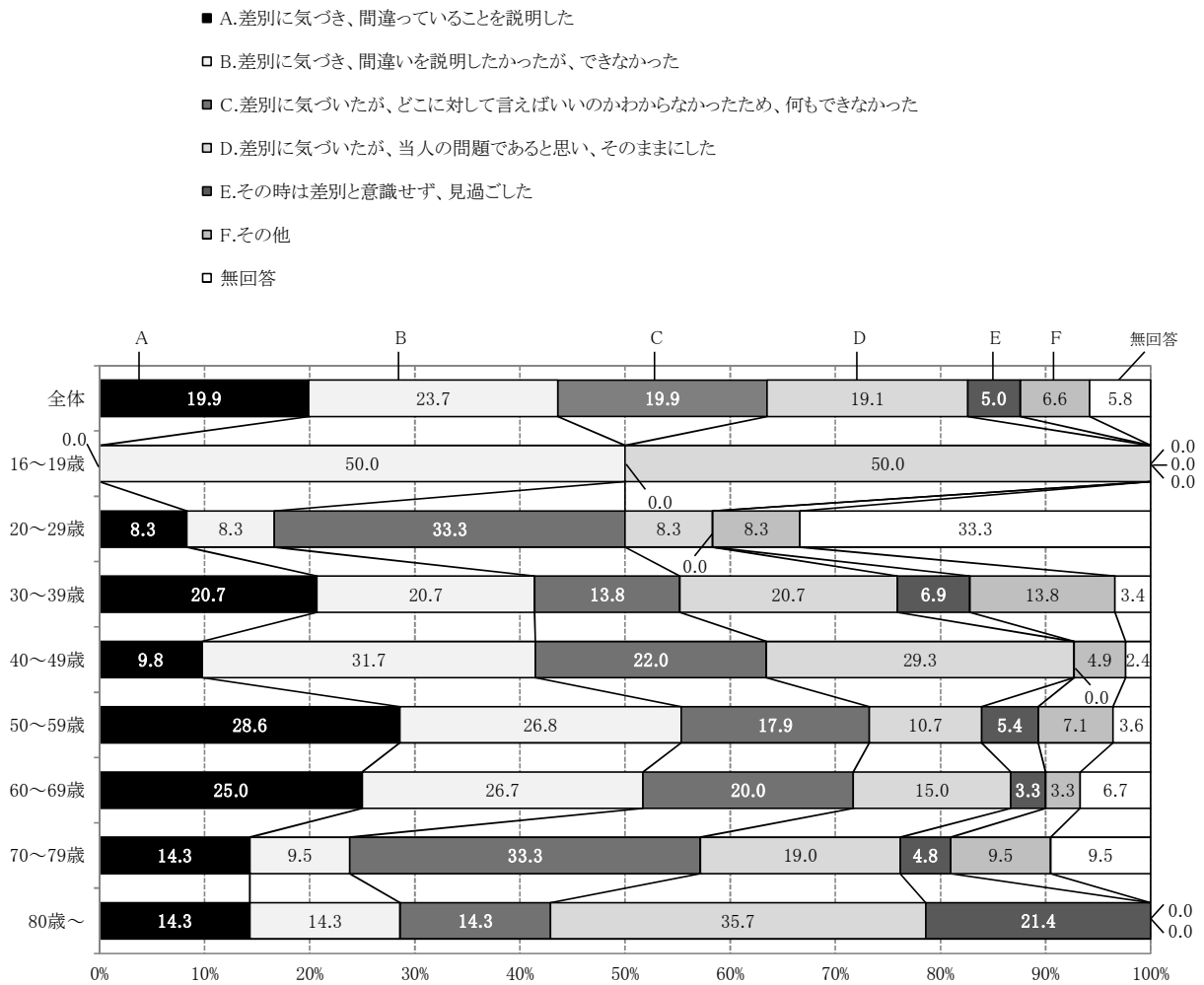
〔図 12-5〕 問 12-③ 部落差別に関する見聞き—その時の対応 と 性別 の関係



性別でみると〔図 12-5〕、「A.差別に気づき、間違っていることを説明した」と回答した人の割合は、男性よりも女性の方が高い(男性 14.3%、女性 24.2%)。

また、差別に気づき何かしたかったができなかったとする「B.差別に気づき、間違いを説明したかったが、できなかった」と「C.差別に気づいたが、どこに対して言えばいいのかわからなかったため、何もできなかった」を合わせると、男女とも 4 割以上(男性 46.7%、女性 42.0%)となっている。

〔図 12-6〕 問 12-③ 部落差別に関する見聞き—その時の対応 と 年齢 の関係



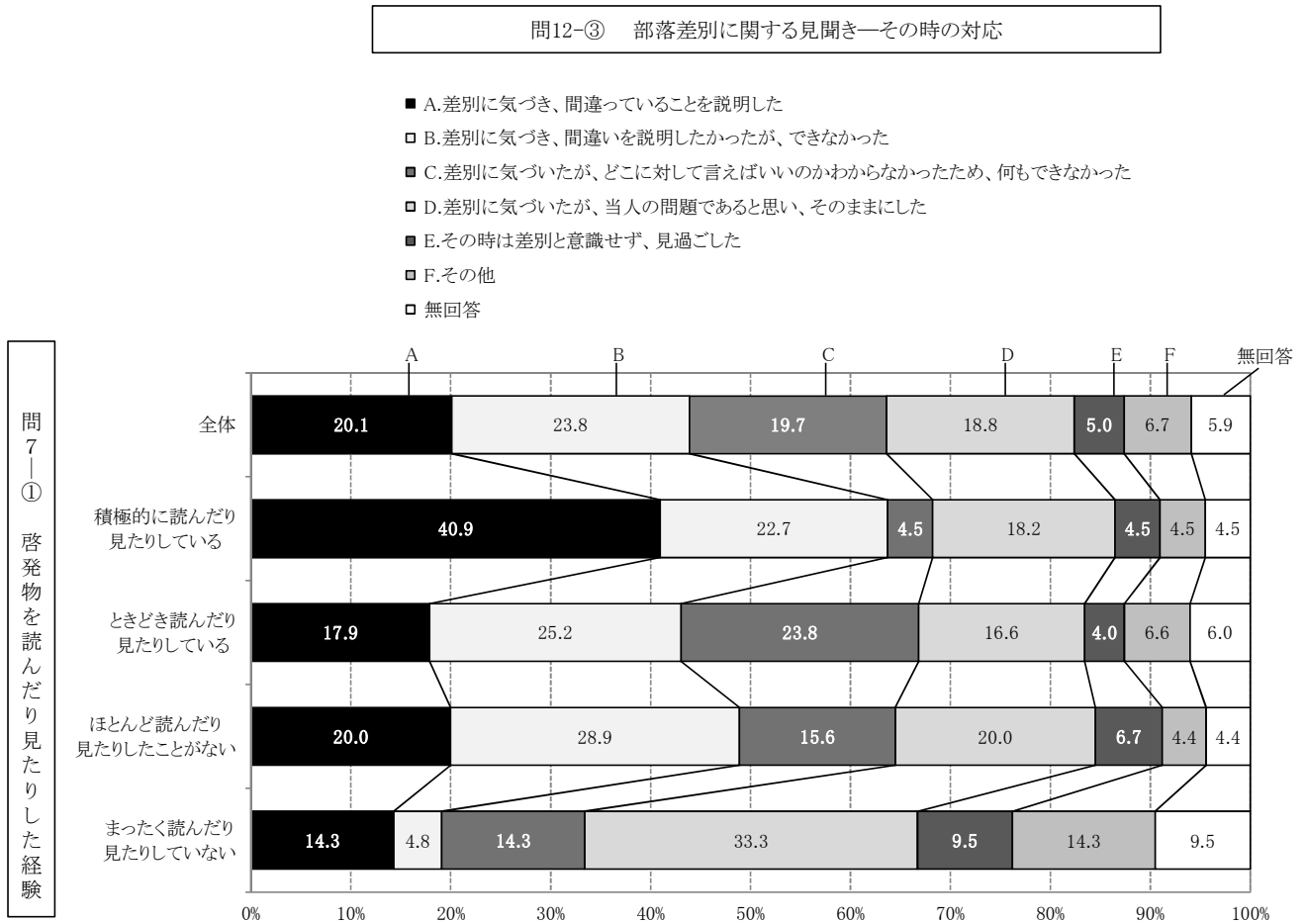
年齢別でみると〔図 12-6〕、30 歳代、50 歳代、60 歳代で、「A.差別に気づき、間違っていることを説明した」が 2 割を超え、他の年代よりも高い。

40 歳代では、「B.差別に気づき、間違いを説明したかったが、できなかった」が最も高くなっている。

【他の設問との関係】

〔図 12-7〕 問 12-③ 部落差別に関する見聞き—その時の対応 と

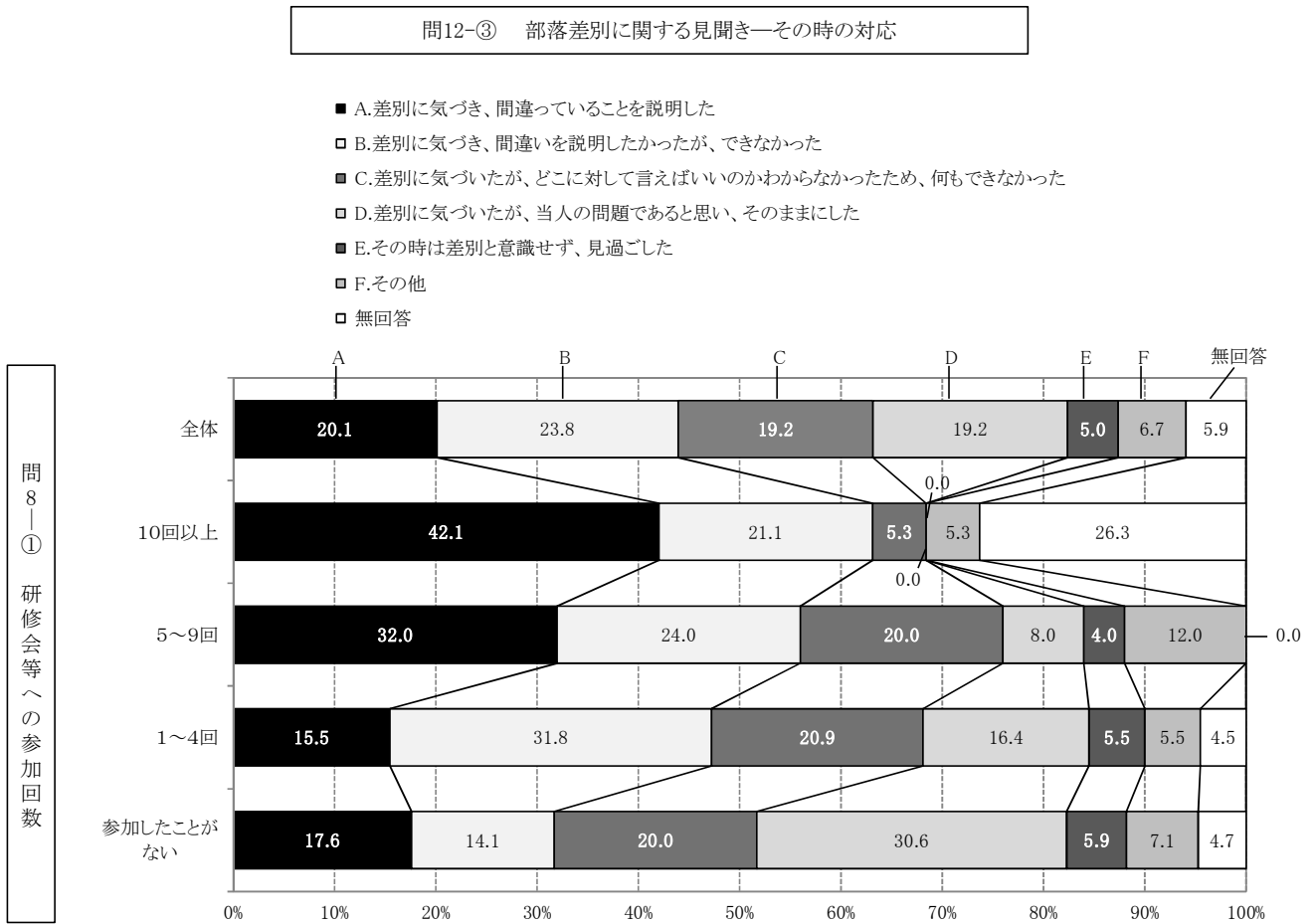
問 7-① 啓発物を読んだり見たりした経験 の関係



問 7-①(啓発物を読んだり見たりした経験)との関係では〔図 12-7〕、啓発物を「積極的に読んだり見たりしている」人では、「A.差別に気づき、間違っていることを説明した」(40.9%)が高くなっている。「まったく読んだり見たりしていない」人では、「D.差別に気づいたが、当人の問題であると思い、そのままにした」(33.3%)が高くなっている。

〔図 12-8〕 問 12-③ 部落差別に関する見聞き—その時の対応 と

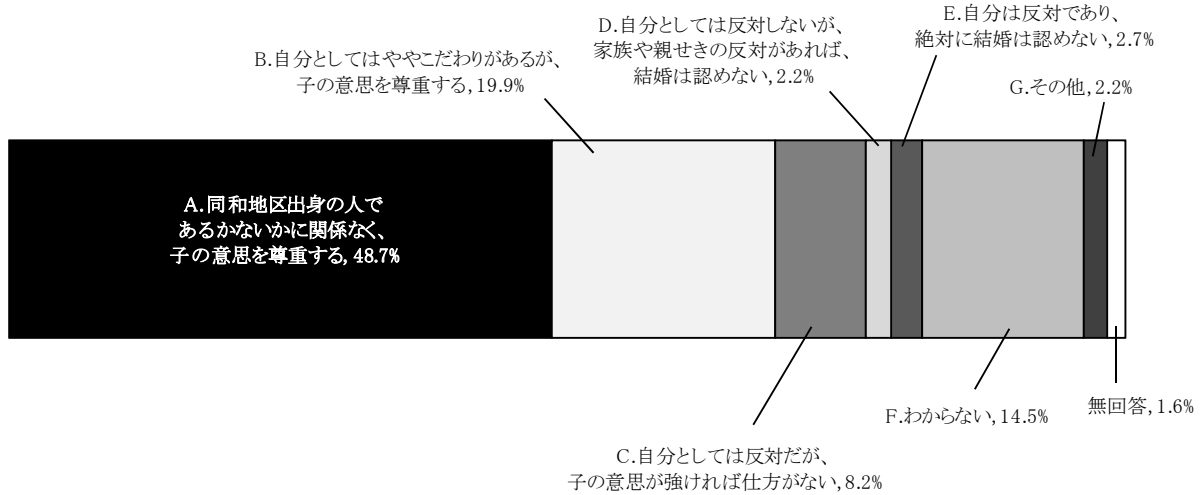
問 8-1 研修会等への参加回数 の関係



問8-①(研修会等への参加回数)との関係では〔図 12-8〕、研修会等への参加回数が10回以上ある人では、「A.差別に気づき、間違っていることを説明した」(42.1%)が高くなっている。参加したことがない人では、「D.差別に気づいたが、当人の問題であると思い、そのままにした」(30.6%)が高くなっている。

問 13 (結婚問題に対するあなたの対応)

あなたに未婚の子がいると仮定して、その子が同和地区出身の人と結婚しようとする場合、あなたはどのように対応しますか。(○は1つだけ)



■同和地区出身者との結婚について、「A.同和地区出身の人であるかないかに関係なく、子の意思を尊重する」(48.7%)が最も高い。次いで、「B.自分としてはややこだわりがあるが、子の意思を尊重する」(19.9%)となっており、結婚に肯定的な意見は合わせて 68.6%となる。

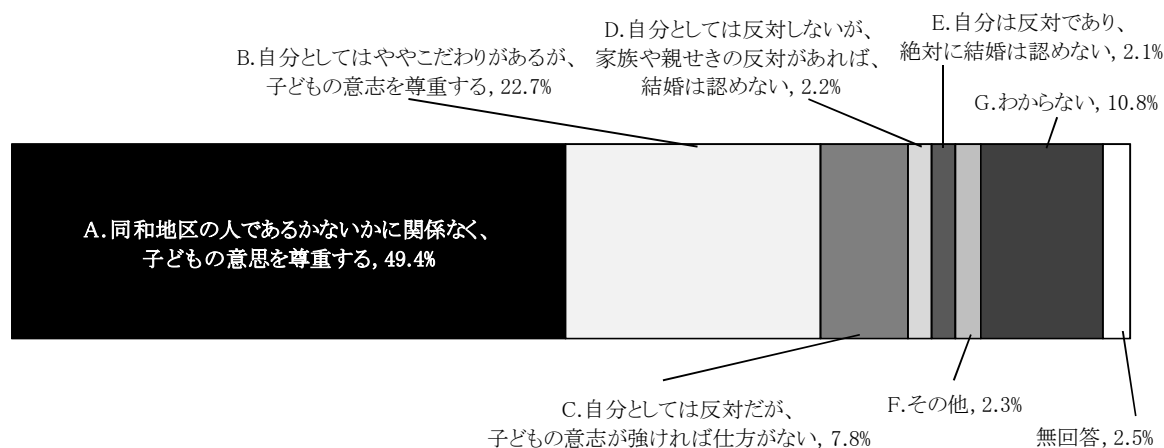
一方、「C.自分としては反対だが、子の意思が強ければ仕方がない」(8.2%)、「D.自分としては反対しないが、家族や親せきの反対があれば、結婚は認めない」(2.2%)、「E.自分は反対であり、絶対に結婚は認めない」(2.7%)となっており、結婚に否定的な意見は合わせて 13.1%となる。

「F.わからない」は、14.5%であった。

【参考】 ※設問文、選択肢の文言の一部が前回に比べて異なっているため、参考としてご参照ください。

前回調査(H23 鳥取県人権意識調査)

問 14 あなたは未婚のお子さんがあると仮定して、そのお子さんが同和地区出身の人と結婚しようとする場合、あなたはどのように対応しますか。(○は1つだけ)



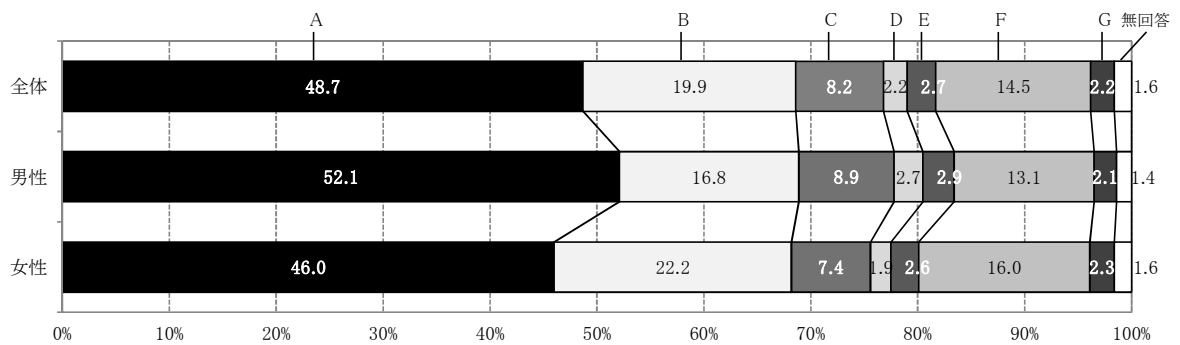
同和地区出身者との結婚について、「A.同和地区の人であるかないかに関係なく、子どもの意思を尊重する」(49.4%)が最も高い。次いで「B.自分としてはややこだわりがあるが、子どもの意思を尊重する」(22.7%)となっており、結婚に肯定的な意見は合わせて72.1%を占める。

一方「C.自分としては反対だが、子どもの意思が強ければ仕方がない」(7.8%)、「D.自分としては反対しないが、家族や親せきの反対があれば、結婚は認めない」(2.2%)、「E.自分は反対であり、絶対に結婚は認めない」(2.1%)となっており、結婚に否定的な意見は合わせて12.1%となっている。

【性別・年齢との関係】

〔図 13-1〕 問 13 結婚問題に対するあなたの対応 と 性別 の関係

- A.同和地区出身の人であるかないかに関係なく、子の意思を尊重する
- B.自分としてはややこだわりがあるが、子の意思を尊重する
- C.自分としては反対だが、子の意思が強ければ仕方がない
- D.自分としては反対しないが、家族や親せきの反対があれば、結婚は認めない
- E.自分は反対であり、絶対に結婚は認めない
- F.わからない
- G.その他
- 無回答

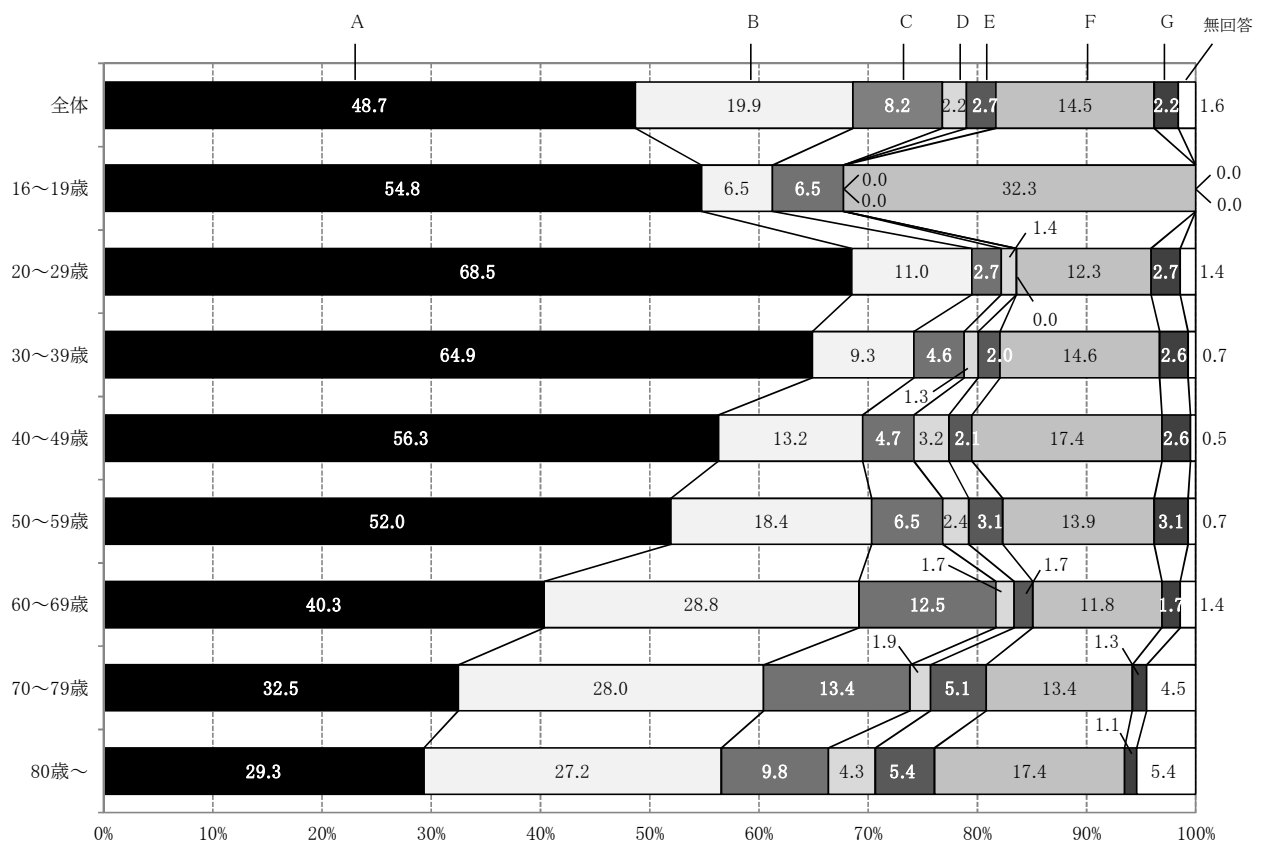


性別でみると〔図 13-1〕、男女ともに「A.同和地区出身の人であるかないかに関係なく、子の意思を尊重する」(男性 52.1%、女性 46.0%)が最も高く、その割合は男性の方が女性よりもやや高い。

「B.自分としてはややこだわりがあるが、子の意思を尊重する」は、男性よりも女性の方がやや高くなっている(男性 16.8%、女性 22.2%)。

〔図 13-2〕 問 13 結婚問題に対するあなたの対応 と 年齢 の関係

- A.同和地区出身の人であるかないかに関係なく、子の意思を尊重する
- B.自分としてはややこだわりがあるが、子の意思を尊重する
- C.自分としては反対だが、子の意思が強ければ仕方がない
- D.自分としては反対しないが、家族や親せきの反対があれば、結婚は認めない
- E.自分は反対であり、絶対に結婚は認めない
- F.わからない
- G.その他
- 無回答

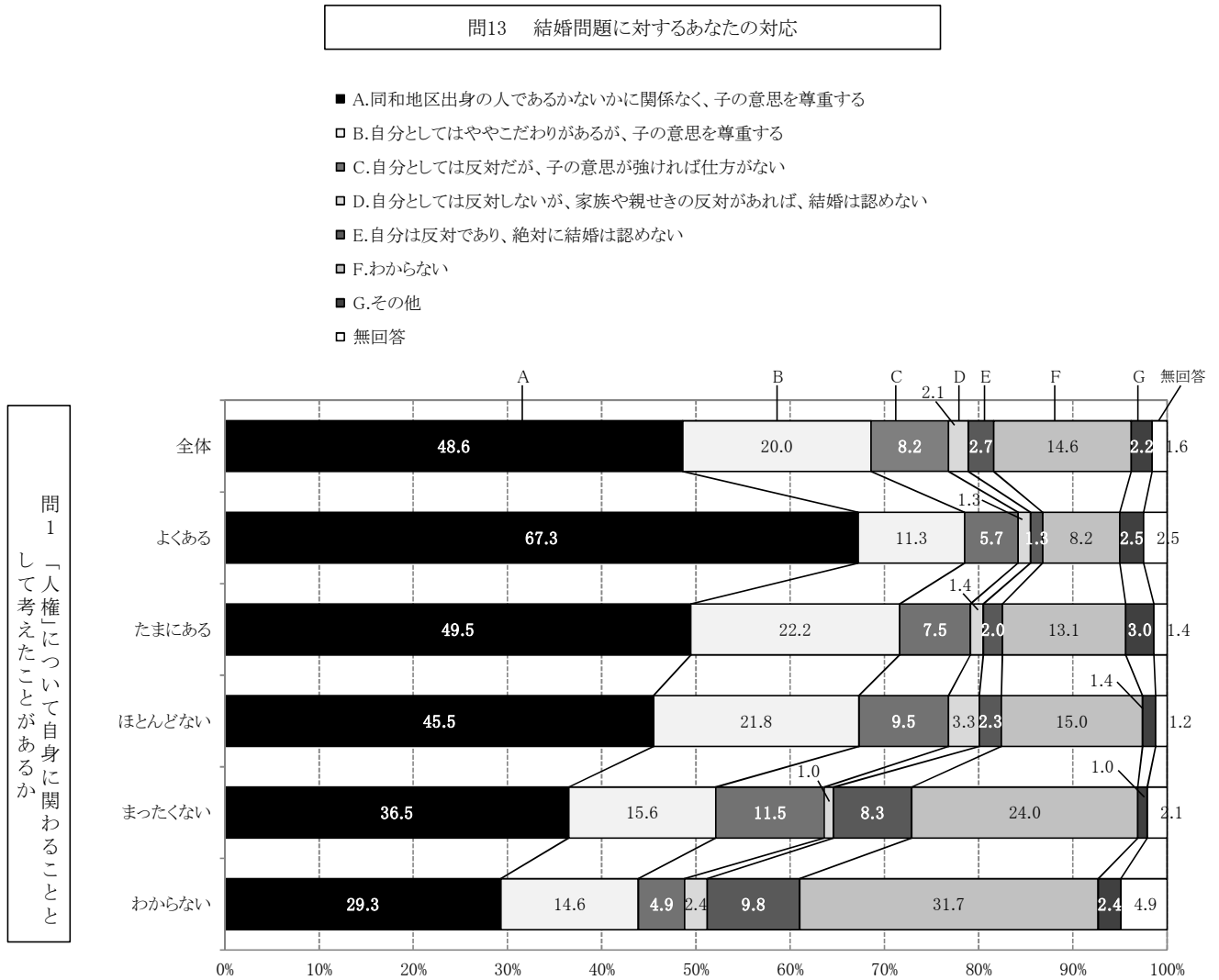


年齢別でみると〔図 13-2〕、男女ともに「A.同和地区出身の人であるかないかに関係なく、子の意思を尊重する」は、20 歳代(68.5%)、30 歳代(64.9%)、40 歳代(56.3%)、50 歳代(52.0%)、60 歳代(40.3%)、70 歳代(32.5%)、80 歳以上(29.3%)と年代が低いほど高くなっている。

【他の設問との関係】

〔図 13-3〕 問 13 結婚問題に対するあなたの対応 と

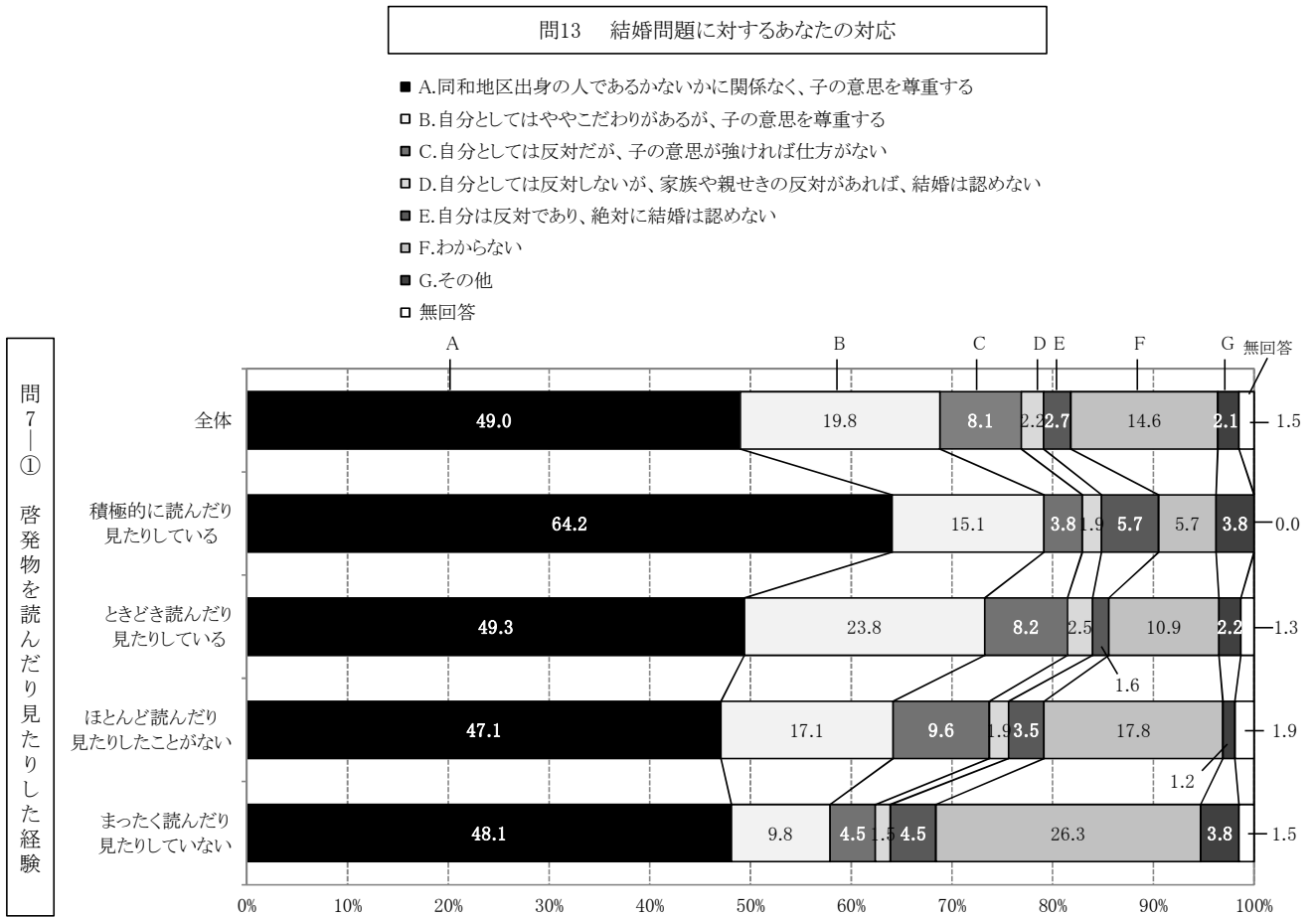
問 1 「人権」について自身に関わることとして考えたことがあるか の関係



問 1(「人権」について自身に関わることとして考えたことがあるか)との関係でみると〔図 13-3〕、自身について関わることとして考えたことがある人ほど、「A.同和地区出身の人であるかないかに関係なく、子の意思を尊重する」(67.3%)という回答の割合が高くなっている。

〔図 13-4〕 問 13 結婚問題に対するあなたの対応 と

問 7-① 啓発物を読んだり見たりした経験 の関係

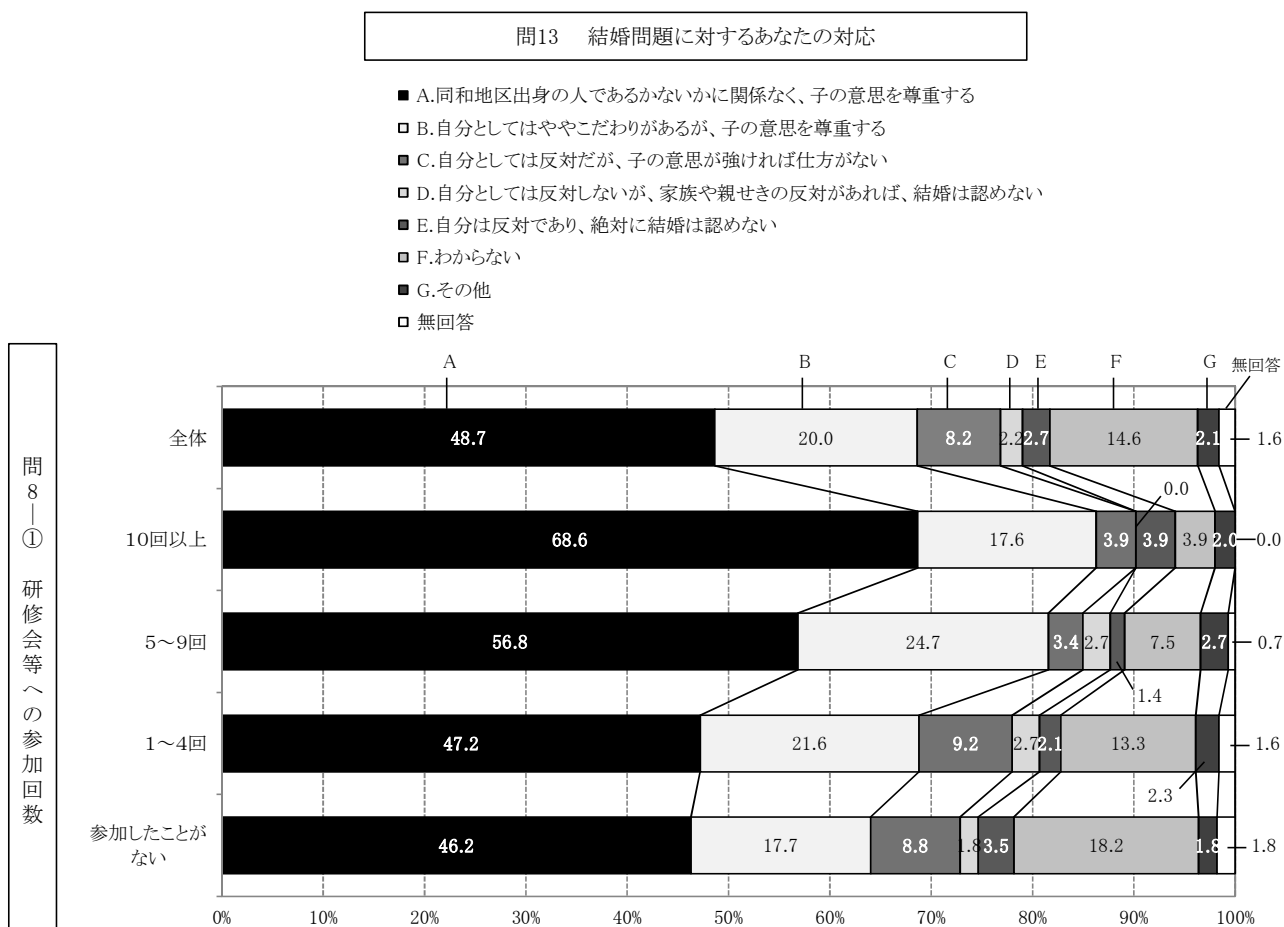


問 7-①(啓発物を読んだり見たりした経験)との関係でみると〔図 13-4〕、啓発物を読んだり見たりしている人では、「A.同和地区出身の人であるかないかに関係なく、子の意思を尊重する」(64.2%)という回答の割合が高くなっているが、同時に「E.自分は反対であり、絶対に結婚は認めない」(5.7%)という回答の割合も他と比べて高くなっている。

また、啓発物を「ほとんど読んだり見たりしたことがない」、「まったく読んだり見たりしていない」と回答した人ほど、「F.わからない」が高くなっている。

〔図 13-5〕 問 13 結婚問題に対するあなたの対応 と

問 8-① 研修会等への参加回数 の関係



問 8-①(研修会等への参加回数)との関係では〔図 13-5〕、研修会等への参加回数が多い人ほど、「A.同和地区出身の人であるかないかに関係なく、子の意思を尊重する」と回答した割合が高くなっている。

参加回数が少ない人ほど、「F.わからない」と回答した割合が高くなっている。

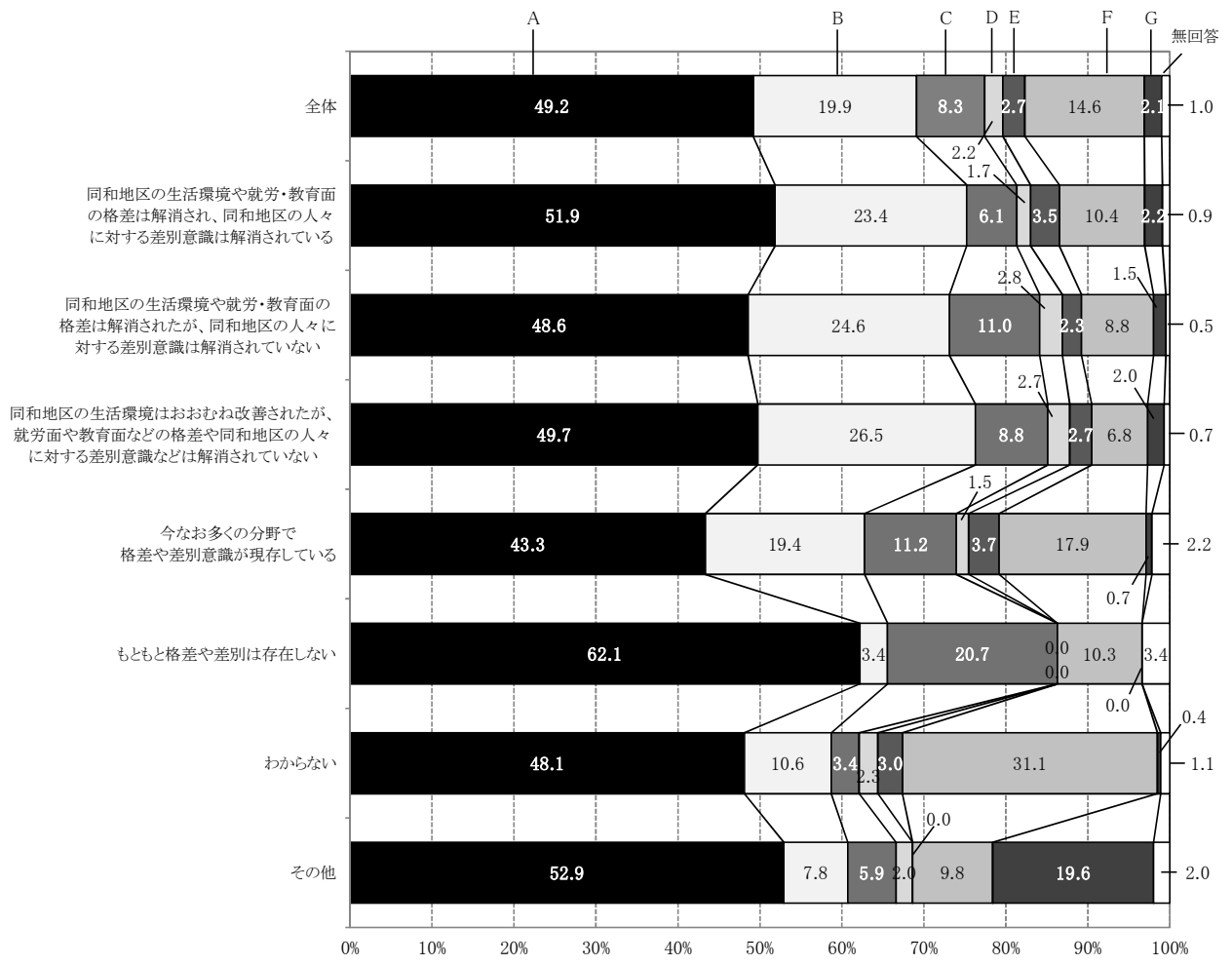
〔図 13-6〕 問 13 結婚問題に対するあなたの対応 と

問 11 部落差別の現状に対する考え

問13 結婚問題に対するあなたの対応

- A.同和地区出身の人であるかないかに関係なく、子の意思を尊重する
- B.自分としてはややこだわりがあるが、子の意思を尊重する
- C.自分としては反対だが、子の意思が強ければ仕方がない
- D.自分としては反対しないが、家族や親せきの反対があれば、結婚は認めない
- E.自分は反対であり、絶対に結婚は認めない
- F.わからない
- G.その他
- 無回答

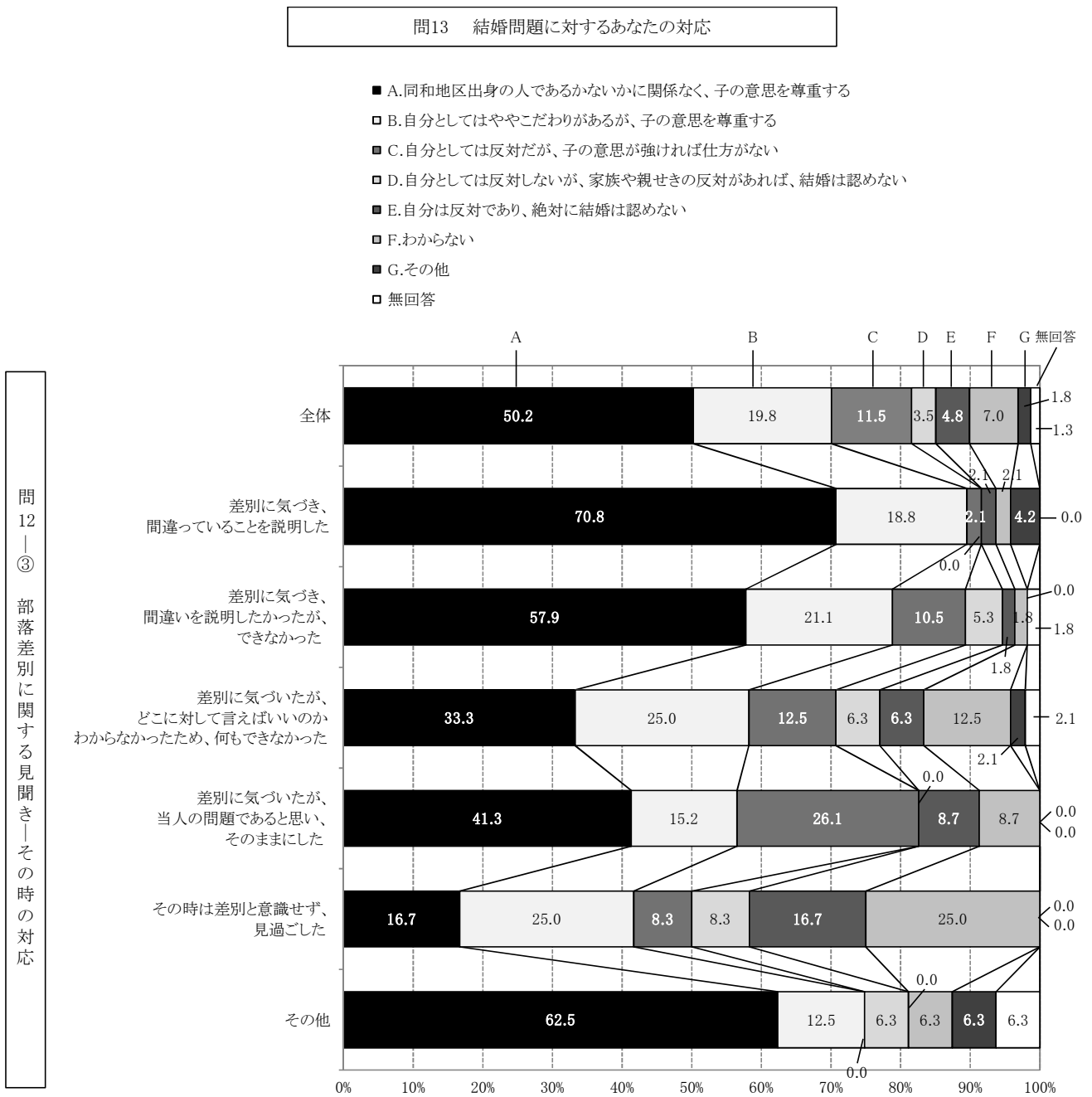
問 11 部落差別の現状に対する考え



問 11(部落差別の現状に対する考え)との関係では〔図 13-6〕、「もともと格差や差別は存在しない」と考えている人では、「A.同和地区出身の人であるかないかに関係なく、子の意思を尊重する」(62.1%)と回答した割合が高くなっている。

〔図 13-7〕 問 13 結婚問題に対するあなたの対応 と

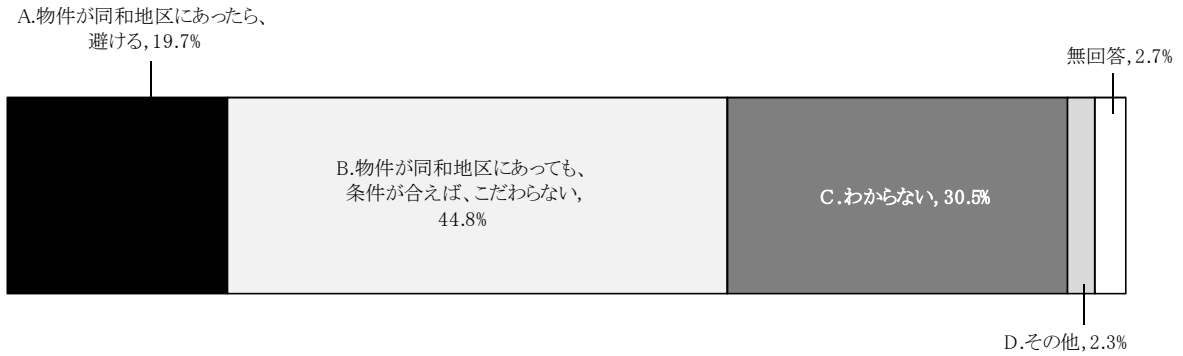
問 12-③ 部落差別に関する見聞き—その時の対応 の関係



問 12-③(部落差別に関する見聞き—その時の対応)との関係では〔図 13-7〕、「差別に気づき、間違っていることを説明した」人では、「A.同和地区出身の人であるかないかに関係なく、子の意思を尊重する」(70.8%)と回答した割合が高くなっている。

問 14 (同和地区にある物件に対する忌避意識)

あなたが、家を購入したり、マンションを借りたりするなど住宅を選ぶ際に、物件が同和地区にあった場合、どうすると思いますか。(○は1つだけ)

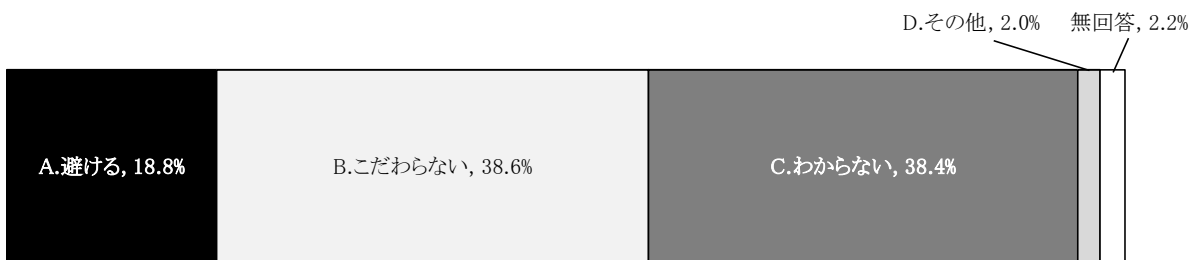


■同和地区の物件に対する忌避意識(避けようとする意識)について、「B.物件が同和地区にあつても、条件が合えば、こだわらない」が 44.8%と最も高いものの、「C.わからない」が 30.5%、また、忌避意識の「A.物件が同和地区にあつたら、避ける」が 19.7%となっている。

【参考】 ※設問文、選択肢の文言の一部が前回に比べて異なっているため、参考としてご参照ください。

前回調査(H23 鳥取県人権意識調査)

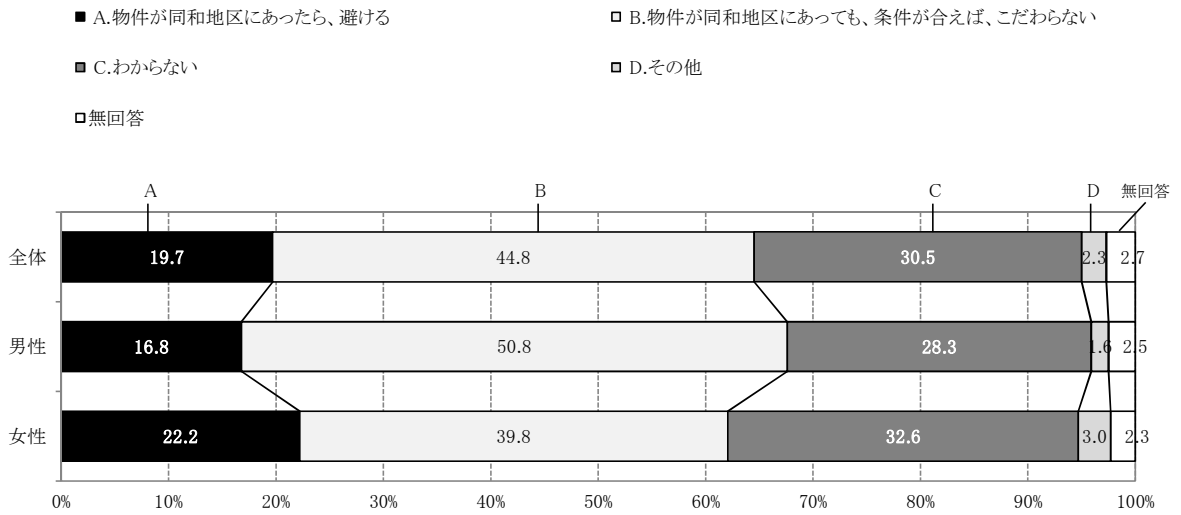
問 15 あなたが、家を購入したり、マンションを借りたりするなど住宅を選ぶ際に、同和地区にある物件を避けることがあると思いますか。(○は1つだけ)



同和地区の物件に対する忌避意識(避けようとする意識)について、「A.避ける」が 18.8%である一方、「B.こだわらない」は 38.6%となっている。

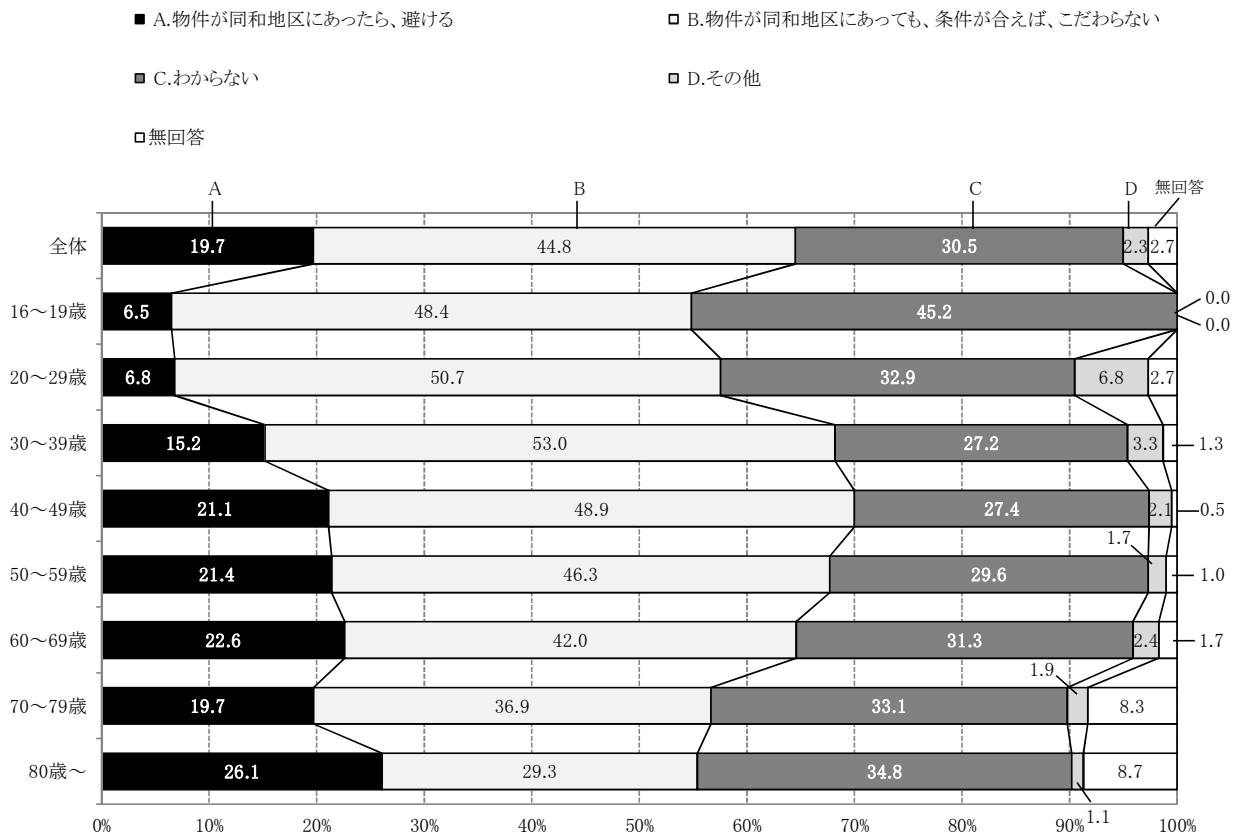
【性別・年齢との関係】

〔図 14-1〕 問 14 同和地区にある物件に対する忌避意識 と 性別 の関係



性別でみると〔図 14-1〕、「B.物件が同和地区にあっても、条件が合えば、こだわらない」と回答した人の割合は、男性 50.8%、女性 39.8%と、男性が高く、逆に、「A.物件が同和地区にあったら、避ける」では、女性 22.2%、男性 16.8%と、女性が高い。

〔図 14-2〕 問 14 同和地区にある物件に対する忌避意識 と 年齢 の関係



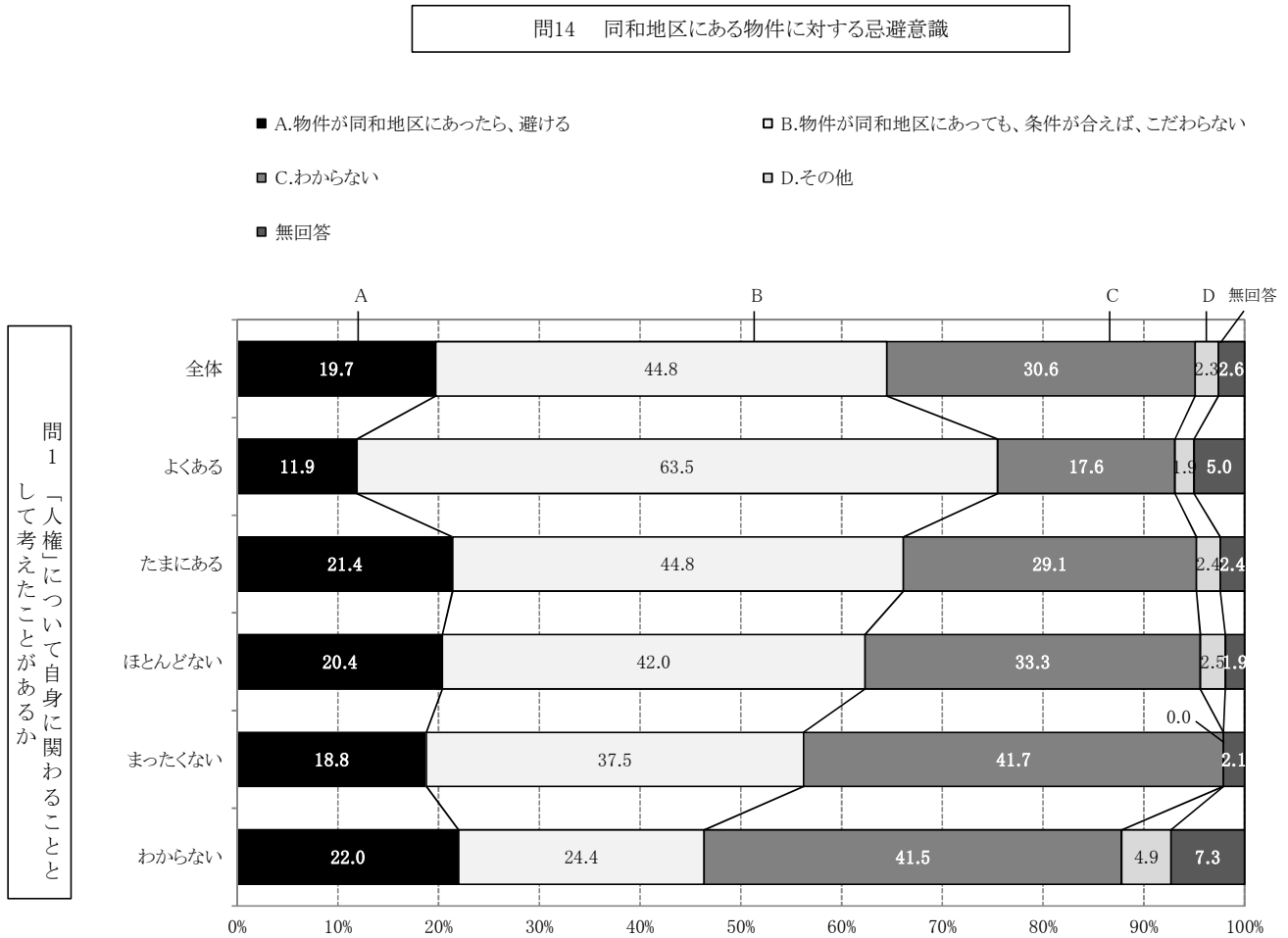
年齢別でみると〔図 14-2〕、40 歳代以上の各年代で約 2 割の人が、「A.物件が同和地区にあつたら、避ける」と回答している。

逆に、「B.物件が同和地区にあつても、条件が合えば、こだわらない」は、20 歳代、30 歳代では 5 割を超えている。

【他の設問との関係】

〔図 14-3〕 問 14 同和地区にある物件に対する忌避意識 と

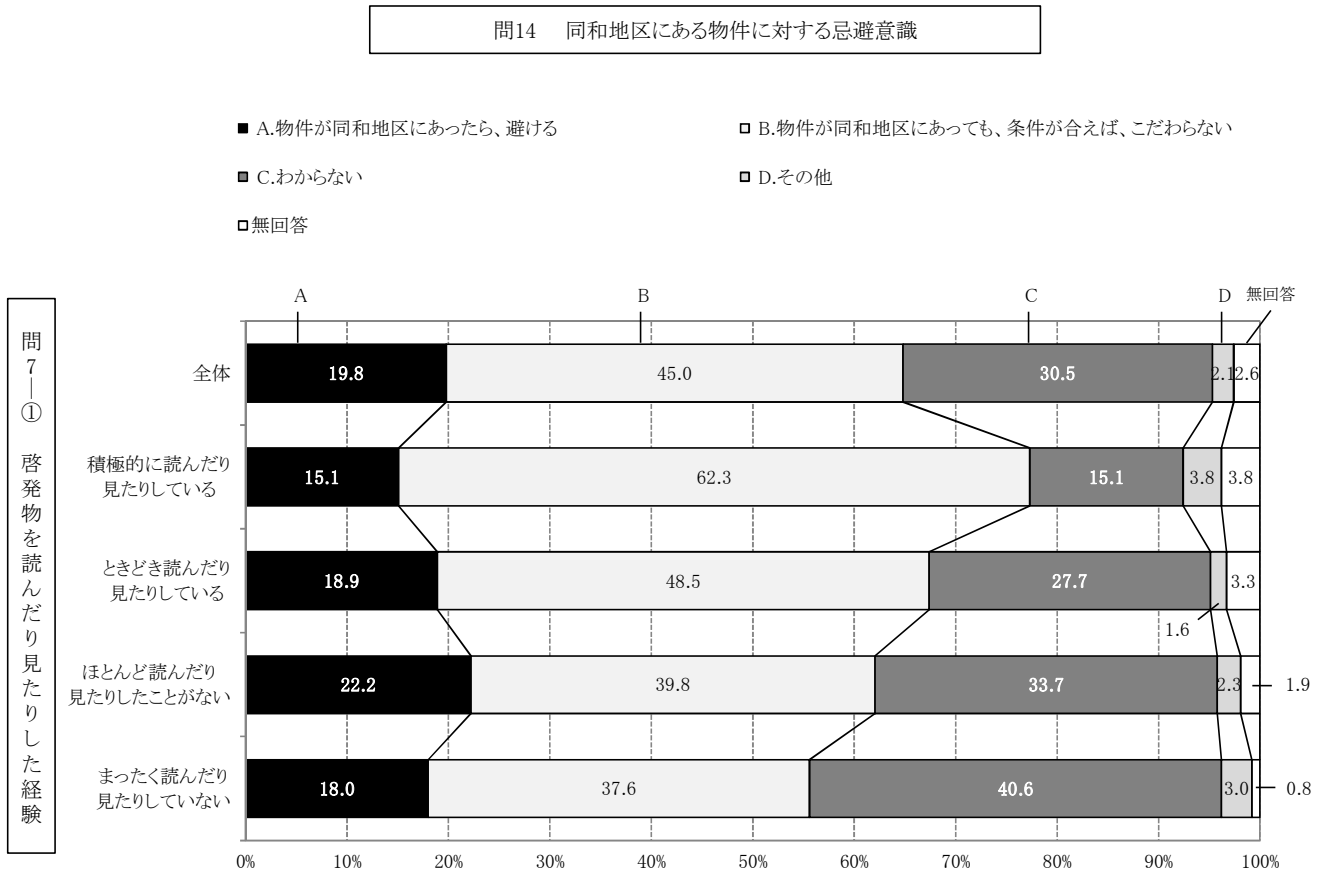
問 1 「人権」について自身に関わることとして考えたことがあるか の関係



問 1(「人権」について自身に関わることとして考えたことがあるか)との関係でみると〔図 14-3〕、自身に関わることとして考えたことのある人ほど、「B.物件が同和地区にあっても、条件が合えば、こだわらない」が高くなっている。

〔図 14-4〕 問 14 同和地区にある物件に対する忌避意識 と

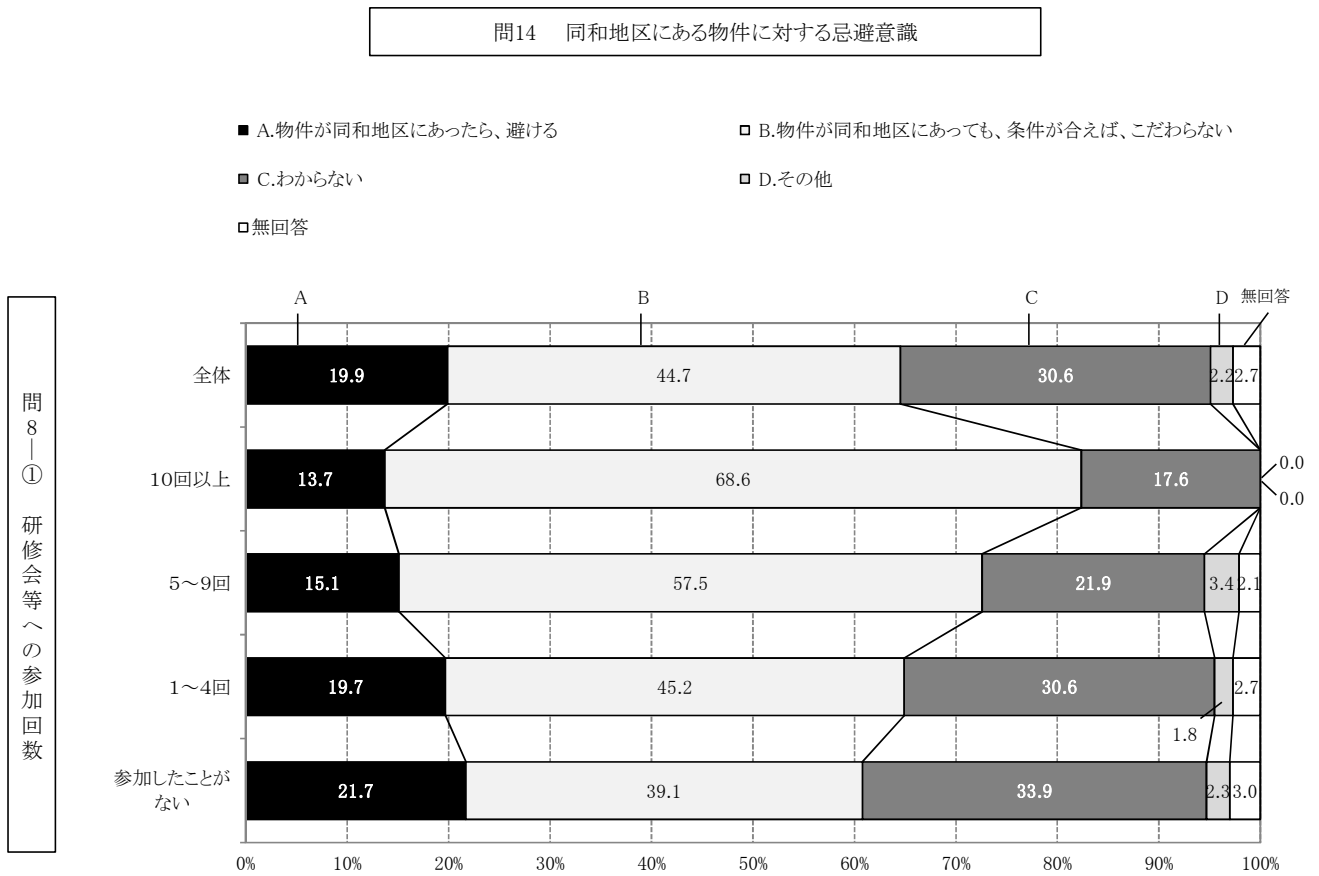
問 7-① 啓発物を読んだり見たりした経験 の関係



問 7-①(啓発物を読んだり見たりした経験)との関係でみると〔図 14-4〕、啓発物を読んだり見たりしている人ほど、「B.物件が同和地区にあつても、条件が合えば、こだわらない」が高く、読んだり見たりしていない人ほど、「F.わからない」が高くなっている。

〔図 14-5〕 問 14 同和地区にある物件に対する忌避意識 と

問 8-① 研修会等への参加回数 の関係

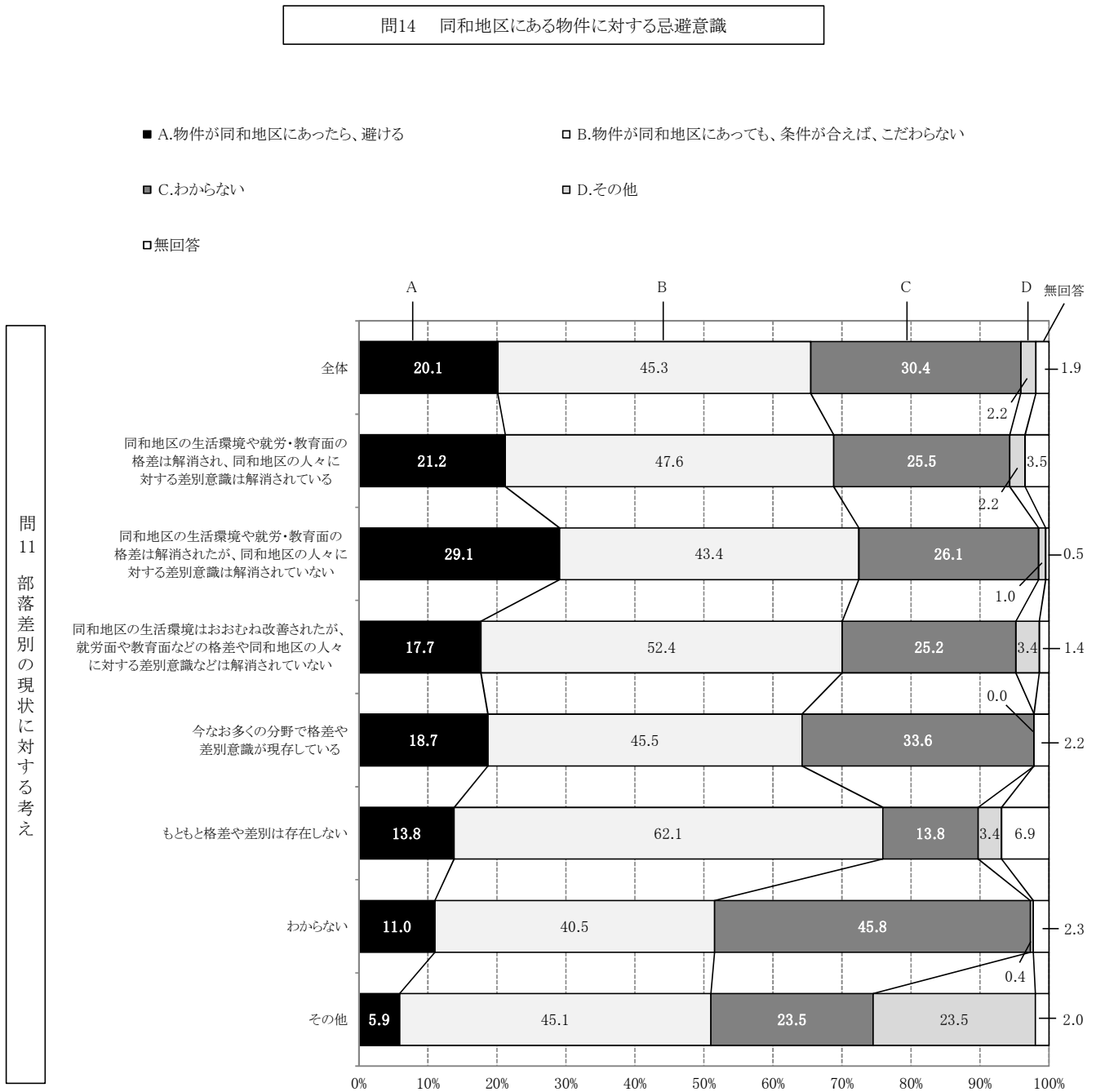


問 8-①(研修会等への参加回数)との関係では〔図 14-5〕、研修会等への参加回数が多い人ほど、「B.物件が同和地区にあつても、条件が合えば、こだわらない」が高く、10 回以上参加している人では約 7 割に上る。

また、参加回数が少ない人ほど、「A.物件が同和地区にあつたら、避ける」が高くなっている。

〔図 14-6〕 問 14 同和地区にある物件に対する忌避意識 と

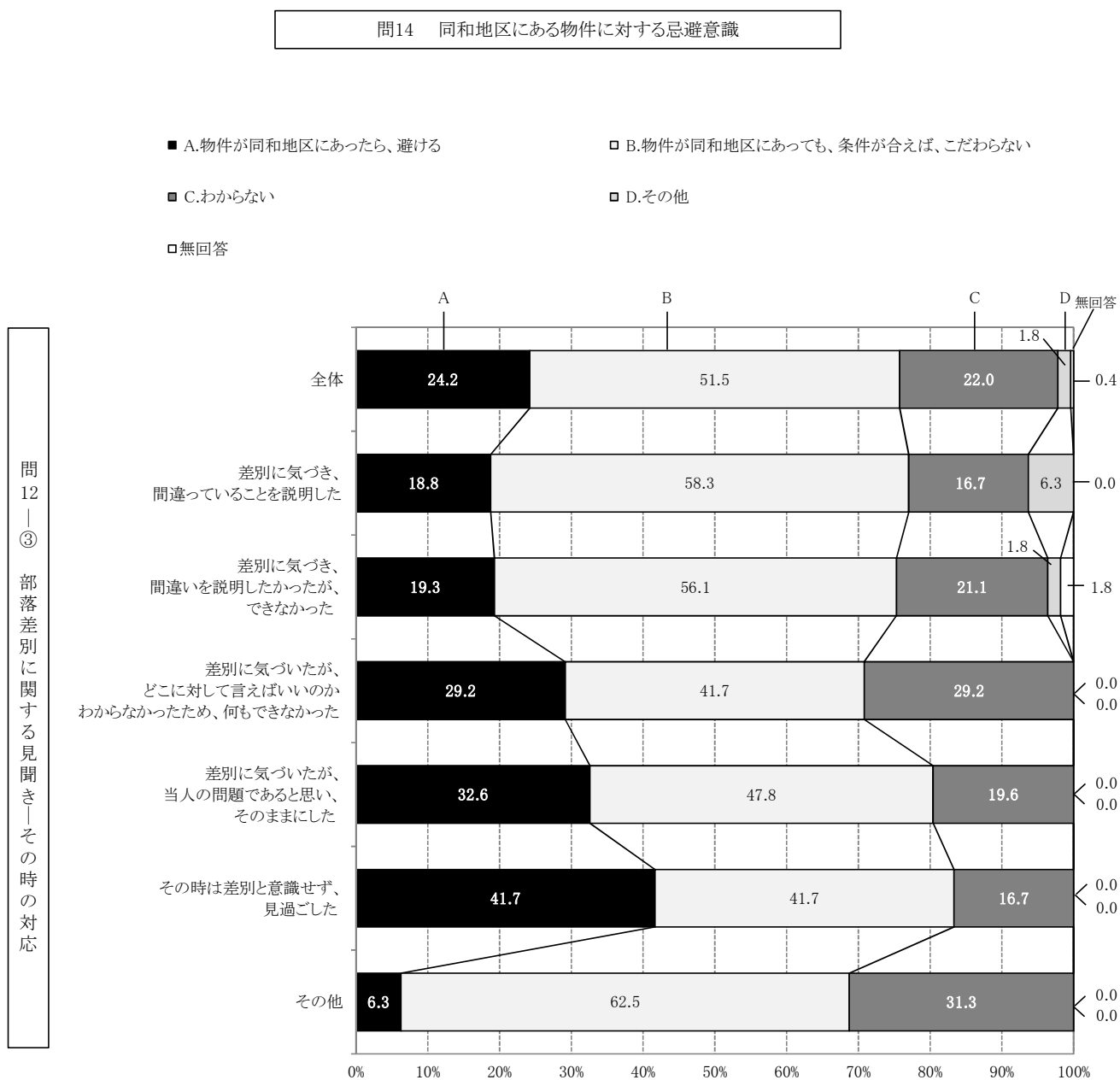
問 11 部落差別の現状に対する考え



問 11(部落差別の現状に対する考え)との関係では〔図 14-6〕、「もともと格差や差別は存在しない」と考えている人では、「B.物件が同和地区にあつても、条件が合えば、こだわらない」と回答した割合が最も高くなっており、「A.物件が同和地区にあつたら、避ける」、「C.わからない」との回答は他に比べ低くなっている。

〔図 14-7〕 問 14 同和地区にある物件に対する忌避意識 と

問 12-③ 部落差別に関する見聞き—その時の対応 の関係

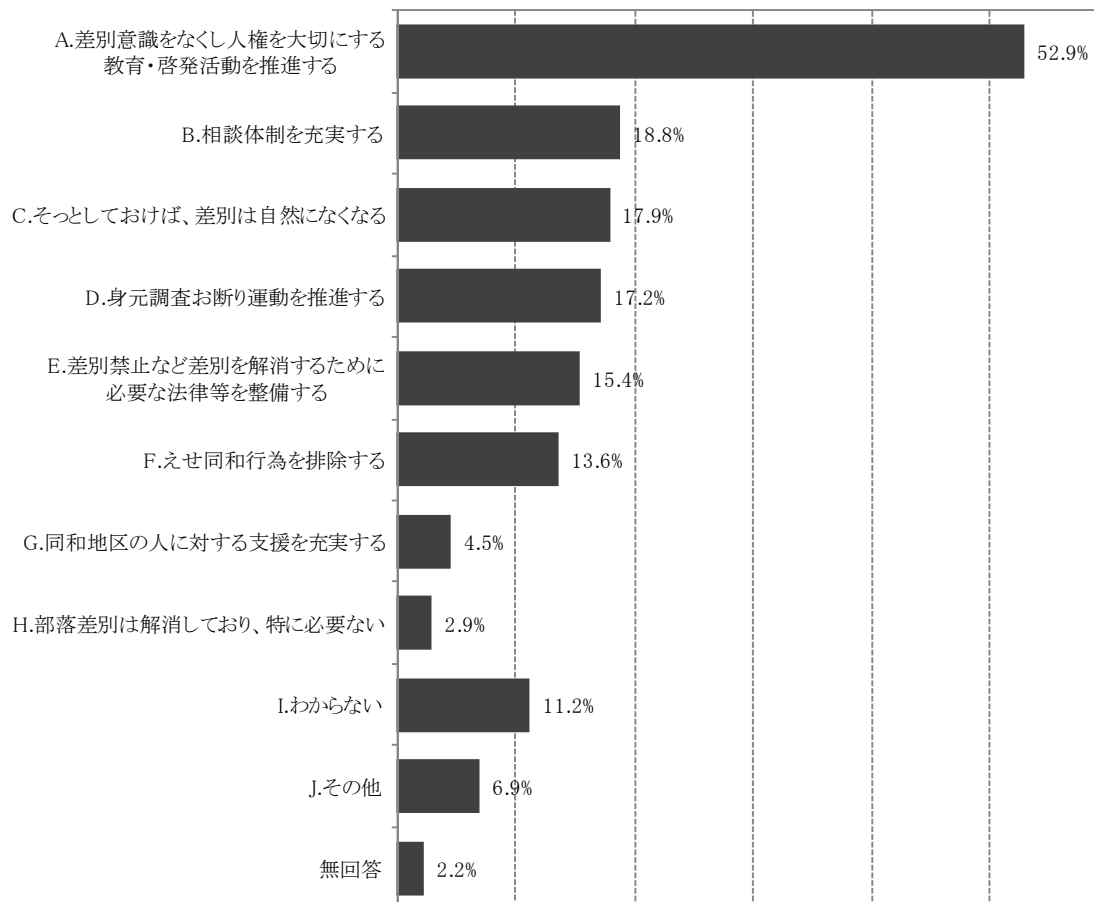


問 12-③(部落差別に関する見聞き—その時の対応)との関係では〔図 14-7〕、「A.差別に気づき、間違っていることを説明した」人では、「A.物件が同和地区にあつたら、避ける」(18.8%)と回答した割合が最も低く、「B.物件が同和地区にあつても、条件が合えば、こだわらない」(58.3%)と回答した割合が最も高くなっている。

問 15 (部落差別の解消のために必要な取組み)

あなたは、部落差別を解消するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。

(○は3つ以内)

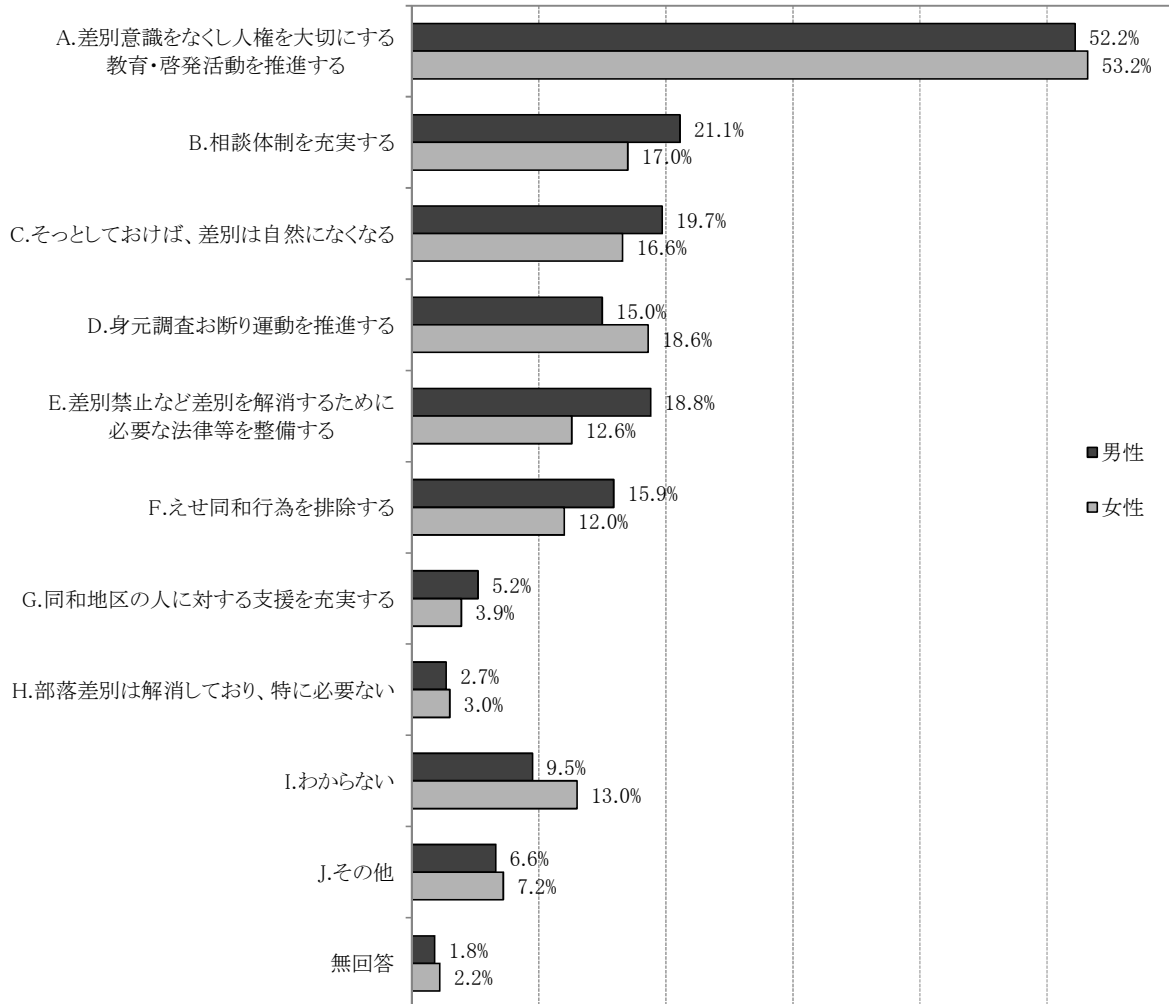


■部落差別を解消するために必要と思う取組は、「A.差別意識をなくし人権を大切にする教育・啓発活動を推進する」(52.9%)が最も高く、次いで、「B.相談体制を充実する」(18.8%)、「C.そっとしておけば、差別は自然になくなる」(17.9%)、「D.身元調査お断り運動を推進する」(17.2%)となっている。「I.わからない」は、11.2%であった。

※前回調査なし

【性別・年齢との関係】

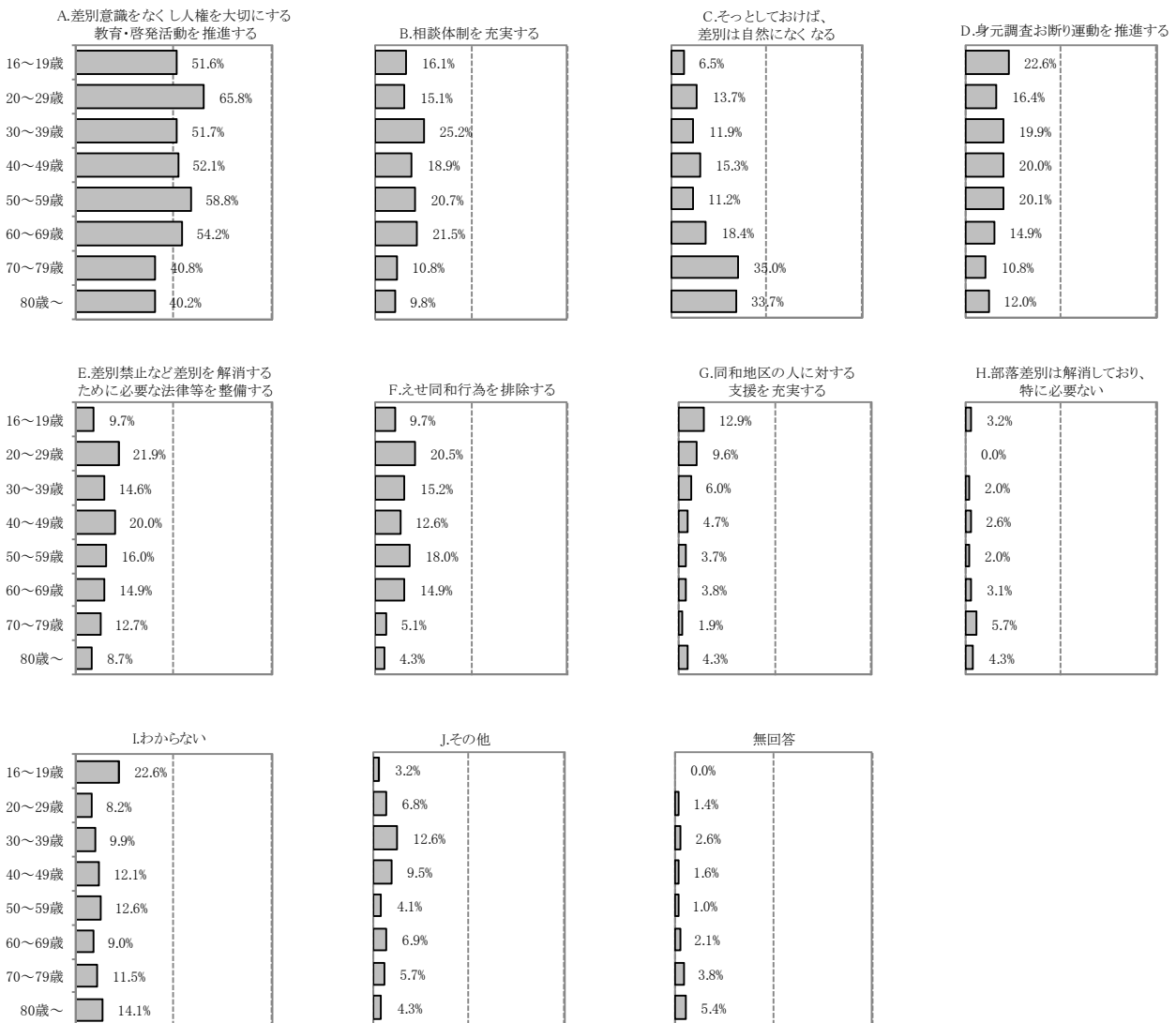
〔図 15-1〕 問 15 部落差別の解消のために必要な取組み と 性別 の関係



性別で見ると〔図 15-1〕、「B. 相談体制充実する」、「C. そっとしておけば、差別は自然になくなる」、「E. 差別禁止など差別を解消するために必要な法律等を整備する」、「F. えせ同和行為を排除する」では、男性の方が大幅に高くなっている。

「D. 身元調査お断り運動を推進する」、「I. わからない」では、女性の方が大幅に高くなっている。

〔図 15-2〕 問 15 部落差別の解消のために必要な取組み と 年齢 の関係



年齢別で見ると〔図 15-2〕、16～19 歳から 60 歳代までは、5 割以上の人が、「A.差別意識をなくし人権を大切に
する教育・啓発活動を推進する」と答えているのに対し、70 歳以上では、4 割にとどまる。

一方、「C.そっとしておけば、差別は自然になくなる」は、70 歳以上(35.0%)、80 歳以上(33.7%)で、他の年
代よりも大幅に高い。